

平成25年度
岡山市ESD・ユネスコスクール推進事業

藤田地区ESD・ユネスコスクール

研究集録

～地域に学び 未来を切り拓く 藤田の子～



第3集

目 次

1 はじめに

岡山市立藤田中学校 校長 池葉須 智之	1
------------------------	---

2 取組

藤田地区E S Dの取組	2
--------------	---

岡山市立第一藤田小学校

○ユネスコスクール事業報告	7
○E S Dの概要	9
○各学年E S Dカレンダー	15
○活動実践	25

岡山市立第二藤田小学校

○ユネスコスクール事業報告	33
○E S Dの概要	35
○各学年E S Dカレンダー	39
○活動実践	46

岡山市立第三藤田小学校

○ユネスコスクール事業報告	63
○E S Dの概要	65
○各学年E S Dカレンダー	75
○活動実践	81

岡山市立藤田中学校

○ユネスコスクール事業報告及びE S Dの概要	93
○活動実践	95
○E S Dカレンダー	102

岡山県立興陽高等学校

○活動実践	111
-------	-----

岡山市立藤田公民館

○活動実践	113
-------	-----

3 おわりに

岡山市立第一藤田小学校 校長 重歳 基	115
------------------------	-----



はじめに

ESDとは、社会の課題と身近な暮らしを結びつけ、新たな価値観や行動を生み出すことを目指す学習や活動です。たとえば、持続不可能な社会の課題を知り、その原因と向き合う。それらを解決するためにできることを考え、実際に行動する。そのような経験を通じて、社会の一員としての認識や行動力が育まれる。また、豊かな自然と命のつながりを感じたり、地域に根ざした伝統文化や人々とふれあいながら、人と自然、人と人との共存や多様な生き方を学ぶといったことも、ESDのアプローチの一つになると思います。

近年学校現場では、新学習指導要領に規定されているように、持続可能な社会の構築の観点からの指導展開が求められています。たとえば、小学校家庭科において、持続可能な社会の構築など社会の変化に対応して、主体的に生きる消費者としての態度を育成することや、中学校理科において、自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について科学的に考察し、持続可能な社会をつくることの重要性を認識することなどのように、各教科等の特質等に応じたESDの実践が期待されています。そこで、まず各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等々の教育活動を有機的、有効的に結びつけ、学年や年間の枠組みを見直すために、小学校1年生から中学校3年生に渡る9年間のESDカレンダーの作成を考えました。これにより学年の縦の関係と、各教科と特別活動の横の関係の中で、ESDの活動が学年や月ごとにどのように展開すればよいかを明確にできたのではないのでしょうか。

2014年の秋、岡山市で「ESDユネスコ世界会議」が開かれます。これは2005年から世界中で取り組まれてきた「国連持続可能な開発のための教育の10年」の成果をまとめる会議で、世界中からESD関係者が岡山に集まり、その実践報告や今後の課題などについて話し合う世界会議です。

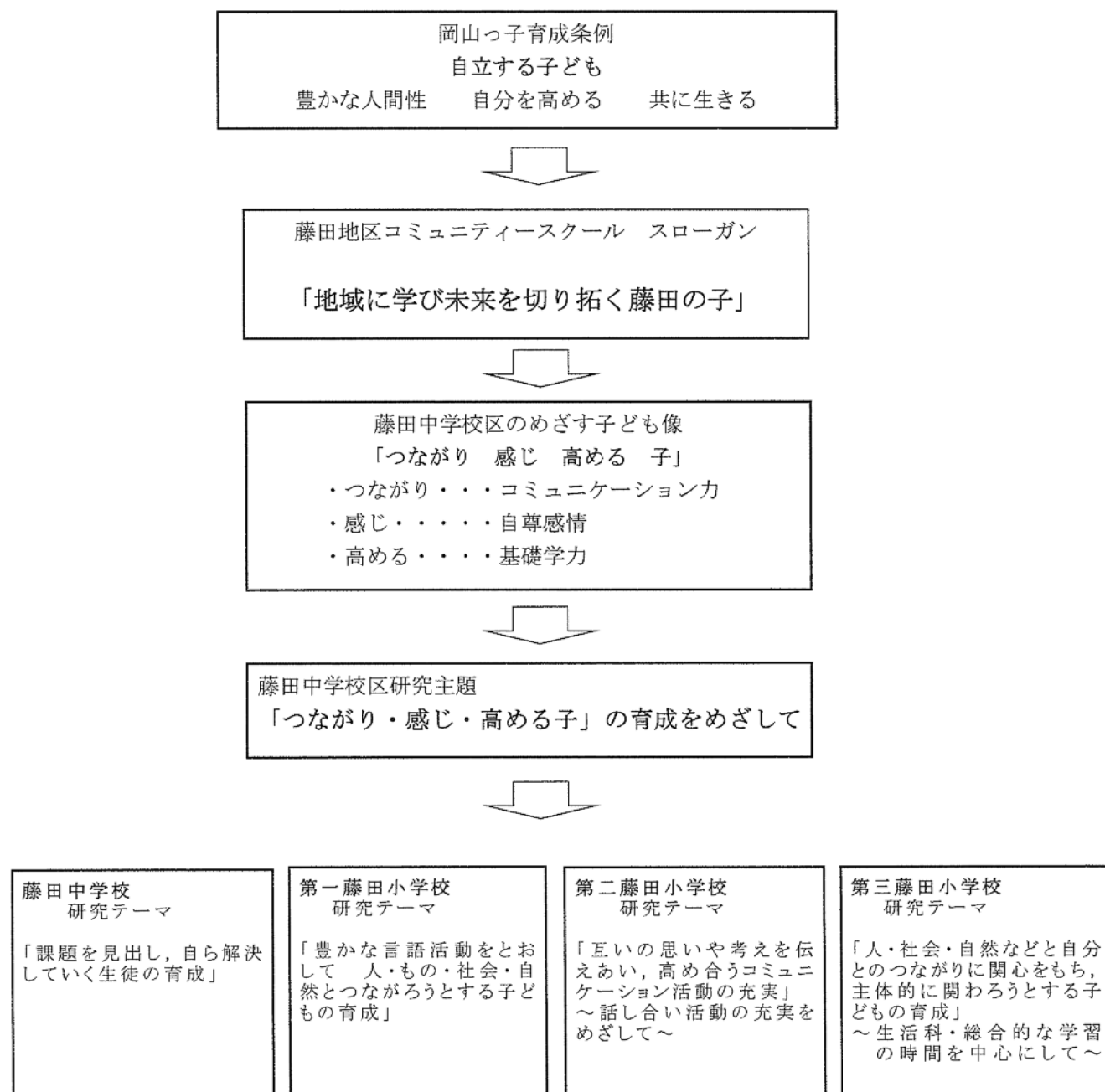
同時開催の愛知会場では主に政府関係者の会議が開かれるのに対して、ここ岡山会場では世界中の「ユネスコスクール」から生徒（高校生）や教師が集まってくるところに特徴があり、世界の若者たちの生の声を集めて、未来の世界についてディスカッションを行う。これが岡山での世界会議イメージになるのではないかと思います。本藤田地区でもESDの実践を始めてはや6年を終えようとしています。本藤田学区が2014年以降、何ができるのか考え、動き始めるよい機会でもあります。地域の豊かな人的・物的資源をさらに有効に活用し、これからの次代を担う子どもたちを、「地域に学び未来を切り拓く藤田の子」を合い言葉に地域の皆様方と共に育んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、大変貴重なご指導・ご助言をいただきました多くの方々、そして研究推進並びに授業実践に当たってくださいました各学校の先生方に対しまして、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

藤田地区ESD地域連絡会事務局
岡山市立藤田中学校
校長 池葉須 智之

藤田地区 ESD の取組

1 研究構造図



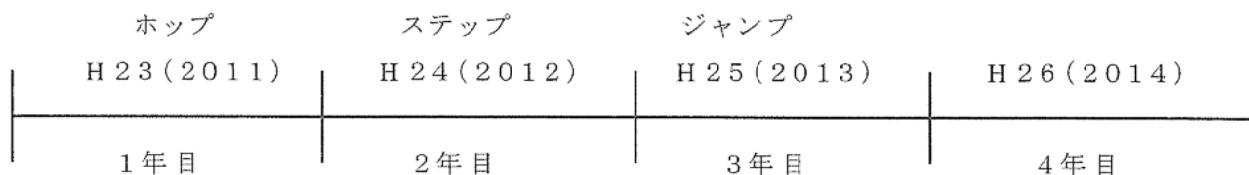
☆「つながり」とは・・・コミュニケーション力、たてと横のつながり

人と、地域と、自然と、社会とのつながり

☆「感じ」とは・・・自分で考える思考力、判断力、自分のよさ、友だちのよさ

☆「高める」とは・・・基礎学力をもとに、課題を発見・深めること

2 研究の経過と計画



研究の方向と内容を探る。 研究の方向と内容を見直し、研究内容を定め実践する。

- ・ 単元構想づくり
- ・ 研究授業
- ・ 育みたい力作成

- ・ 単元構想見直し
- ・ 育みたい力見直し
- ・ ESDカレンダー作成
- ・ 授業研究
- ・ 実践発表会
- ・ 研究のまとめ

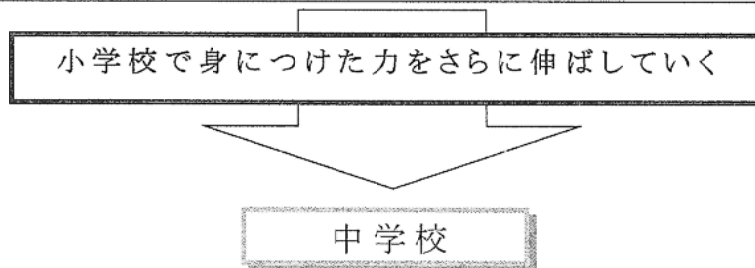
- ・ 単元構想見直し
- ・ 育みたい力見直し
- ・ ESDカレンダー見直し
- ・ 授業研究
- ・ 実践発表会
- ・ 研究のまとめ

- ・ 育みたい力の縦の系統
- ・ ESDカレンダーの見直し
- ・ 授業研究
- ・ 実践発表会
- ・ 研究のまとめ

----- いきいき学校園 ----- ESD国際会議
ESD全国大会

3 藤田地区3小学校共通認識

学年	共通テーマ	めざす子ども像(もたせたい考え)	育みたい力
3年	藤田のお宝をさがそう	藤田にはいいところやすごい人がいることに気づくことができる。	かかわる力
4年	ゴミって何?	人や自然を大切にする思いをもつことができる。	コミュニケーション力
5年	藤田に農業は必要か?	藤田に愛着や誇りをもつことができる。	課題解決力
6年	幸せって何?	多様な価値観を知り、自分の生活をふり返ることができる。	実践力



※実態等に合わせて、各小学校でせまる方法や活動は工夫する。

平成25年度 藤田中学校区ESD活動
「地域を見て、知って、考えて、行動する。」プロジェクト

<p>1. 活動内容</p> <p>4月: 担当者・教務主任・研究主任連絡会</p> <p>5月: 第1回藤田地区ESD全体会・総会・各校ユネスコスクール予算編成</p> <p>6月: 各小学校4年生菜の花プロジェクト参加(興陽高校) 各小学校5年生アヒル農法見学(興陽高校)</p> <p>8月: 第2回藤田地区ESD全体会・担当者会(ウエルポート) 担当者・5年担任・興陽高校・岡山大学フィールドワーク打合せ</p> <p>10月: 5年生フィールドワーク(協力: 興陽高校・岡山大学)</p> <p>11月: ユネスコスクール全国大会(東京多摩市)</p> <p>12月: 藤田ふれあい祭において取組の紹介(JA藤田) 藤田公民館で各校の取組資料掲示紹介(藤田公民館) 担当者会(第三藤田小)</p> <p>2月: 藤田地区ESD実践発表会(藤田公民館)</p> <p>3月: 担当者会</p>
<p>2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ</p> <p>○各小中学校で迫る方法や活動は工夫するが、「もたせたい考えやつけたい力」はそろえる。</p> <p>【共通テーマ】:【めざす子ども像(もたせたい考え)】:【単元でつけたい力】</p> <p>3年生: 藤田のお宝をさがそう: 藤田のいいところやすごい人に気付く: かかわる力</p> <p>4年生: ゴミって何?: 人や自然を大切にする: コミュニケーション力</p> <p>5年生: 藤田に農業は必要か?: 藤田に愛着や誇りをもつ: 課題解決力</p> <p>6年生: 幸せて何?: 多様な価値観を知り、自分の生活を振り返る: 実践力</p> <p>○単元構想・つけたい力の見直しを行う。</p> <p>○全校ESDカレンダーの見直し。</p> <p>○授業実践・研究授業をお互いに連絡し公開する。</p> <p>○研究のまとめを作成。</p> <p>○児童生徒による地域への発表会(藤田地区ESD実践発表会)の実施。</p>
<p>3. 取り組みの成果</p> <p>○各校でESDカレンダーを作成したことで、他学年との関連や他教科との関連といった縦と横のつながりに気づくことができた。</p> <p>○本年度も藤田地区全体の発表会を開催することができ、日頃からお世話になっている地域の方へ、児童生徒自らが実践してきたことや感じたことを発表し伝えることができた。地域の方からも、多くの方から、温かい言葉をいただき、学校へさらなるご支援をくださると言ってくれました。また、子どもたち同士お互いに何をしていたのかを聞くことができた上、地域の方からの多くの励ましでさらなる意欲へとつなげることができた。参加していた教職員も同様である。</p>

岡山市立第一藤田小学校



岡山市立第一藤田小学校

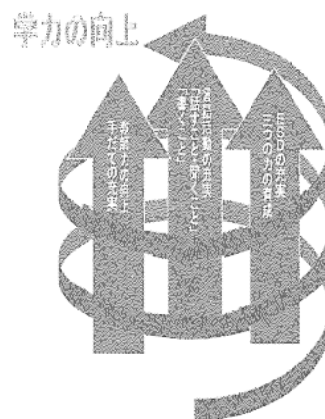
1 本校のESDの特徴

本校では、「藤田という地域の持続可能性を考えることを通して、子どもたちが総合的・多面的に考え行動していくことのできるような普遍的な力を身につけさせる」ことを長期目標として、同じ中学校区の3小学校、中学校、農業科のある高校と岡山大学で連携をはかり活動に取り組んでいる。また、中学校区ESDでめざす子ども像「つながり 感じ 高める子」に近づけるために、3小学校で各学年の共通テーマを決め、合同で教職員研修をして実践してきた。地域に愛着を持ち、地域のために活動できる児童の育成をめざして、生活科や総合的な学習の時間を中心に、様々な立場の人々と共に学習に取り組んだり、地域住民と一緒に学んだりする学習活動を工夫している。

児童は、ESDの活動を行うことで、地域の方をはじめとする様々な人たちとコミュニケーションをとりながら交流や学習を深めていく。分かったことや気づいたことを表現したり、それを交流したりすることを通して、さらに深い気づきや理解が得られる。ところが、話したり聞いたりする力が弱かったり、書く力が育っていなかったりするために、十分なコミュニケーションを図ることができず、交流の質が高まらない様子も見られた。

人・もの・社会・自然についての理解を深め、よりよい社会の担い手として、自ら考え実践することができるようになるためには、個々の児童の関わる力やつながる力や伝える力・発信する力の育成が必要である。そこで今年度は、「コミュニケーションを行う力」と「つながりを尊重する態度」を重点的に扱い、「関わる力」「つながる力」「伝える力・発信する力」を育みたいと考え、取り組みを進めてきた。

関わる力	ESDの活動の中で、「書くこと」「話すこと・聞くこと」の力を使って、直接人・もの・社会・自然と関わったり、自分から一方的に関わったりすることができる力。
つながる力	ESDの活動の中で、人・もの・社会・自然と関わった経験をもとに、「書くこと」「話すこと・聞くこと」の力を使いながら、双方向的にやりとりをし、更に深く関わることができる力。
伝える力・ 発信する力	ESDの活動の中で、人・もの・社会・自然とのつながりについて、気づいたことや深まったり高まったりしたことを、自分なりに表現することができる力。



2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

- 1・2年生：地域の人々と野菜を育てよう（1年生 10時間 2年生 27時間）

1年生では、地域の安全安心ネットワークの方に玉ねぎの植え付けを教えてもらったり、自分たちが栽培したさつまいもの調理をしたりした。また2年生では学区探検を通して、大根・トマト・なすなど地域の農家と交流し、野菜を育てる喜びや知恵にふれた。

- 3年生：藤田の宝物を見つけよう（50時間）

— 活動事例として後述 —

- 4年生：干拓のまち～藤田～（60時間）

製紙会社の出前授業により自分たちの生活を振り返り、保育園との合同クリーン作戦など、自分たちができる活動を考え実践した。また、親子で地域の遺跡をめぐって干拓の歴史や遺跡の役割、それを保存し続けている人の思いを知り、グループでまとめて掲示した。

○ 5年生：藤田再発見プロジェクト（55時間）

天満屋のバイヤーの話の聞いたり、藤田地区の主要な農作物（米・レタス・玉ねぎなど）の生産農家を訪問し、栽培方法や農業への思いなどをインタビューしたりした。こうした活動を通して、藤田という地域の「食・農業」に対する価値を再認識することをねらった。3・4年生での活動が、フィールドワークをすることでつながり、「藤田はすごい」と実感できた。そして、未来へつなげていくためには自分たちに何ができるかを考えていった。

○ 6年生：地球再発見プロジェクト（50時間）

今世界が抱えている問題（児童労働、貧困の問題など）を調べ、専門機関の方々のお話をうかがい、児童の視野を広げた。そして自分たちができることを考えて活動し、地域発信をする。そして、今までの学習をもとに自分の生活やこれからの生き方について考え、「幸せって何？」について自分の思いをまとめる。

3 特徴的な活動事例の紹介

3年生「藤田の宝物を見つけよう」

まず1学期に、地域の用水で「水辺の学校（用水の生き物調べ）」を行い、地域の用水の生き物について図書資料を使って調べた。そのことから、地域の人が植物を植えて水の浄化を図る等環境を守るために努力していることを知った。

2学期には、藤田地区の農作物について知るために、地域の人と一緒に地域探検を行い、分かったことや教えてもらったことをメモに書きとめた。グループで相談しながら食べ物マップにまとめたり、他のチームの発表を聞いたりすることで、藤田には様々な農作物があることや育てている地域の方の苦労や喜びを知ることができた。

また、特産品の一つである大豆を地域の人に教えてもらいながら育て、JA岡山藤田女性部の助けを借りて、豆腐作りを行う。育てるだけでなく、加工する技術や知恵にも触れることができる。

これらの活動を通して、藤田地区にある食べ物・自然・人という宝物に気づき、藤田地区の素晴らしさを実感し、気付いたことや分かったことを自分なりにまとめ、地域の人や保護者に伝えるようにした。

4 今年度の成果と課題

○成果

・学校としての成長

ESDカレンダーの各教科とのつながりを、「言語活動に関するスキル」「知識・情報や心情」を視点として作成し直した。この見直しを関係教職員全員で行うことで、よりスムーズに単元計画や学習の流れを考えることができるようになった。また、ねらいや育みたい力を明確にしていく中で、単なる体験活動で終わらせるのではなく、「関わる力」「つながる力」「伝える力・発信する力」を育むことを意識して活動を組み立てることができるようになってきた。

・子どもの成長

様々な人との交流によって、コミュニケーション力が育つ機会がもてた。

各学年で積み上げた内容から、自分たちで活動を進めていく力が育ちつつある。

○課題

「関わる力」「つながる力」「伝える力・発信する力」をそれぞれの活動のどの場面で育んでいくことができるか、具体的な評価につながるように考えていくことが必要である。

地域の協力者が高齢者のため、世代交代の時期がきている。地域と学校との組織的な連携をさらに構築していく必要がある。

【 3年生 水辺の学校 】



H25年度 第一藤田小学校 校内研究の取り組み

1 研究テーマ

「豊かな言語活動をとおして、人・もの・社会・自然とつながろうとする子どもの育成」
～児童がいきいきと学習や活動に取り組むための有効な手だてを求めて～

岡山っ子育成条例
自立する子ども
豊かな人間性 自分を高める 共に生きる



藤田地区地域協働学校スローガン
「地域に学び未来を切り拓く藤田の子」



藤田中学校区研究主題
「つながり・感じ・高める子の育成をめざして」

☆「つながり」とは……コミュニケーション能力

たてとよこのつながり，人・地域・自然・社会とのつながり

☆「感じ」とは……自分で考える思考力，判断力，自分のよさ，友だちのよさ

☆「高める」とは……基礎学力をもとに，課題を発見・深めること



第一藤田小学校の教育目標とめざす子ども像
「心豊かに未来を拓く一藤っ子」
自ら学ぶ子ども・助け合い共に生きる子ども・健康で明るい子ども



第一藤田小学校 研究テーマ
「豊かな言語活動をとおして，
人・もの・社会・自然とつながろうとする子どもの育成」

2 研究テーマの設定の経緯

本校は、平成21年度からESDの取り組みを行っており、中学校区の3小学校で連携を深めながら取り組みを進めてきた。平成24年度にはユネスコスクールに認定され、中学校区共通テーマ「つながり・感じ・高める子」をめざして、生活科や総合的な学習の時間を中心に活動を展開してきた。それにより、様々な人との交流によって、コミュニケーション力を育む機会が増えた。

一方で、基礎的・基本的な学力の不足という本校児童の実態から、学力の向上をめざした授業の充実の必要性に迫られている。とりわけ、他者と関わる時、自分の気持ちが表現できない、相手の話の内容が理解できない、相手の言わんとすることがつかめないことが原因で、学習や生活の場面で大きな支障となっている。

ESDの活動を行うことで、地域の方をはじめとする様々な人たちとコミュニケーションをとりながら交流や学習が深まっていく。わかったことや気づいたことを表現したり、それを交流したりすることを通して、さらに深い気づきや理解が得られる。ところが、話したり聞いたりする力が弱かったり、書く力が育っていなかったりするために、十分なコミュニケーションを図ることができず、交流の質が高まらない様子も見られる。人・もの・社会・自然についての理解を深め、よりよい社会の担い手として、自ら考え実践することができるようになるためには、個々の児童の関わる力やつながる力や伝える力・発信する力の育成が必要である。

これらのことから、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の力を育てたり、ESDの取り組みをさらに充実したりしていきたいと考え、本テーマを設定した。

3 今年度の取り組み

豊かな言語活動を通して、人・もの・社会・自然とつながろうとする子どもの育成をめざし、今年度は、特に、以下の五つの力の育成をねらい、めざす子ども像に迫ることができるように研究を進めている。

つきたい力①	国語科の「書くこと」「話すこと・聞くこと」の力。
つきたい力②	国語科以外の各教科の指導要領解説に示されている言語活動の充実に関わる力。
関わる力	ESDの活動の中で、「書くこと」「話すこと・聞くこと」の力を使って、直接人・もの・社会・自然と関わったり、自分から一方的に関わったりすることができる力。
つながる力	ESDの活動の中で、人・もの・社会・自然と関わった経験をもとに、「書くこと」「話すこと・聞くこと」の力を使いながら、双方向的にやりとりをし、更に深く関わる力。
伝える力・ 発信する力	もの・社会・自然とのつながりについて、気づいたことや深まったり高まったりしたことを、自分なりに表現することができる力。

低学年でつきたい力

つ け た い 力 ①	<p>「話すこと・聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力。 ・大事なことを落とさないように聞く能力。 ・話題に沿って話し合う能力。 <p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文章を書く能力。
つ け た い 力 ②	<p>※各教科・領域の学習指導要領の言語活動の充実に関する力。</p>
関 わ る 力	<p>「話すこと・聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜の植え方を正しく聞く。 ・活動して気づいたこと、見つけたものを友だちに分かりやすく話す。 <p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞いたことをメモする。 ・活動して気づいたこと、見つけたものをカードに書く。
つ な が る 力	<p>「話すこと・聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動して気づいたことについて、発表したり聞いたりする。 ・約束や役割について相談する。 ・もっと知りたいことを質問する。 ・自分の考えた写真の説明書きを発表する。 <p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動して気づいたことをカードに書く。 ・お世話になった人にお礼の手紙を書く。 ・メモをもとに、写真の説明書きを考えて書く。
伝 え る 力 ・ 発 信 す る 力	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に分かる話し方や声で発表する。 ・活動を通して自分なりに感じたり考えたりしたことを相手に分かるように紹介する。 ・新聞、地図、絵本、ポスター、パンフレットなど、いろいろなまとめ方を体験する。

中学年でつきたい力

つ け た い 力 ①	<p>「話すこと・聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力。 ・話しの中心に気を付けて聞く能力。 ・進行に沿って話し合う能力。 <p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力。
つ け た い 力 ②	<p>※各教科・領域の学習指導要領の言語活動の充実に関する力。</p>
関 わ る 力	<p>「話すこと・聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーの話の内容を正しく聞きとる。 <p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切だと思うことをメモする。 ・調べた物の中から、わかったことや大切だと思ったことを書く。
つ な が る 力	<p>「話すこと・聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと知りたいことを質問する。 ・自分の意見をお互いに出し合う。 ・活動してわかったことを、グループで出し合う。 ・学んだことや経験したことと比べながら聞く。 ・自分の考えをもとに意見を出し合い、よりよいものにしぼる。 <p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたり聞いたりしたことをもとに、自分なりにまとめて書く。 ・ゲストティーチャーの話を聞いて、思ったり考えたりしたことを書く。 ・お礼の手紙を書く。 ・理由もつけて自分の考えを書く。
伝 え る 力 ・ 発 信 す る 力	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを地図・ポスター・リーフレット・ビデオレター・新聞にまとめて、分かりやすく伝える。 ・学習して分かったことや感じたことをもとに、自分の思いを伝える。 ・自分のできることを身近なことから実践する。

高学年でつきたい力

つ け た い 力	<p>「話すこと・聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力。 ・相手の意図をつかみながら聞く能力。 ・計画的に話し合う能力。
①	<p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力。
つ け た い 力 ②	<p>※各教科・領域の学習指導要領の言語活動の充実に関する力。</p>
関 わ る 力	<p>「話すこと・聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーや地域の方の話しを興味をもって聞く。 ・内容を正しく聞く。 ・質問した答えを聞く。 ・話し手の立場や気持ちを理解しながら聞く。
	<p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要なことをメモする。(インタビュー, 調べ学習) ・劇を見て、気づいたことや感じたことを書く。 ・自分のテーマ(調べたいこと)を書く。
つ な が る 力	<p>「話すこと・聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたり、聞いたりしたことをもとに、自分の考えを発表する。 ・自分だったら・・・と考えながら聞いたり、話したりする。 ・自分たちにできることを調べた後、話し合う。 ・もっと知りたいことを質問する。 ・多様な意見を聞き合う。
	<p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたり、聞いたりしたことをもとに自分の考えを書く。 ・依頼(チラシ, ポスター)やお礼の手紙などを書く。 ・自分の主張と、その理由を書く。
伝 え る 力 ・ 発 信 す る 力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や呼びかけたいこと(主張)を明確にし、伝えたい相手を意識して文章に書いたり、効果的に話したりする。 ・グラフ・表・イラストなどを用いて、自分の伝えたいことを分かりやすく伝える。 ・効果的な発信方法を考え、選択する。 ・自分の考えを実践する。(自分の行動で伝える。)

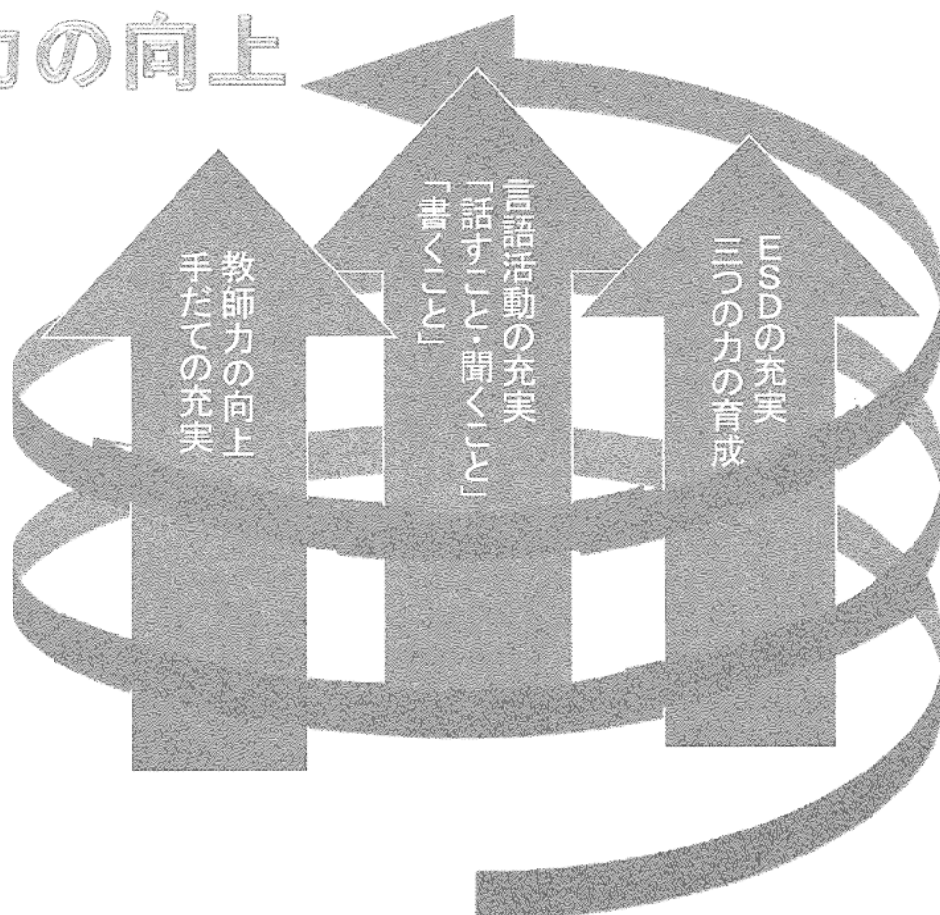
上記の五つの力をつけるための有効な手だてについて、以下の五つを視点とし授業研究に取り組み、教師が授業を充実させ、児童の学力を向上させたい。

- 【手だて① 視覚的な支援】：色画用紙，手順や司会の仕方を書いたカード
- 【手だて② 時間の充実】：ワークシート，付箋
- 【手だて③ 場の設定】：K J法，グループ学習やグループ活動
- 【手だて④ スモールステップの設定】：作文の短冊
- 【手だて⑤ 評価】：教師評価，相互評価，自己評価

研究の方法は、本時案程度の指導案で授業を公開し、お互いの授業を見合い、児童がどのように学びに参加しているかという視点を大切にしながら協議・検討する。授業で見た児童の姿や教室の中の事実をもとに手だての有効性を探る。個々の児童の実態によっては、手だての有効性も変わってきたりする。そのような視点も大切に扱いたい。

「児童が学ぶ」とは、授業の始めの状態よりは、学習内容や学習の仕方などにおいて伸びていることである。手だてを工夫することで、伸びしろを増やしたり、より充実した学習をしたりすることができるようにしたい。

学力の向上



教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語			なぞなぞあそび	すきなものに	おはなしきいて	みつけた	見せたいな					いいこといい一年生
算数			1	2	3	4	5	6				
生活		さたさいれいねんねに	しなつうよあそび	いなきもの	あきいばい	たのしい	だいきのおもち	みんなのえよう			ふしもの	2ねんせい
特別活動			そらまめア	そらまめを			学習発表会					
道徳		D	きゆうまんじ	みあげて	十七年まつ	のびた						
音楽		かたつむり	うみ	たなばたさま			きらきらぼし			おしよがつ		ひなまつり
図工												
体育												

言語活動に関するスキル

- 1「～は、～です。」という文を書くことができる。
- 2好きなものとその理由を2文で書くことができる。
- 3経験したことから、題材を決めて語したり、聞いて感想を述べたりする。
- 4生き物カードを書いたり、発表したりして、交流を楽しむ。
- 5絵に描いたことをもとに、文で説明し、発表し合ったり、交流を楽しんだりする。
- 6必要な事柄を集め、順番を考えて書く。

知識・情報や心情

- A身近な自然に親しみ、動植物を大切にすること。
- B地域の様子を知る。
- C身近な自然の美しさに気づく。
- D身近な自然の様子に気づく。
- E季節の行事や自然を愛感する。

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	今週のニュース	かんさつ名人に	ともこさんほど		あつこんなものな			友だちのここと			きみめよう	楽しかったよ 2年生たよ
算数	1		3					6			7	8
生活			ドキドキわくわく学く たんけん			4		もつとなかよし 学くたんけん			聞かせて一藤の すてき	
特別活動						2						
道徳												
音楽												
図工												
体育												

- 知識・情報や心情
- A 身近な野菜に關心をもつ。
 - B 正しい言葉やきちんとした態度で人に接する。
 - C 野菜の成長の様子に気づいたり、育てる喜びを感じたりする。
 - D 学区の様子に關心をもつ。
 - E 地域に親しんだり、愛着をもったりする。
 - F 自然の美しさ、すこさ、不思議さに触れ、自分の言葉で表現する。
 - G 美しい情景に心を寄せる。
 - H 季節を感じる。

- 言語活動に関するスキル
- 1 知らせるために様子や自分の気持ちを書く。
 - 2 観察することを決めて、詳しく書く。
 - 3 大事なことを落とさないように聞く。
 - 4 説明をしたり、説明を聞いて感想を言ったりする。尋ねたり、応答したりする。
 - 5 経験したことを分かりやすく伝える。
 - 6 インタビューして、紹介文を書く。
 - 7 話題に沿って話し合うことができる。
 - 8 中心が明確になるように、「はじめ・中・おわり」の構成で文章を書く。

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	よい聞き手になるように 2	きろんため 3	気になる記号 3	手紙を書こう B	4	私たちが ピエインの学 校 4	ずがる大豆 かえ C	つ食べ物を 教えます すみ 5	6	を分し 発かた 表した よと よと う 7	う本 こく く調べ よと う 7	
算数									重さ 8	表とグラフ 9		
社会	たんけんに行こう 岡山市ってどんなところ A						ひとひとのくらしを ささえるしごと D				音の道具と人々のくらし D	
理科	たねままごう A	どれくらい E	植物を育てよう 花がさいた E	実がたくさん できたよ E								
総合	水辺の学校	藤田のたからものを見つけよう	藤田の農作物について 表のものをマップに表し フィールドワーク	大豆を育てよう(タス・いちらご・国定農産)・豆腐作りをしよう								二藤小、三藤小の人に 教えてあげよう
特別活動		野菜について調べよう E	キャベツを育てよう 2年の終わりから継続	A								
道徳							祝日って何？ちい きにつたわる料理 F					あんな雪ごんな雪 すんでいる町の 自然じまん A
音楽												
図工												
体育												

知識・情報や心構

- A) 記号や人方位を使って学区の様子を地図に表す。
- B) お世話になった方々に、感謝の気持ちを伝える。
- C) 大豆について知る。
- D) 人々の暮らしを支える仕事を知る。
- E) 植物の体のつくりや育ち方を知る。
- F) 地域に親しみたり、愛着をもったりする。

言語活動に関するスキル

- 1 自分の経験や知識と関連づけたり、比べたりしながら聞き、感想を言ったり、質問をしたりする。
- 2 中心をはっきりさせて、大事なことを落とさないように話す。
- 3 調べて分かったことや考えたことをもとに、報告する文章を書く。
- 4 適切な言葉遣いでインタビューする。司会者の進行に沿ってグループで話し合うことができる。相手や目的に応じて、よく分かるように話す。
- 5 例を挙げて説明の文章を書く。
- 6 筋道を立てて、相手に分かりやすく話す。
- 7 事典や図鑑を使った調べ方を知り、調べたことを報告書にまとめる。
- 8 事典の順番や単位を理解し、測ることができる。
- 9 資料を分類・整理し、表にまとめることができる。

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	よりよい学級会	読書生活について考えよう	新聞をつくらう			りだれ合えるものがかわるようにな	発表の仕方	仕事リーフレットを作ろう				
算数						3 4 5						
社会	ゴミはどこへいくの	水はどこからどこへ				社会科見学		海を陸地に				
理科	あたたかくあつくなる					あつくなる						
総合												
特別活動												
道徳												
音楽												
図工												
体育												

言語活動に関するスキル

- 1 意見を述べ合ったり、話し合ったり、話し合って考えをまとめたりする。
- 2 調べたことを、報告する文章に書いて、新聞などに載せたりする。
- 3 調べたことを報告したり、それを聞いて感想や意見を述べたりする。
- 4 相手に合わせて、言葉の抑揚や強弱、間の取り方に気を付けて話す。
- 5 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりする。

知能・修練や心構

- A ゴミの始末と活用の仕方について知り、地域の環境を守る心を育てる。
- B きれいな水を保つための方法を知ること、資源を大切に使う心育てる。
- C 藤田の歴史・先人の偉業を知り、藤田に誇りをもち、地域を大切にすることを学ぶ。
- D 産物による動植物の成長や変化を通して、藤田の環境について考える。
- E 自分達にできることを認識する。
- F 我が国の豊かな自然や伝統などに触れ、藤田のよさをさらに知る。
- G 自分たちがよいと思ふことを周りの人に呼びかける。

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語		学級討論会をしよう	ようこそ私たちの町へ				平和について考える			自分を思いつめ直して	今、わたしは、ほくは	
算数		1	2				4	資料の調べ方・資料の整理		5	A 6	地球と算数
社会						B		3	あたらしい日本へのあゆみ	私たちのくらしと政治(基本的人権・日本国憲法・平和への願い)		世界のなかの日本と私たち(国連と日本の役割)
理科		地球と生き物のくらし・自然と人のくらし										B
総合		地球再発見プロジェクト										
		世界の諸問題について考える	個人でテーマを決めて調べ、発表する。	つながらりについて考えよう	ありがとうございます集め、感謝の気持ちを行動に表そう。							
特別活動		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
道徳		世界がもし100人の村になったら	21世紀をこなう若い人たちへ	科学は平和のためにある	ほしいって何？必要って何？	胸け合っで生きる	人と人をつなぐ地球通訳			卒業まで90日		C
音楽			我は海の子				B	ふるさと	越天楽今様			
図工												
体育												
家庭科												
外国語												

- 言語活動に関するスキル
- 1 話題に沿って、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができる。
 - 2 長く詳細な文章、集めた事柄を整理し、工夫して編集することができる。
 - 3 資料を表やグラフに裏し、また、それらを読み取って分かることを説明することができる。
 - 4 意見を明確に伝えるために文章全体の構成を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで意見を主張することができる。
 - 5 事象と感想・意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりすることができる。
 - 6 話の構成を工夫しながら場に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。

- 知識・情報や心構
- A 聞く人の心に届くように発表する。
 - B 世界の諸問題について知る。
 - C 自分たちに何ができるか考える。
 - D 郷土や地球のよさに気づく。
 - E 積極的に夢について尋ねたり、答えたりする。

「夢宣言」をしよう。

第2学年A組生活科学学習指導案

平成25年10月21日(金)第5校時 音楽室 指導者 竹内 正子

1 単元名 もっとなかよし学区探検

2 単元目標

- 以前の学区探検などで興味をもった人や農作物とかかわり、親しみや愛情をもって、話したりいっしょに活動したりすることができる。(生活への関心・意欲・態度)
- かかわりたい人や農作物を決め、それらと自分とのかかわりについて、感じたことや考えたことをすなおに表現できる。(活動や体験についての思考・表現)
- 自分の住んでいる地域には、たくさんよさがあることに気づく。そして、地域で生活したり働いたりしている人々が、地域に抱いている思いに気づく。(身近な環境や自分についての気づき)

3 指導計画

もっとなかよし学区探検	13時間
第1次 学区探検の計画をたてよう	2時間
第2次 地域の人に会いに行こう	3時間
第3次 地域の人を紹介しよう	7時間
第1時 発表の担当と発表のしかたを決めよう	
第2・3時 発表メモを作ろう	
第4・5時 発表に必要な物を作ろう	
第6時 発表の練習をしよう	
第7時 友だちに調べてきたことを紹介しよう	(本時)
第4次 藤田のよさを考えよう	1時間

4 指導上の立場

(1) 単元について

本単元では、地域で生活したり働いたりしている人々へのインタビューを通して、地域のよさに気づき、地域の人や場所への愛着を深めるとともに、人々と適切に接したり地域で安全に楽しく生活したりすることができることをねらいとしている。

2年生になっても、子どもたちは学校から地域に目を向けるようになってきていて、このような子どもたちの生活の場が広がりを背景に、地域に出かけることで、様々な人や場所との出会いを作り、それに心を寄せ、自分の生活とのかかわりをさらに広げたり深めたりする。そうすることで、自分の町のよさに気づき、愛着をもつようになってほしいと考え、この単元を設定した。

1学期の「どきどきわくわく学区探検」では、地域の様々な場所へ出かけ、発見した物や聞いた話を、一人一人ワークシートにまとめる活動や壁新聞を作る活動をしてきた。この単元では、農家の方に焦点を絞り、グループごとに取材に行き、自分の選んだ方法で、調べてきたことを他のグループの子どもたちに知らせる活動をする。

(2) 子どもの実態

本学級には、男子13名女子11名、計24名が在籍し、明るく元気で人懐こい子どもが多い。練習したことや一度経験したことには自信をもって取り組めるが、初めてのことに戸惑う子どもも多くいる。そのため、発表の音が小さかったり、思ったことや感じたことを表現できにくかったりする。また、藤田地区は、干拓地で、麦や米、玉ねぎ、なすやキャベツ作りなどの農業が盛んである。北には新興住宅地が広がり、そこから登校する子どもも多い。登下校で季節による農作物の生長の様子や地域の人々が田畑で働く姿を見かけたり、地域の人々とあいさつをしたりする程度で、かかわりはそれほど深くない。

そこで、生活科の学習では、玉ねぎの植え付けや収穫体験をしたり、田畑や農家を見学したり、学級園で育てたトマトを地域の食育応援団の方と一緒に調理したりするなど、子どもたちが地域の人々と関わる機会を設定してきた。

このような活動の中で、子どもたちは、地域の様々な場所で見つけたことをたくさんメモしたり、地域の人々の話を興味をもってよく聞いたりすることができてきた。このような活動で関わった地域の人々へは、感謝の気持ちを込めてとても丁寧なお礼の手紙を書くこともできた。子どもたちは、地域の人々への親しみや農作物への愛情を少しずつ深めていっている。

(3) 教師の支援の工夫

本校の研究テーマは、「豊かな言語活動を通して、人・もの・自然とつながろうとする子どもの育成」である。子どもたちはこれまでにメモの取り方やインタビューの仕方、発表の仕方などを系統的に学習してきた。

そこで、本時では、今までの学習を生かしてインタビューしたことを様々な発表形式で伝えたり、話し方を工夫したりするなど、自分なりに表現することに重点を置いて活動させたい。

そのために、時間を前半と後半に分け、自分がインタビューした人や行った場所を、ワークショップ形式で別の場所に行ったグループの友だちに伝えるという場を設定した。また、グループのメンバーは、それぞれ違う観点についてまとめたことを発表するようにした。

質問しやすいように、質問カードを掲示し、自信をもって質問できるようにしたり、反省カードを書かせることで、自分の声の大きさや話す速さを振り返ることができるようにしたりして、一人一人の子どもがめあてをもって意欲的に取り組むことができるよう、学習方法を工夫した。

5 本時案 (第三次 第7時)

目標	教師の支援	評価
<p>○◇地域の人の関わりの中で見つけた地域の良さを、工夫して友だちと伝え合うことができる。</p> <p>学習活動</p> <p>1 めあてをつかむ。</p> <p>2 グループに分かれて発表する。 ・国定さんグループ (前半) ・荒井さんグループ (後半)</p> <p>3 本時の活動を振り返る。</p>	<p>○用意した資料を見ながら、前時までの学習を振り返り、本時は発表会をすることを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>友だちのはっぴょうを聞いて、国さださんやあらいさんのいいところを見つけよう。</p> </div> <p>○発表の流れがわかるように図や表を示す。</p> <p>◇発表するときの約束を確認する。</p> <p>約束</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表する人はわかりやすくはっきりと話す。 ・聞く人は発表の最後までしっかりと聞く。 ・最後まで聞いてから、質問をする。 ・指示を聞いてから、移動する。 <p>○国定さんグループ、荒井さんグループがよく分かるように帽子の色で区別する。</p> <p>○クラスを8グループに分け、自分たちが調べていない地域の人について聞けるように、国定さんグループと荒井さんグループに分かれて発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○さんのしょうかい ・○○さんのしごと ・○○さんがしごとで気をつけていることなど <p>◇発表の意欲が持てるように、ニュース形式、新聞形式、クイズ形式、紙芝居形式など様々な方法で発表させる。</p> <p>◇質問しやすいように、質問カードを掲示しておく。</p> <p>◇まとめにつなげられるように、「わかったこと」や「いいなとおもったところ」「もっと知りたいこと」などの思ったことや気づいたことを学習カードに書かせる。</p> <p>◇反省を簡単に行えるように、◎○△を使わせる。</p> <p>○友だちの発表を聞いて、思ったことやわかったことをみんなに伝え、広げることにより共有化を図る。</p> <p>○友達の発表を聞いて、藤田のよさに気づくことができるようにする。</p>	<p>○用意した資料をもとにわかりやすい声で発表している。(観察)</p> <p>◇わからないことを質問したり、メモに書きとめたりしている。(観察・メモ)</p> <p>○藤田のよさに気づくことができる。(ワークシート)</p>
<p>〈本時で期待する子どもの姿〉</p> <p>◇前時までに用意した資料をもとに進んで発表できる。 声の大きさや、話す速さを意識して発表できる。 分からないことを質問したり、メモをとったりしながら聞くことができる。</p> <p>○友だちの発表を聞いて、藤田のよさに気づくことができる。</p>		

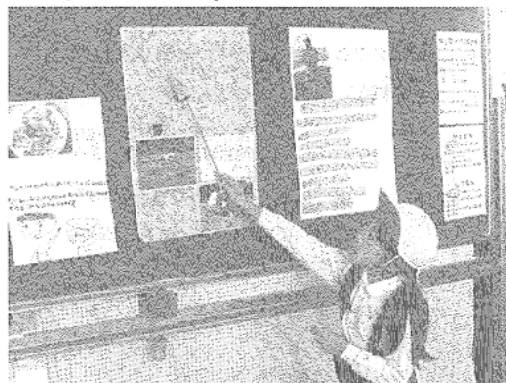
※指導案の◇と太字での記述は、本校テーマ「言語活動」に関する事項です。

8 成果と課題

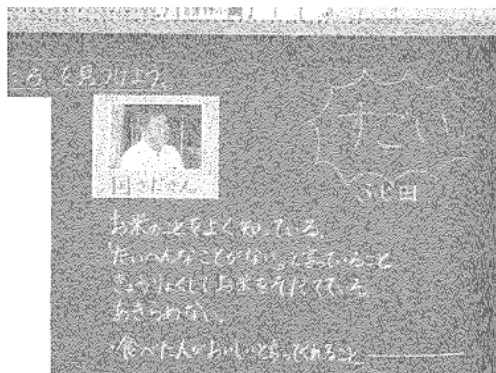
- ・ 1年生の生活科では主に家庭や自分のこと学校のことなど身の周りのことについて学習を進めてきた。そのため、2年生の始め頃には、藤田の特産物や学区の特徴についてほとんど何も答えられない子どもも多くいた。「どきどきわくわく学くたんけん」の学習や「もっとなかよし学くたんけん」の学習を通して、藤田のことに興味をもち、「藤田と言えば・・・」とどの子どもも答えられるようになってきた。これから詳しく学習していく3年生の総合的な学習につなげることができた。
- ・ 「もっとなかよし学くたんけん」では、友だちに紹介する学習を取り入れた。学区の中での農業に携わる2名の方にしぼり、どちらか1名にについて調べる、まとめる、発表する（紹介する）という過程で学習を進めた。クラスを解体して〇〇さんグループをつくり、話し合ったり、まとめたりした。2クラスならではの取り組みができ、子どもたちには新鮮だったようである。相手のグループがまとめたことを知られていなかっただので、聞く時は、内容を聞き取るように集中して真剣に聞くことができたように思う。しかし、相手の発表を聞くだけでは、十分に相手のグループの内容を押さえられていなかったように思う。
- ・ 「もっとなかよし学くたんけん」では、インタビューを行い、ワークシートに記入する方法をとった。2年生の段階では自分の力でまとめることは難しかったため、校外学習の後、記憶が新鮮なうちに情報を共有する時間をとった。一つ一つ丁寧に共有していく中で、子どもたちは「〇〇名人」についての理解を深めることができたように思う。「事前学習→探検→情報の共有→まとめ→発表」と情報の共有の時間をとったことで、まとめの内容に深味が増したようにである。
- ・ 「どきどきわくわく学くたんけん」では、まとめの学習をマップ作りグループと新聞作りグループに分かれて行った。「もっとなかよし学くたんけん」でも、グループで、紙芝居、新聞、ペープサート、絵本作りを経験させた。「みんなで行くようよつかおうよ」では、個人で新聞作りを経験させた。まとめることの抵抗感をやわらげるために、スモールステップで指導し、このようにまとめたらいい、こんな書き方もあると具体例を示しながら指導した。これらの経験は、3年生から始まる総合的な学習につながっていくと考えている。



<発表会の様子>



<発表会の様子>



<板書>

2年生 生活科(がつくたんけん) 単元構想(全29時間)

<育みたい力>

- 活動して気づいたことや見つけたものを友だちにわかりやすく話したり、カードに書いたりすることができる。(関わる力)
- 活動して気づいたことを自分なりにまとめて書いたり発表したりすることができる。(つながる力)
- もっと知りたいことを質問できる。(つながる力)
- 活動をとおして自分なりに感じたり、考えたりしたことを、まとめかたを工夫して紹介することができる。(伝える力・発信する力)

学習過程	児童の学習活動	意識の流れ	他教科との関連	
どきどき わくわく つくたんけん (場所・物を中心に) 9時間	○自分の学区のこ とを話そう。 ○探検計画をたて よう。 ○学区探検にいこ う。 ○見つけたことを 伝え合おう。	◎藤田には、どんなものがあるかな。 ○田んぼが多いな。 ○田んぼには米や麦が植えてあるよ。 ○いろいろな野菜が植えられているよ。 ○国定農産があるよ。 ○公民館がある。 ○藤田神社に行ったことがある。 ○どこにいこうかな。 ○どの道を通っていくといいのかな。 ○安全に気をつけていこう。 ○田んぼをやっているなあ。 ○やっぱり野菜がたくさん作られているね。 ○藤田神社の宮司さんに初めて会ったよ。 ○公民館はどんな場所かな。 ○国定農産は、どんな仕事をしているのかな。 ○カードに絵や文でまとめると分かるね。 ○みんなでまとめたことをマップや新聞にしてみよう。 ○公民館のことが分かったよ。 ○また、来たいなあ。 ○地域の方と、もっとお話ししたいなあ。 ◎藤田といえば、どんなものがあるかな。 ○田んぼやはたけがたくさんある。 ○国定農産。どんなことをしているところかな。 ○藤田神社。宮司さんに会ったよ。	国語科 「今週のニュース」 知らせるために様子や 自分の気持ちを書く。 国語科 「ともさんはどこか な」 大事なことを落とさない ように聞く。	藤田神社 (今井さん) 公民館 郵便局 国定農産 都保育園
もっと なかよし学 くたんけん (人を中心に) 12時間	○学区探検の計画 をたてよう。 ○地域の人に会い に行こう。 ・国定さん ・レタスいちご 農家(荒井さん) ○地域のことを紹 介しよう。 (本時)	◎藤田でよくつくられている野菜は何かな。 ○米や麦。 ○レタスやレンコンをつくっている。 ○小見山さんは、たまねぎをつくっているよ。 ○他には、どんな人がどんな物をつくっているのかな。 ○地域のいろいろな人に会ってみたいな。 ○米や麦は、国定さんがつくっているよ。 ○どんな人かな。 ○好きな物を聞いてみたいな。 ○レタスやいちごは、荒井さんがつくっているんだね。 ○どんな人かな。 ○レタスづくりの仕事のことを聞いてみようかな。 ○いちごづくりは大変なのかな。 ○好きなもの分かったよ。 ○やさしそうな人だな。 ○笑顔がいいな。 ○米作りは、難しいんだな。 ○レタスやいちごを一生懸命につくっているんだな。 ○地域には、野菜作りの名人がたくさんいるんだな。 ○探検して分かったことをまとめよう。 ○画用紙に書いて本にしようかな。 ○紙しぼいもいいな。 ○ニュースみだいにしようかな。 ○1年生に見せてあげたいな。 ○地域の人にも見てほしいな。	国語科 「友だちのこと知りた いな」 インタビューして紹介 文を書く。	国定農産 (国定さん) レタスいちご農家 (荒井さん)
聞かせて聞かせて 一ふじのすてき 8時間	◎一ふじのすてき な人やものをふ りかえろう。 ○どんなところが あったかな。 ○どんな人がいた かな。 ○地域の人に伝え る準備をしよう。 ○一ふじのすてき をつたえよう。	○田んぼや畑。 ○たくさん野菜を作っている。 ○藤田公民館。 ○JA藤田。 ○国定農産。国定さん。 ○レタスいちご作り名人の荒井さん。 ○藤田神社。宮司さん。 ○たまねぎの小見山さん。 ○荒井さんさんのことを書きたいな。 ○国定さんのことをカードに書くよ。 ○写真を貼るとよく分かるね。 ○地域の人に見てもらおう。 ○音楽発表会の時に見てもらおう。		

1 単元名 「地球再発見プロジェクト」 ～幸せって何?～

2 単元目標

- 調べたり聞いたりしたことを理解し、自分の考えをもつことができる。(関わる力)
- 自分の考えを、発表したり話し合ったりすることができる。(つながる力)
- 自分の意見や呼びかけたいことを明確にし、伝えたい相手を意識して発信したり実践したりすることができる。(伝える力・発信する力)

3 単元について

本単元は、中学校区の6年生共通テーマである「幸せって何?」について広い視野で考えたり、自分たちにできることを考え取組んだりすることで今までの価値観を広げることができることをめざして構成している。

まず、自分にとって今思う幸せについて考えを出し合う。

その後、朗読劇やブックトークを通して世界の諸問題について考える。そして、関心をもったことについて調べ学習をし、発表し合っただけで分かったことを共有する。

次に、世界の事情をもっと知るために、今年度は、アジア教育支援の会の方々にネパールやミャンマーの子どもたちの現状や行われている支援について具体的な話をうかがう。そのことにより、「自分たちにもできることがあるのではないか」と考えるきっかけとする。

本時では、これまでの学習から、地球に暮らす他国の子どもたちのために自分たちにできることは何かを具体的な活動として考えさせたい。

実際に考えた活動を実践した後、「幸せって何?」というテーマに戻り、これから先の自分・地域・世界の幸せを自分たちなりに考え、そのために自分たちがこれから先にできることは何かを考えさせたい。

4 児童の実態

児童は3年生で「藤田のたからものを見つけよう」というテーマで、学区でどんな農作物が栽培されているかを調べ、それを食べ物マップに表す学習をしている。また、レタスや大豆の栽培を生産者の方にお世話になって実際に育てることも経験している。4年生では、学区内の用水の生き物を調べ、環境について考える学習も行っている。そして、5年生では「藤田に農業は必要か?」というテーマのもと、藤田を代表する産業である農業について調べたり考えたりして、地域の課題・地域の将来について自分なりの考えをもち、まとめる活動をしてきている。これらの活動を通して、豊かな自然やそれを支える地域の人々など、自分たちの住んでいる藤田のよさに気づくことができている。

そこで、6年生では、これまでの活動を生かしながら、さらに児童の視野を広げていきたいと考える。そのために、まず「自分にとって幸せとは何か」について考え自分を振り返る時間をもった。そのときには、「好きなことができる。」「家族が元気に過ごせる。」など自分の時間と家族について考える児童が多かった。その後、チョコレートやフェアトレードに関する朗読劇や「イクバルくんを救え」のブックトークを通して今まで地域に向けていた目が、広く地球に暮らす他国の子どもたちに向くようになった。

書くことより話すことに苦手意識を持つ児童が多いので、調べたり聞いたりしたことをまず言葉で書き表し、それをもとに友だちと話し合ったり発表したりする場を多く設定した。そこから自分たちにできることは何かと考え、お互いが関わり合いながら活動する力が育っていくと考えている。

5 研究主題との関連

中学校区ESDのめざす子ども像「つながり・感じ・高める子」、さらに本校の研究主題「豊かな言語活動をとおして、人・もの・社会・自然とつながろうとする子どもの育成」にせまるために、見たり聞いたりしたことから分かったことや気づいたことを表現することを大切にする。自分だったらと考えながら聞いたり話したりすることで友だちの多様な意見も取り入れ、自分の考えをはっきりさせていく。その上で、最後には自分の伝えたいことをはっきりさせ、伝えたい相手を意識して分かりやすく書いたり話したりできるようにする。

6 本時の学習について

本時では、これまでの学習で知った地球で暮らす他国の子どもたちの実情をふまえた上で、自分たちが取り組むことができる活動を考える。まず個人で考えられる活動を書き、それをもとにグループで話し合い、その内容を紹介し合うことで、クラス全体で共有していくようにする。

児童が苦手としている話し合い活動をスムーズにおこなうために、付箋や話し合いの順序を書いたカードを用意し、支援する。

いろいろな考えをふまえた上で、最後に自分の取り組みたいと思う活動と理由を書くことで、次時からの活動へ意欲を持たせたい。

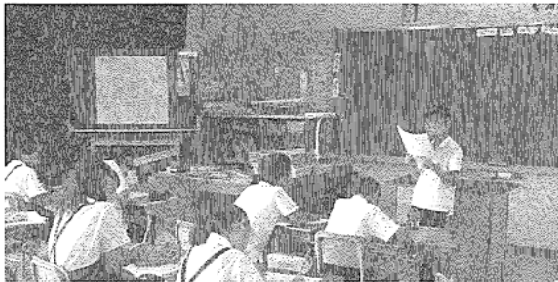
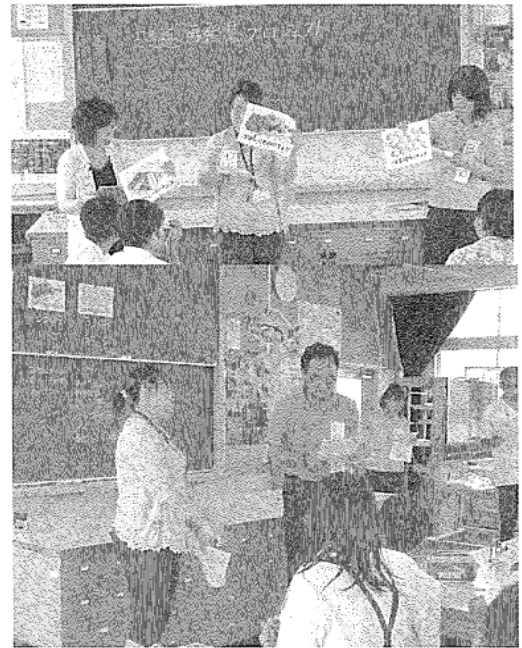
7 本時案 (第三次 第1時)

目標	<p>○◇地球で暮らす他国の子どもたちのために自分たちができる活動を、グループの友だちと話し合ったり、他のグループの発表を聞いたりすることを通して、考えることができる。</p>	
学習活動	教師の支援	評価
<p>1 今までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p>	<p>○本時は、「地球で暮らす他国の子どもたちの実情を知った今の自分」にできることを考え、活動につなげていくことを知らせ、意欲をもたせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分たちにできることを考え、紹介し合おう。</p> </div>	
<p>2 自分の考えを書く。</p>	<p>◇考えられる活動を、付箋1枚に一つずつ書くことを知らせる。 ○書き進んでいる意欲的な態度をほめる。 ◇書けずに困っている時は、調べたことや話を聞いたときのことを具体的に提示し、個別に指導をする。</p>	<p>◇自分の考えを書いている。 (付箋)</p>
<p>3 グループで話し合う。</p>	<p>○話し合いに集中できるように、始めに司会や発表する人を決めるようにさせる。 ◇考えを話しやすくするために書いた付箋を見せながら、グループ内で発表し合うようにさせる。 ○同じような考えをシートに集め、グループの意見としてまとめやすくする。 ○早くまとめられたら順序を考えるなど発表の準備をするように声をかける。</p>	<p>◇自分の考えをグループの中で話している。 (観察)</p>
<p>4 グループで話し合ったことを発表する。</p>	<p>◇発表しやすいように、整理したシートを見せながら話すようにアドバイスをする。 ◇他のグループの発表を聞くときには、自分たちの考えと比べながらメモをとるようにさせる。 ○発表された事がらを分かりやすく板書にまとめる。</p>	<p>◇他のグループの多様な考えを聞き、メモをとっている。 (メモ)</p>
<p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>◇学習を振り返って自分が取り組みたいと思った活動とその理由をワークシートに書かせ、本時のまとめとする。 ○次時からは取り組む活動の内容について考えることを知り、学習の見通しをもたせる。</p>	<p>◇取り組みたい活動とその理由を書いている。 (ワークシート)</p>
<p>〈本時で期待する子どもの姿〉 ○◇今までの学習を思い起こし、自分たちができる活動を考えて話し合いに参加しようとする ことができる。 他のグループの考えも参考にして、自分が取り組みたい活動と理由を進んで書くことができる。</p>		

※指導案の◇と太字での記述は、本校テーマ『言語活動』に関する事項です。

8 成果と課題

・朗読劇やブックトークにより、今まで考えること
のなかった外国の子どもたちの生活に目を向けること
ができた。チョコレートを通してフェアトレードの考
えにふれることで、次の学習につながるだけでなく、
「地球再発見プロジェクト」の単元を通して学習のキ
ーワードとなった児童もみられた。



・分からないこと、もっと知りたいことを調べる
段階で児童が選んだ調べたいことが広範囲にわた
っていた。そのため、発表して情報を共有する段
階で、外国の子どもの暮らしや学校のこと、児童
労働のこと、フェアトレードのこと・ストリー
トチルドレンのことなど自分が調べたこと以外の
情報をたくさん知ることができ、メモをとりなが
ら熱心に聞いていた。

課題である聞くことによる一方向の関わりか
ら、受けとめた情報を自分の考えに取り込みより
深く関わろうとする姿が見られた。



・ネパールやミャンマーの生活や文化、子どもたちや
学校の様子についての話を、実際に支援活動を行っ
ている方々からうかがうことができた。映像や実物など
の資料を見ながら話を聞くことで、自分たちが学習し
てきたこととのつながりを感じるできていた。





・自分たちでできる活動を考えた。学習したことを振り返りながら、ニュースなどで得た情報もふまえ、話し合った結果、「家に眠っている文房具などを集めて台風の被害が大きかったフィリピンの子どもたちにする」と、「未だに支援を必要としている東日本大震災の被災者のためにフリーマーケットをして得たお金を募金する」ことの二つに決まり、実践した。

児童は、活動の目的を知らせて協力をお願いする手紙を配布し、文房具などを回収したり、品物（手作り・不用品）を売ったりする準備をし、品物やお金の集計をし、お礼の手紙を配布するという活動の流れを学ぶことができた。関わりつながるための大切な流れを学ぶことができた。

また、自分自身の殻を破り積極的に声を出して呼びかけたり、協力してくれる人の多さに今までの自分を振り返ったりすることで、人がつながることの意味や大切さに気づくことができていた。



・活動を行うときに本当に支援を必要としているところに必要な支援をしていくことと、児童がしようと思った支援とを結びつけていくことが難しかった。

また、選んだ活動によって活動の時間が異なってくるため、日程や時間調整のことも考えていく必要があった。今年度はPTAのバザーに合わせて自分たちが家庭科で制作した小物などをフリーマーケットで売ることができ、主体的な活動から得られる達成感を味わうことができた。今の自分にできることを考え、小さなことでもそれが世界の子どもたちにつながると実感できたのではないだろうか。

6年生の活動は世界に目を向けるため、今後も、適した専門機関との連携のしかたを考えていくことが課題である。

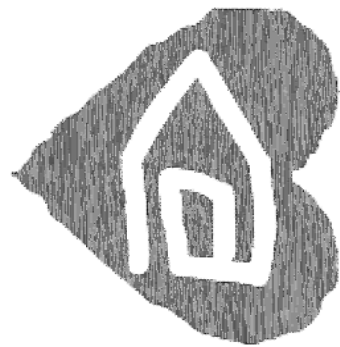
6年生 総合的な学習の時間「地球再発見プロジェクト」単元構想(全70時間)

<育みたい力>

- 調べたり聞いたりしたことを理解し、自分の考えをもつことができる。(関わる力)
- 自分の考えを、発表したり話し合ったりすることができる。(つながる力)
- 自分の意見や呼びかけたいことを明確にし、伝えたい相手を意識して発信したり実践したりすることができる。(伝える力・発信する力)

学習過程	児童の学習活動と意識の流れ	他教科との関連	その他
世界の諸問題について考える。	<p>○「自分にとって幸せとは何か。」を考える。</p> <p>○「朗読劇」を聞いて、世界の諸問題について関心をもつ。</p> <div data-bbox="256 331 582 488" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>場面1 330円でどのチョコを選ぶ？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドチョコ ・袋入りのチョコ ・フェアトレードのチョコ <p>場面2 カカオ農場で働く子どもの様子を聞き、その子にとっての幸せを考える。</p> </div> <div data-bbox="603 344 1077 465" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○世界には働いている子どもがいるんだな。 ○フェアトレードって何だろう？ ○なぜ働いているのかな？ ○いろいろな国の子どもたちについて知りたいな。 </div> <p>○各国の子どもたちの実際の様子を知るために「イクバルくんを救え」のブックトークを聞く。</p> <div data-bbox="284 555 635 651" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・児童労働をしている子どもの実際の様子 ・児童労働の数字やその原因 ・フェアトレードについて ・これらの問題を解決するために行っている企業や団体の活動 </div> <p>自分の知っていることや考えと比べながら聞く。興味を持ったことやもっと知りたいと思ったことから自分の調べるテーマを決める。</p>	道徳「世界がもし100人の村だったら」	藤田公民館
個人でテーマを決めて調べる。	<p>○自分の関心をもったことを図書資料やインターネットを使って調べる。</p> <div data-bbox="256 719 735 853" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○児童労働ってなあに？ ○フェアトレードってなあに？ ○ストリートチルドレンってなあに？ ○他の国の子どもたちはどんな生活をしているの？ ○他の国の子どもたちを支援するためにどんなことが行われているの？ </div> <p>調べることを決める。調べ方を決める。調べたことをメモする。</p> <p>分かりやすく発表するために、分かったことや考えたことを言葉や図・表などを使ってまとめる。</p>	国語「ようこそ、わたしたちの町へ」	
発表する。	<p>○調べたことを発表し、情報を共有する。</p> <div data-bbox="256 913 938 1077" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○フェアトレードは自立のためや環境のために貧しい国が不利にならないことがわかった。 ○フェアトレードは児童労働を防ぐことができるということがわかった。 ○日本とは違って宗教や国の文化で違ってくるんだなと思った。 ○多くの子ども達が働かなければならないと知った。 ○栄養不足で多くの子どもが死んでいくことにびっくりした。 ○学校に行けるのが当たり前じゃない。学校に行けることが幸せだと思った。 ○実際の様子をもっと知りたいな。 </div>	国語「平和について考える」 社会「あたらしい日本へのあゆみ」	
世界の実情をもっと知る。	<p>○世界の実情を知っている人に話を聞く。 ゲストティーチャーを招いて授業をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェアトレードについて知ろう。 ・世界の子どもたちの現状を知ろう。 第1時 「ネパールの子どもたち」 <ul style="list-style-type: none"> ・ネパールの子どもたちや学校の様子、家での生活、習慣・文化の違いなどを具体的に知る中で、ネパールを理解する。 ・ネパールへの具体的な支援について理解し、考える。 第2時 「ミャンマーの子どもたち」 <ul style="list-style-type: none"> ・ミャンマーの子どもたちや学校の様子、家での生活、習慣・文化の違い、ミャンマーと日本の関係などについて理解する。 ・ミャンマーへの具体的な支援について理解し、考える。 第3時 「世界の中のわたしたち①」 <ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式で、世界の現状を知る。世界が抱えている問題や、特に発展途上国の子どもの置かれている状況について理解する。 ・世界の中に暮らす自分に気づき、世界と自分の関係を考える。 第4時 「世界の中のわたしたち②」 <ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式で、発展途上国への日本の支援の現状、アジアへの具体的な支援やアジアの教育支援の活動を理解する中で、自分たちにもできる支援を考える。 	社会「世界の中の日本と私たち」	
自分たちのできることを考え、実践する。	<p>○今までの学習から、自分たちにできる活動を考え、実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球で暮らす他国の子どもたちのために、自分たちができる活動を考える。(本陣) ・実践するにあたって分からないことを、調べたり聞いたりする。 ・活動するにあたって今までに積み上げてきた情報をまとめ、表現し発信する。 自分の意見や呼びかけたいことを明確にする。 伝えたい相手を意識して、文章に書いたり効果的に話したりする。 グラフ・表・イラストなどを用いて、相手に分かりやすく伝える。 効果的な発信方法を考え、選択する。 自分の考えを表現する。 活動のまとめをし、お世話になった方々に発信する。 <div data-bbox="746 1487 1157 1653" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○厚手の学年の人や地域の人に呼びかけで募金をしたらどうかな。 ○三階の人がしているみたいに、家で使っていない文房具などを集めて送るのもいいと思う。 ○フリーマーケットをしてみるのもいいかもしれない。 ○地域の人もお知らせの手紙やポスターで知らせたいな。 </div>		「アジア教育支援の会」
つながりについて考える。	<p>○人と人とのつながりについて考え、ありがとう集めをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の何気ないありがとうを集めてノートに書き留めていく。 ・たくさんの人に支えられて生活していることに気づく。 <p>○卒業に向けて、「ありがとう」の気持ちを行動に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで支えられてきたことを思い起こし、感謝の気持ちを行動に表す計画を立てる。 ・大掃除をすることや何かを作るなど特別なことだけでなく、落ちているゴミを拾うなどの毎日できることも考えさせる。 ・学校だけではなく、地域にも目を向けさせ、できることを計画していく。 <p>○卒業前に、もう一度自分にとって幸せとはなにかを考え、まとめる。</p> <div data-bbox="523 1906 1145 2018" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○幸せってそれぞれちがうんだな。 ○自分の幸せは厚かの人とつながっているんだな。 ○人とつながって、お互いに楽しかったり嬉しかったりすると幸せなんだな。 ○人に喜んでもらえる自分たちもうれしいから、自分のためにも焼けていきたいな。 </div>	家庭「自分の生活や地域の生活を見つけてみよう」 道徳「人と人をつなぐ地域通貨」	地域の方々

岡山市立第二藤田小学校



岡山市立第二藤田小学校

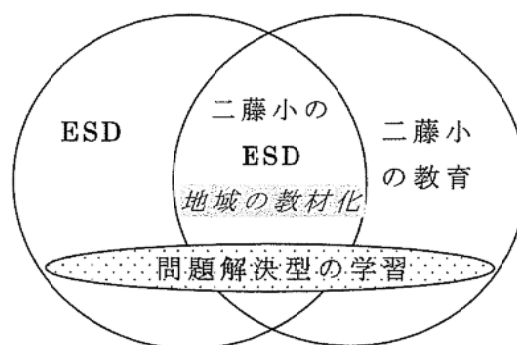
1 本校のユネスコスクールとしての活動(ESD)の特徴

藤田中学校区研究主題『つながり・感じ・高める子の育成をめざして』を受け、研究テーマを「互いの思いや考えを伝えあい、高め合うコミュニケーション活動の充実」と設定し、話し合い活動を学習指導過程の中に位置づけながら「地域の教材化」と「問題解決型の学習」の2点を軸に研究を進めてきた。

「地域の教材化」としては、藤田地区の地域性を生かし、藤田に生まれ育つ子ども達が「藤田のことを見て、知って、考えて、活動する」ことで、地域を愛する心情を育ててきた。昨年度作成したESDカレンダーを、①地域の環境、②地域の社会・経済、③地域の文化・歴史の三つの側面から見直し、各教科・領域間のつながりを意識しながら実践してきた。

「問題解決型の学習」としては、自ら課題を発見し、根拠をはっきりさせて多面的・総合的に考え、話し合う力を育てることで、将来、持続可能な社会を実現するために自分たちにできることは何かという目的意識をもった実践力の育成につなげている。

本校のESD構想



「藤田のことを見て、知って、考えて、活動する」

【地域教材化の分類の視点】

- ① 地域の環境（環）
- ② 地域の社会・経済（社・経）
- ③ 地域の文化・歴史（文・歴）

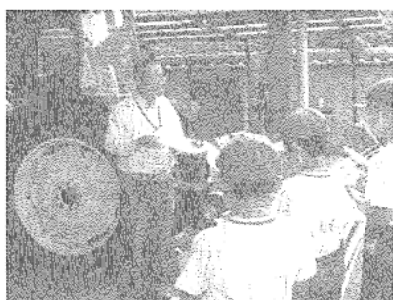
2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

学年	時期	主な活動	地域教材化
1年生	1学期	通学路を歩こう・公園で遊ぼう・草花や虫をさがそう さつまいも植え（保育園と交流）	（社・経） （環）
	2学期	秋をさがそう・見つけた秋を紹介しよう・さつまいもの草 抜き→収穫・調理（保育園と交流）	（環）
	3学期	外で遊ぼう・冬の公園に行こう 新しい1年生を迎える準備をしよう	（環） （社・経）
2年生	前期	野菜を育てよう・学区探検をしよう（野菜作りの名人）	（社・経）（環）
	後期	町の人に会いに行こう・もっと町の人となかよくなるよう ふり返ろう町のすてきな出来事・町のすてきを伝えよう	（社・経） （文・歴）
3年生	1学期	二藤学区の宝を見つけよう（ポンプ場の見学・藤田の用水	（社・経）（環）
	2学期	路・二藤のお宝マップ）	（文・歴）
	3学期	探せ！地域の達人（地域の達人新聞）	（文・歴）
4年生	前期	われらエコ探検隊（ごみ分別・3R・ごみ減量化・環境を守る 取り組み）	（環）
	後期	みんなで作ろうバリアフリー社会（福祉体験）	（社・経）
5年生	1学期	めざせ！米博士（学区の農家で米作りの体験）	（社・経）
	2学期	発見！探検！藤田の農業（学区の農家にフィールドワーク）	（社・経）
	3学期	未来へ続く藤田の農業（地域に根ざした農業への思い）	（社・経）
6年生	1学期	MOTTAINAIプロジェクト（省資源・省エネルギー）	（環）
	2学期	（環境問題・食糧問題）	（環）
	3学期	世界の国々に目を向けよう（国際協力）	（社・経）（環）

3 特徴的な活動(ESD)事例の紹介

第5学年 単元名「発見！探検！藤田の農業」

本校の位置する藤田地区は、干拓地として広く平地が広がっており、昔からこの地形を生かして稲作を中心とした農業が行われている。稲作以外にもレタス、タマネギ、ナスなど、生産されている農作物の種類は豊富である。しかし、農業人口の低下や高齢化の問題がある中で、農業に従事している家庭は少なく、児童が、地域の農業への興味や関心をもちにくい現実がある。本単元は、藤田の農業について、実際に農業体験をしたり、藤田地区の農業にかかわりの深い方の話を聞いたり、農家の方へのインタビューや見学、さらにそれを生かしての調べ学習をしたりするなど、問題解決に向けて考えを深めていった。そして、グループごとに、まとめたことを発表し、他のグループと交流す



ることにより、自分たちの考えと友達の考えを比較し、意見を交換することでより考えが深められるようにした。藤田野菜の種類、植える時期、収穫する時期など、野菜によって育て方が違うこと、農業に携わる方の願いや仕事への情熱、努力、工夫していることなど、自分たちが見て、聴いて、調べてきたこととの相違点、共通点についても考えながら学習を進めていくようにした。学習の出口で、未来の藤田の発展に対する地域の人々の思いや願いを知り、自分たちにできることは何かを模索したり、地域に愛着をもったり、地域に関する課題を感じ、考えたりすることができた。

また、校内研究のテーマ『互いの思いや考えを伝えあい、高め合うコミュニケーション活動の充実～話し合い活動の充実をめざして～』を踏まえて、次のような工夫をした。【課題について自分の考えをもつことをめざして】フィールドワークで体験したことや調べ学習で深めたことを、自分なりの学習の足跡としてまとめた「藤田の〇〇新聞」を作成し、グループで話し合う際に主体的に活動できるようにした。内容面、視覚的な効果などを考慮してまとめたり、自分の意見を付箋で付け加えたりすることで、自分の考えを分かりやすくまとめることができた。

【自分の考えを相手に分かりやすく伝えることをめざして】自分の考えを付箋にまとめ、発表し、話し合ったり、自分で考えたおすすめポイントを付箋の色等を工夫して示したりすることにより、グループの主張点や話し合いの論点が分かりやすくなるようにした。

4 今年度の成果と課題

○成果

①学校としての成長

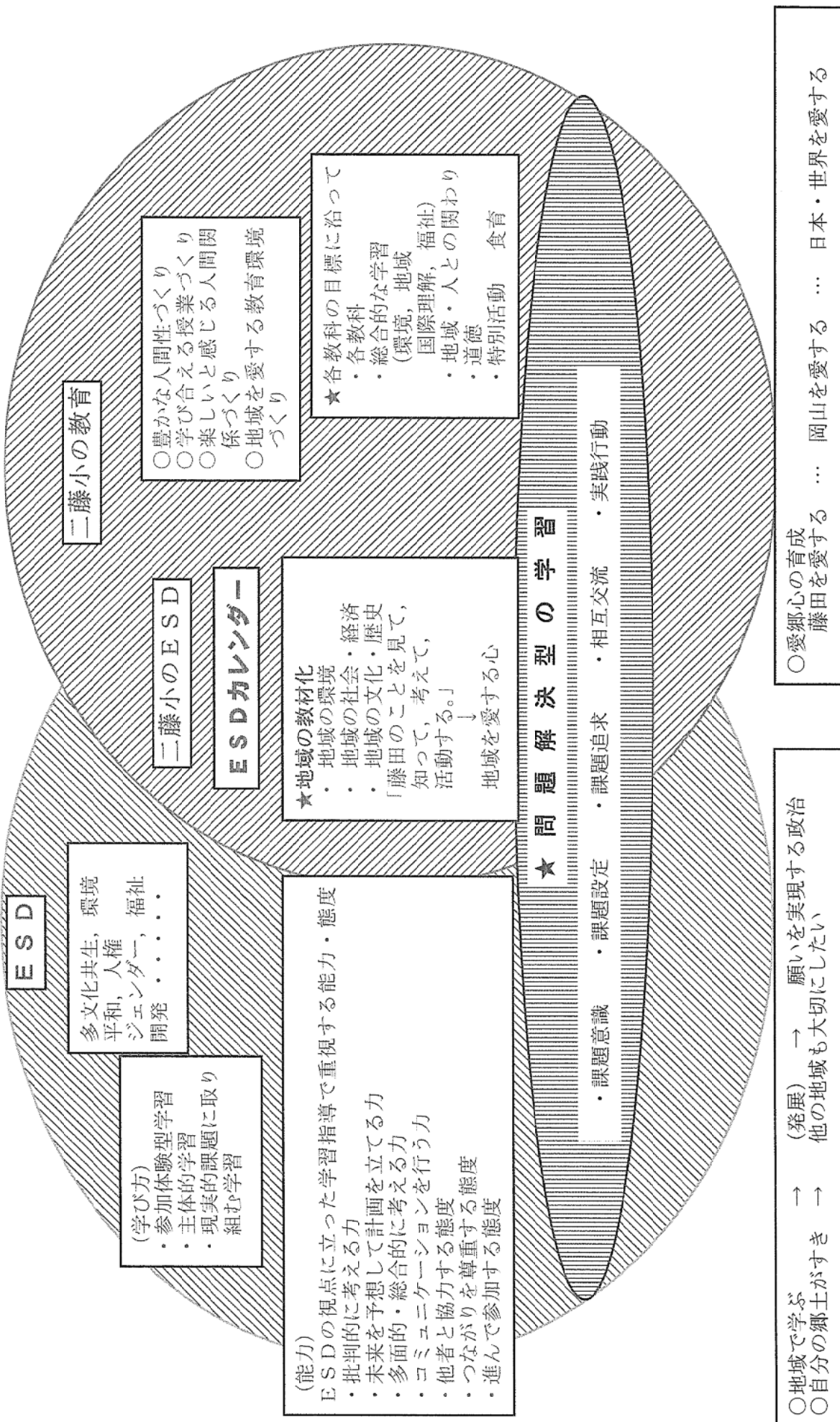
- ・ ESD カレンダーの各教科・領域の学習内容を「地域の環境」「地域の社会・経済」「地域の文化・歴史」の視点で分類し、生活科・総合的な学習の時間とのつながりを見直すことで、地域の教材化を教職員の共通理解のもとで進めることができた。
- ・ 日々の教科学習の中で効果的に話し合い活動を位置づける研究に取り組み、コミュニケーション力の充実を図る授業改善につながった。

②子どもたちの成長

- ・ 地域を教材とした学習活動の中で、様々な地域の自然、人々とのふれあいを通して、ふるさと藤田のよさを再認識することができた。
- ・ 日々の授業の中で、自分の思いをもって話し合いに臨むこと、考えを深めるために話し合い活動を取り入れることをめざした結果、子ども達のコミュニケーション力の向上も見られた。

○課題

- ・ ESD カレンダーの見直しとともに、「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度」の中で、子ども達に不足している力を精査し、学習を進める中でその力を育てることができるカリキュラム開発に取り組む必要がある。
- ・ 話し合い活動を充実させるためには、自分自身の考えをもつこと、話し合いの方向性を明確にすることが大切である。そのために、どのような手立てが有効かさらに実践を増やし、探っていく必要がある。



・本校 ESD の概要

1 地域の教材化

(1) 地域を愛する子どもをめざして

第二藤田小学校では、「地域」を教材化していく上で次のような3つの側面から教材を進めることとした。

- ①地域の環境
- ②地域の社会・経済
- ③地域の文化・歴史

○ 第二藤田小学校の子どもの「地域」に対する実態は…。

- ①について
 - ・魚とり，虫とりをした経験がある。
 - ・水の汚れ，地域の環境等に目を向ける機会が少ない。
 - ・家のまわりの事は，ある程度分かるが，学区全体として人やものについて興味をもったり問題を見いだしたりして解決し，地域のことを考えていく知識は乏しい。
- ②について
 - ・農業が盛んな（田畑が多い）地域であるのに，家庭が農業に従事している家はほとんどない。
- ③について
 - ・元々，この地域に長年住んでいたわけではなく，移り住んできた子が多い。そのため地域の文化・歴史に触れる機会は少ない。

○ ESD の取組を通じて，第二藤田小学校の教師が目指している子ども像は…。

- ①について
 - ・地域の生物多様性に気づくとともに，水の汚れ等の学区の環境の悪化にも気づき，その原因を知り，どうしていくことが大切かを考えて，将来実践してほしい。
- ②について
 - ・地域の宝である農業や人にしっかり目を向け，誇りをもってほしい。
- ③について
 - ・干拓地を切り開いてきた先人の努力，知恵によって，現在の藤田学区の経済基盤が築かれていることに気づいてほしい。

このように、「地域」に対する子どもの実態と教師が目指している子ども像には大きな開きがある。そこで，ESD の取組を通じて，地域を愛する心を育てていく必要があると考えた。

(2) 地域教材の分類

・子どもを育てていく手立てとして…

子どもを育てていく手立てとして，各学年の地域の「環境」「社会・経済」「文化・歴史」の領域に次のような課題を設定した。（表1）

表1 各学年の地域教材の課題

	地域の環境	地域の社会・経済	地域の文化・歴史
3年	・二藤学区の宝を見つけよう （藤田の用水路について知ろう）	・二藤学区の宝を見つけよう	・二藤学区の宝を見つけよう ・探せ！地域の達人 （フナ飯，地神水神）
4年	・われらエコ探検隊	・みんなで作ろうバリアフリー社会	・干拓の歴史，塩害，水不足
5年	・未来へ続く藤田の農業	・発見，探検，藤田の農業	・発見，探検，藤田の農業
6年	・MOTTAINAIプロジェクト （環境）	・MOTTAINAIプロジェクト （食糧問題）	・MOTTAINAIプロジェクト （水，世界との関わり）

2 ESDで身につけさせたい力

(1) ESDと問題解決の力

問題解決の力を身につける活動や、持続可能な社会をめざす活動は、本校ではすべての教育活動を通して身につけていくべきものと考えている。

本校のESDは、7つの力を身につけたり発揮したりしながら、地域の環境や社会・経済、文化・歴史についての事象をとらえ、疑問に思ったり調べたいと思ったりしたことを計画的に調べ、地域にかかわる気づきや考えをもつ中で、地域に目を向け、地域を愛する子どもを育てていくことをねらいとしている。

今年度は、ESDカレンダーを整理して、各学年の教育課程の中で、地域教材の分類の3つの視点や各教科・道徳などとESDとのつながりについて明らかにしたことである。特に、地域との関わりの深い生活科や総合的な学習の時間では、地域の環境や社会・経済、文化・歴史についての取組を意識して校内研究ともリンクさせてきた。今年度の校内研究のテーマを「互いの思いや考えを伝えあい、高め合うコミュニケーション活動の充実～話し合い活動の充実をめざして～」とし、問題解決的な学習を主とした研究を行った。全ての教科・領域の中で、考えをもたせたり、話し合わせたりする手立てを工夫するとともに、問題をつかみ、それを解決する方法を見つけ、自他の考えを比べてより確かな考えにしていくことや、人々のかかわりや思いに触れる活動を大切にしてきた。

(2) ESDでめざす力

本校では、ESDの視点に立った学習指導で重視する7つの能力・態度(表2)を、「問題解決能力」「かかわる力」「伝え合う力」「実践する力」の4つの“力”に分類(表3)し、子ども達に育てたい力とした。

表2 ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

①批判的に考える力	合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを思慮深く、建設的、協調的、代替的に思考・判断する力
②未来像を予測して計画を立てる力	過去や現在に基づき、あるべき未来像(ビジョン)を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力
③多面的、総合的に考える力	人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり(システム)を理解し、それらを多面的、総合的に考える力
④コミュニケーションを行う力	自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力
⑤他者と協力する態度	他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・協同してものごとを進めようとする態度
⑥つながりを尊重する態度	人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度
⑦進んで参加する態度	集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度

総合的な学習の時間の目標

身のまわりの環境，人，社会とのかかわりから自ら課題を見つけ，主体的，協同的に解決していく活動を通して，学びかたやものの考え方を身につけるとともに，自他のよさに気づき，よりよい生き方を考え，実践しようとする態度を育てる。

生活科の目標

具体的な活動や体験を通して，自分と身近な人々，社会及び自然とのかかわりに関心をもち，自分自身や自分の生活について考えさせるとともに，その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ，自立への基礎を養う。

表3 「生活科・総合的な学習の時間」等で育てたい力とESD7つの能力・態度との関係

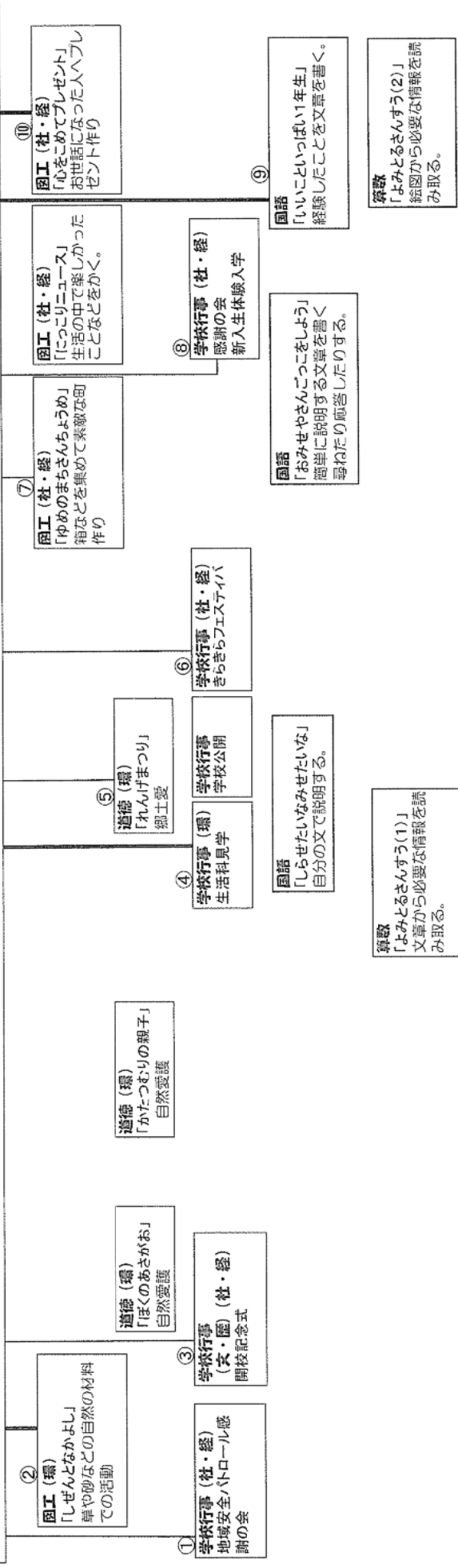
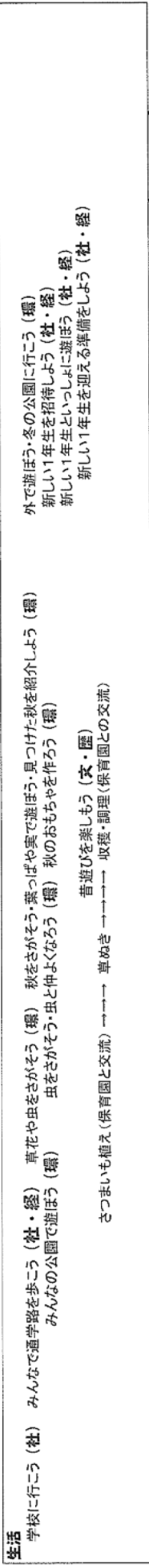
育てたい力		低学年	中学年	高学年
問題解決能力 ①批判的に考える力 ②未来を予測して計画を立てる力	・課題を見つけ，追究する力 ・調べた事実を整理して自分の考えをもつ力	・自分の思いや願いをもって最後まで活動できる。 ・活動を通して，気づいたり，感想をもったりすることができる。	・自分の課題について大まかな見通しをもって追究することができる。 ・調べたことを整理して自分の考えをもつことができる。	・自分の課題について見通しをもって追究することができる。 ・調べた事実を関連付けて自分の考えをもつことができる。
かかわる力 ③多面的，総合的に考える力 ⑤他者と協力する態度	・相手のことを考えてかかわろうとする力	・自分の周りの人に進んでかかわることができる。	・相手の立場や気持ちを考えながらかかわることができる。	・相手の立場や思い，願いを理解して，かかわることができる。
伝え合う力 ④コミュニケーションを行う力	・自分の考えや思いを相手や場にに応じて，分かりやすく伝える力 ・相手の立場を理解しながら聞き，話し合う力	・自分の言葉で表現し，伝えることができる。 ・聞き手や話し手になって，話し合うことができる。	・相手に分かりやすく整理して表現し，伝えることができる。 ・互いの考えの共通点やし合うことができる。	・相手に意見や主張が伝わるように，効果的な方法を工夫して伝えることができる。 ・互いの立場や意図をはっきりさせながら，話し合うことができる。
実践する力 ⑥つながりを尊重する態度 ⑦進んで参加する態度	・社会の一員としてまわりに働きかけながら活動しようとする力 ・学習で培った考えや思いを生活に生かすことができる力	・気づいたことを生活に生かしていこうとすることができる。	・地域へ目を向けて自分ができることから行動しようとするすることができる。 ・学習を通して培った自分の考えや思いを自分の生活に生かしていこうとすることができる。	・社会への一員としてまわりに働きかけながら自分ができる活動しようとするすることができる。 ・学習を通して培った考えや思いを自分の生活に生かして，よりよい生活を求めることができる。

○各学年ESDカレンダー

表4 藤田地区地域教材の対象（人・もの・こと）

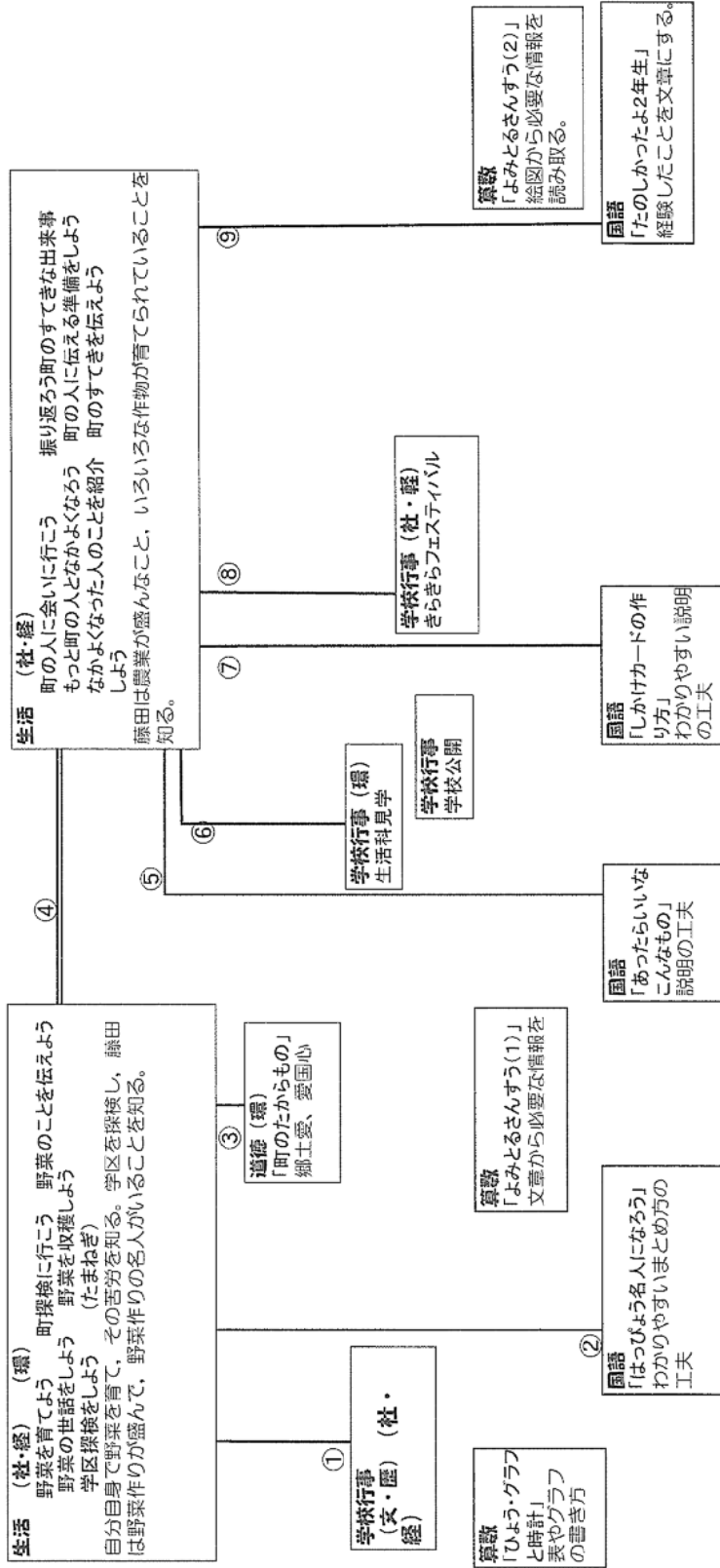
学年	地域の環境	地域の社会・経済	地域の文化・歴史
1年	<p>自然通学路, 近所の公園, 川, 畑, 田んぼ, 草むら (季節の移り変わり)</p> <p>草花・虫 (動植物の生態)</p>	<p>人さつまいもの苗植え, 栽培, 収穫 (長寿会の支援)</p> <p>伝承遊び (地域のお年寄り)</p> <p>安全パトロール隊の見守り</p>	<p>人伝承遊び・わらべうた</p>
2年	<p>水用水路 (水生生物のすみか)</p> <p>自然藤田神社, 通学路 (生物多様性), 広大な田んぼ</p>	<p>人農業従事者 (高齢者が多いが若者が働きやすい工夫あり)</p> <p>交番 (おまわりさんの見守り)</p> <p>かわい商店, 源吉兆庵見学</p> <p>国道30号線 (幹線道路)</p>	
3年	<p>水用水路 (農業用水・水生生物のすみか・外来種)</p> <p>自然広大な田んぼ (生物多様性), 水田の減少 (生物の減少・変化)</p>	<p>人学校への協力 (安全パトロール隊・放課後算数教室・地域の達人)</p> <p>用水のパイプライン化の推進</p> <p>国道30号線 (幹線道路)</p>	<p>人々の暮らしと密着する文化 (地区内の地神・水神・天水井戸・砂越瓶・生活水は用水路)</p> <p>藤田伝三郎太鼓 (H7年より)</p> <p>干拓によりできた藤田の土地 (藤田伝三郎・塩害と水不足・樋門・ポンプ場・藤田神社)</p>
4年	<p>ごみごみステーション, 当新田環境センター</p> <p>水三野浄水場, 妹尾配水池, 浄化センター, 浄化槽</p>	<p>福祉身の回りのバリアフリー</p> <p>家庭のUDさがし</p> <p>地域のUDさがし</p>	<p>人藤田語り部の会 (藤田の歴史)</p>
5年	<p>農業アヒル・アイガモ農法, 地球にやさしい農業の推進, 稲作 (米・麦), 農作物 (タマネギ・レタス・ナス・レンコン)</p>	<p>人高齢化社会 (農業従事者の高齢化・米作から畑作への転作)</p> <p>核家族化・新しい住宅地造成</p> <p>用水のパイプライン化の推進</p> <p>国道30号線 (幹線道路)</p> <p>地産地消・藤田ブランドのよさ</p>	<p>干拓によりできた藤田の土地 (藤田伝三郎・塩害と水不足・用水路→稲作・畑作)</p>
6年	<p>エコ省資源 (水・紙)</p> <p>省エネルギー (電気)</p>	<p>地球環境問題 (水質汚染・空気汚染・都市化・騒音・公害)</p> <p>食糧問題 (干ばつ・天災・機械化・人件費)</p> <p>身近なことから世界へ</p>	

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----



つながりの理由(1学年)	地域教材化
①地域の安全パトロール隊の方々と交流を通して、地域とのつながりを深めていくことができる。	(社・経)
②自然の材料を使っての造形遊び、体験活動をする中で、身の回りや地域の自然に目を向けることができる。	(環)
③自分の学校の歴史を知ること、より一層、学校のことが好きになり、地域とともに歩んできた学校の未来についても考えられる。	(文・歴)(社・経)
④生活科見学で「秋さがし」を行い、季節の移り変わりを肌で感じるとともに、見つけた秋の植物や生き物についての気付きを生かすことができる。	(環)
⑤道徳の時間に話し合った郷土を愛する心情は、地域の「秋みつけ」や自分たちの住む、まさに興味や関心をもつことにつながる。	(環)
⑥お世話になっている地域の方に、自分たちのがんばっている姿を見てほしいという思いや願いをもつことができる。	(社・経)
⑦「夢のまちづくり」を通して、こんな藤田のまちになったらいいなという思いや願いをもつことができる。	(社・経)
⑧自分たちが毎日、安全に登校できているのは、安全を見守ってくれているパトロール隊の方々のおかげであるという感謝の気持ちをもつことができる。	(社・経)
⑨この1年間で自分ができるようになったこと、成長を感じられることなどをふり返り、これからの自分について見つめ直すことができる。	(社・経)
⑩お世話になった6年生へのプレゼントを作ることで、感謝の気持ちを持ち、相手意識をもって行動することができる。	(社・経)

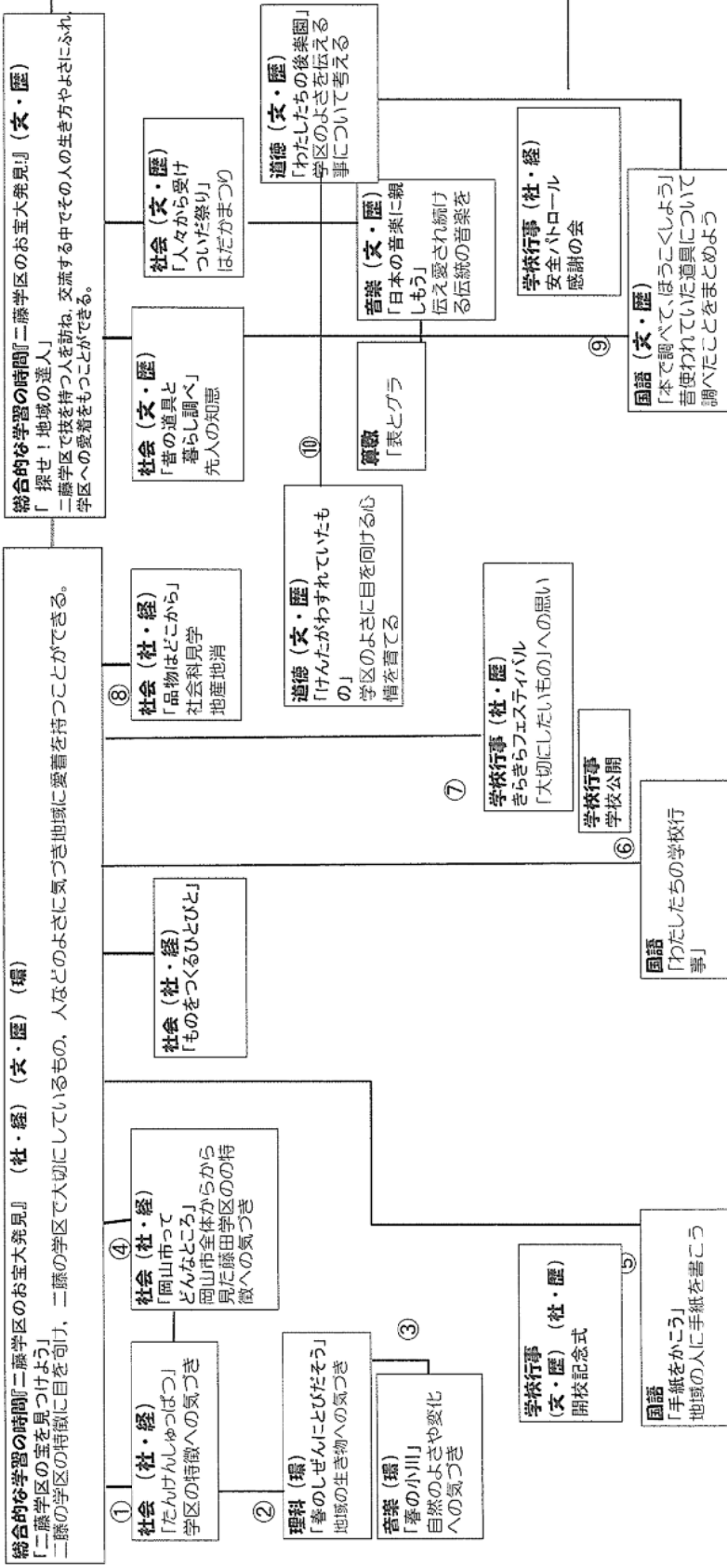
4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----



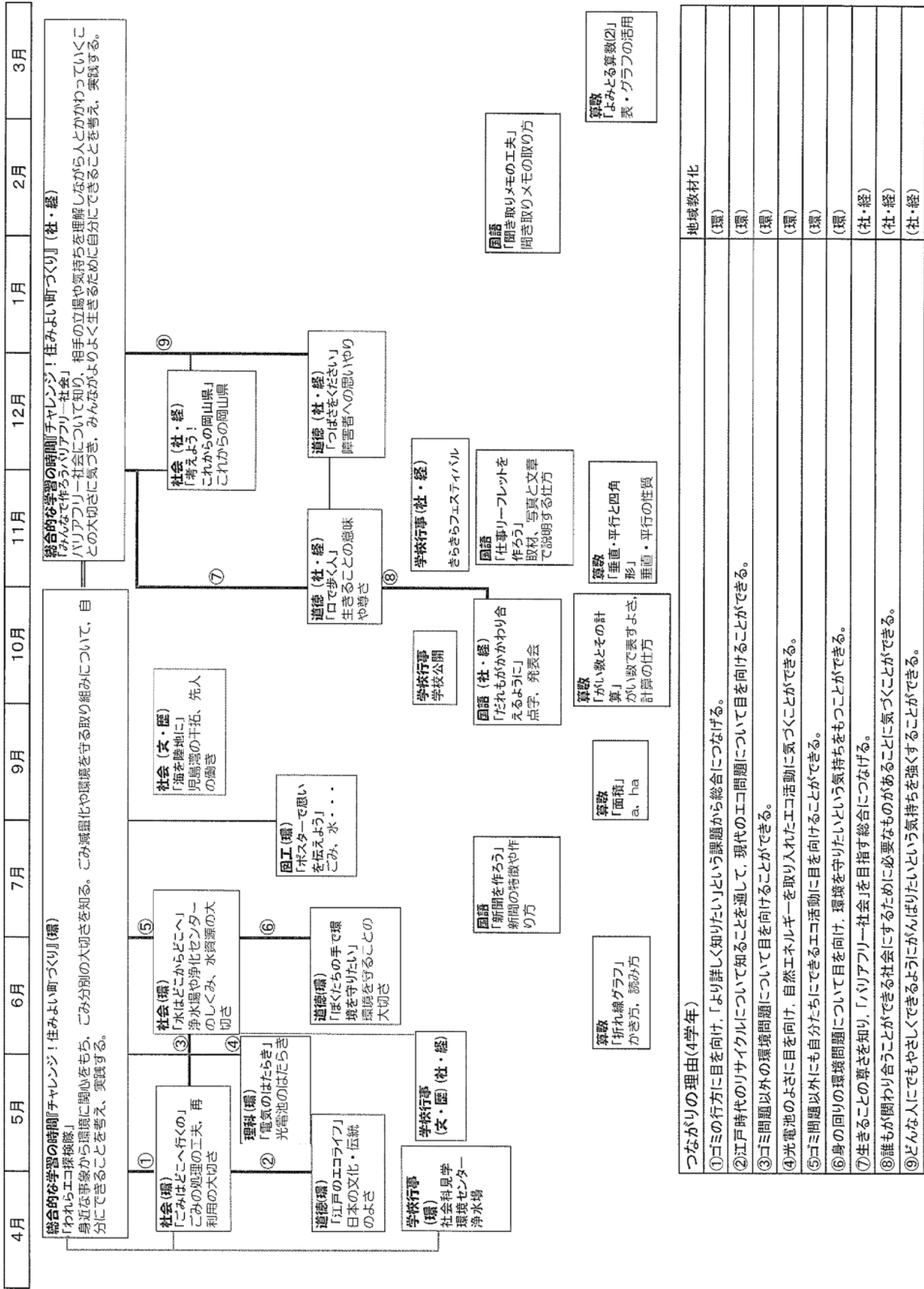
つながりの理由(2学年)

①自分の学校の歴史を知ること、より一層学校のことが好きになり、地域とともに歩んできた学校の未来について考えることができる。	地域教材化 (文・歴)(社・経)
②学区探検で気づいたことを、他者に分かりやすく発信するための表現方法を知り、文にまとめることで、自分たちの周りの自然の様子や地域の様子を知ることができる。	(環)
③「金虫」(郷土愛)の資料を通して、自分たちの周りの周りにも美しい自然や地域の人々が支える地域の特徴(地域の宝)に目を向けることができる。	(社・経)(環)
④自分たちで野菜を育てた経験を生かして、地域の人々の作物に対する思いや工夫に気づくことができる。また、地域の農業の特徴として玉葱栽培を知る。	(環)
⑤説明文の基本である「はじめ・中・おわり」のまとめを意識して簡潔に文をまとめる方法を学ぶことで、これからの生活科の表現活動に生かすことができる。	(社・経)
⑥生活科見学で「秋さがし」「動物との触れ合い」などの活動を通して、季節の移り変わりを感じるとともに、身の回りの贈物や動物について関心をもつことができる。	(社・経)
⑦多くの事例を、順序立てて説明する方法を学ぶことで、これからの生活科の表現活動に生かすことができる。	(社・経)
⑧お世話になっている地域の方に、自分たちのがんばっている姿を見ていただくことで、地域とのつながりをもつことができる。	(社・経)
⑨一年間を通して、地域の自然や人々の様子に多くの気づきがあったことや地域の人々とのあたたかなふれあいがあつたことなどを振り返ることで、自分たちが住んでいる地域を大切に思う気持ちを持てることができる。	(社・経)(文・歴)(環)

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

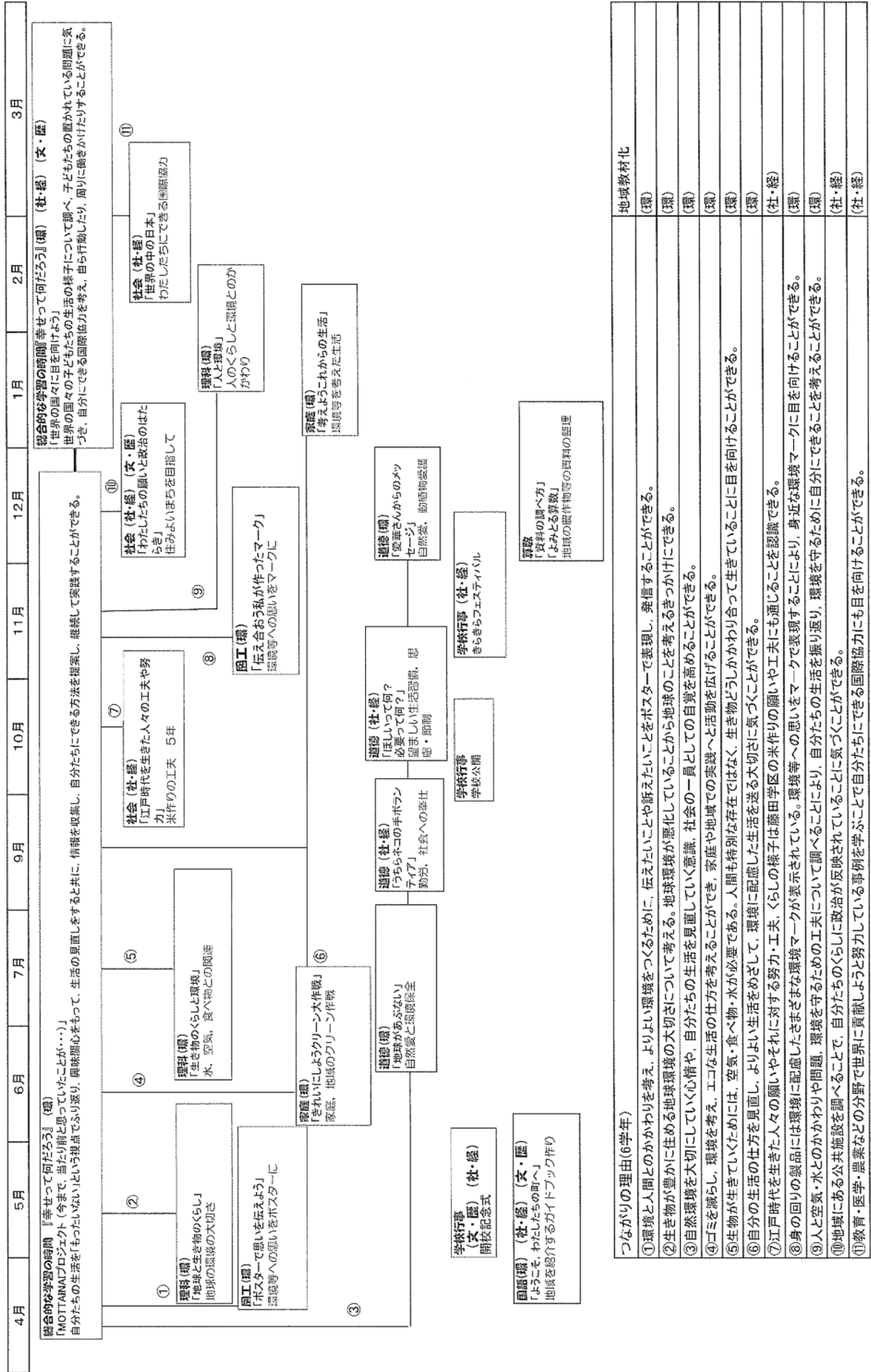


つながりの理由(3学年)	地域教材化
① 自分たちが住んでいる周りには何があるのだろう、どんな特徴があるのだろうかというところに向け、「より詳しく知りたい」という課題から総合へつなげる。	(社・経)
② 春になり身の回りににはどんな生物や植物がいるのだろうかというところに向け、自分たちの通学路の周りにある動植物に目を向けることができる。	(環)
③ 「春の小川」に代表されるように、日本の四季は美しく昔から歌われてきた。自分たちの周りの自然の様子や地域の様子に目を向けることができる。	(環)
④ 藤田学区を岡山市全体の様子から見ると、田んぼが多い、用水路や道によって区内に区切られている、大きな川がある等の特徴に気づく。	(社・経)
⑤ 基本的な手紙の書き方を学習することにより、これからの総合の学習でも依頼の手紙、お礼の手紙などを書く活動で生かすことができる。	
⑥ インタビューをするときの基本的な方法やマナーについて学ぶことで、これからの総合の学習でもインタビューをするときなどに生かすことができる。	
⑦ 何かを大切にしようとするこの前提に自分のことや友だちを大切に思う気持ちがある。その学習から藤田でつくられている物に目を向けることができる。	
⑧ スーパーでは新鮮な物を届けるために、地元産の物を販売していることがある。その使い方を地域の人々に教えていただいたり、本で調べたりして昔の人々の生活の知恵に気づくことができる。	(社・経)
⑨ 昔の人が生活を便利に、少しでも豊かにしようとした道具に関心をもち、その使い方を地域の人々に教えていただいたり、本で調べたりして昔の人々の生活の知恵に気づくことができる。	(文・歴)
⑩ 学区の特徴を調べたり、地域の人々とふれあったりすることでより深く自分たちが住んでいる地域を大切に思う気持ちが育まれる。その気持ちを大切に持ち続ける事の大切さに気づく。	(文・歴)



つながりの理由(4学年)	
①	ゴミの行方にも目を向け、「より詳しく知りたい」という課題から総合につなげる。
②	江戸時代のリサイクルについて知ることを通して、現代のエコ問題について目を向けることができる。
③	ゴミ問題以外の環境問題について目を向けることができる。
④	光電池のよさにも自分たちにてできるエコ活動に目を向けることができる。
⑤	ゴミ問題以外にも自分たちにてできるエコ活動に目を向けることができる。
⑥	身の回りの環境問題について目を向け、環境を守りたいという気持ちをもつことができる。
⑦	生きることの尊厳を知り、「パリアフリー社会」を目指す総合につなげる。
⑧	誰もが関わり合うことができる社会にするために必要なものがあることに気づくことができる。
⑨	どんな人にもやさしくできるようにがんばりたいという気持ちを強くすることができる。

地域教材化
(環)
(環)
(環)
(環)
(環)
(環)
(社・経)
(社・経)
(社・経)



つながりの理由(6学年)	地域教材化
①環境と人間とのかわりを考え、よりよい環境をつくるために、伝えたいことや訴えたいことをポスターで表現し、発信することができる。	(環)
②生き物が豊かに住める地球環境の大切さについて考える。地球環境が悪化していることから地球のことを考えるきっかけにできる。	(環)
③自然環境を大切にしている心情や、自分たちの生活を見直していく意識。社会の一員としての自覚を高めることができる。	(環)
④ゴミを減らし、環境を考え、エコな生活の仕方を考えることができ、家庭や地域での実践へと活動を広げることができる。	(環)
⑤生物が生きていくためには、空気・食べ物・水が必要である。人間も特別な存在ではなく、生き物どしうかがわり合って生きていることに目を向けることができる。	(環)
⑥自分の生活の仕方を直し、よりよい生活をめざして、環境に配慮した生活を送る努力・工夫、くらしの様子は藤田学区の米作りの願いや工夫にも通じることができる。	(環)
⑦江戸時代を生きた人々の願いやそれに対する努力・工夫、くらしの様子は藤田学区の米作りの願いや工夫にも通じることができる。	(社・経)
⑧身の回りの製品には環境に配慮したさまざまな環境マークが表示されている。環境等への思いをマークで表現することにより、身近な環境マークに目を向けることができる。	(環)
⑨人と空気・水とのかわりや問題、環境を守るための工夫について調べることに、自分たちの生活を振り返り、環境を守るために自分ができることを考えることができる。	(環)
⑩地域にある公共施設を調べることで、自分たちのくらしに政治が反映されていることに気づくことができる。	(社・経)
⑪教育・医学・農業などの分野で世界に貢献しようとする努力している事例を学ぶことで自分たちができる国際協力にも目を向けることができる。	(社・経)

平成25年10月22日(火) 第3校時 場所 1A・1B教室 指導者 赤松るり子・岩本 孝一

1 単元名 「むかしからのあそびをたのしもう」(地域の文化・歴史)

2 単元の目標と育てたい力

(1) 単元の目標

身近な年長者や友達と昔からの遊びをしたり、伝え合ったりして、かかわることの楽しさやよさを感じ、昔からの遊びの楽しさ、遊びのおもしろさに気づき、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

(2) 育てたい力

かかわる力(⑤他者と協力する態度)

・自分から身近な年長者の方に遊び方を尋ねたり、友達と教え合ったりすることを通して、自分の周りの人に進んでかかわることができる。

伝え合う力(④コミュニケーションを行う力)

・年長者の方に教わった遊び方のコツを友達同士で伝え合ったり、できるようになった技を披露し合ったりすることなど、相手を意識しながら自分の言葉で表現し、伝えることができる。

3 単元の評価規準

生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気づき
<ul style="list-style-type: none"> 昔からの遊びを進んで年長者の方から教わり、楽しもうとする。 適切なあいさつや言葉遣いに気をつけて、年長者の方と交流しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 昔からの遊びの方法やルールを理解し、自分で工夫して遊ぶことができる。 年長者の方や友達と遊んで楽しかったことをふり返り、自分なりの方法で表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 昔からの遊びのよさや、年長者の方や友達とふれあう楽しさに気付くことができる。 昔からの遊びに挑戦し、努力している自分のよさに気付いている。

4 単元について

(1) 教材観

生活科の第1・2学年の目標(4)では、「児童が身近な環境と直接かかわる活動や体験を楽しむことを大切にしており、その中で熱中し没頭したこと、思わぬ発見をしたこと、成功したことなどの喜びを味わうとともに、直接体験を通して実感的な分かり方ができるようになること」とある。また、「それが、その後の学習や生活への意欲と工夫を生み出し、実生活で役立つことにつながる」とあり、体験活動の重要性を述べている。そこで、昔からの遊びを取り上げ、くり返し遊びを体験したり、遊びを通じた児童同士または地域の年長者の方との交流をもったりする中で、より多くの様々な知的な気づきを見つけることができると考えた。

本単元は、身近な年長者の方との交流の場を設定し、昔の遊び方やコツを教えてもらい、年長者の方とかがわっていく中で体験活動の楽しさを味わうことを主なねらいとしている。また、昔からの遊びの工夫や遊び方を教えてもらうことで、年長者の方の知恵や優しさにも気付かせたい。さらに、友達と一緒に昔遊びの名人を目指して遊びの工夫を凝らしたり、楽しい遊び方を発見したりするなどの活動を広げていく。昔からの遊びを体験していきながら、遊びそのものへの気づきだけでなく、身近な人々とかかわることのよさや楽しさなどの気づきをこれまでより多く自覚できる活動にしていきたい。

(2) 児童観

本学年の児童（男子23名，女子34名，計57名）は，祖父母と同居している児童が10名，祖父母や近所の年長者と一緒に遊んだことがある児童が48名である。身近な年長者との交流はあるものの，普段の会話の中に祖父母の話はほとんど聞かれない。日常的に年長者と話をしたり，かかわったりする経験が少ない児童も多いと思われる。

これまでの地域の年長者とのかかわりは，安全パトロール隊の方に登下校中の安全の見守りや，近くの公園へ虫探しに出かけた時の見守りでお世話になったり，長寿会の方に保育園児と一緒にさつまいもの苗植えを教えてもらったりしたことである。地域の年長者ということで親しみはあり，話しかけられると答えてはいたが，自分から進んで話をする児童は少なかった。

昔からの遊びについては，数種類ではあるがほとんどの児童が保育園や幼稚園で遊んだ経験がある。しかし，継続してできるようになった喜びを味わうまでには至っておらず，身近な年長者との交流の経験もあまりなかったようである。本単元を通して，自分たちで遊びを工夫したり，友達と教え合ったり，地域の人から教えてもらったりして，できるようになった喜びを味わえるようにしていきたい。

(3) 指導観

入学後の児童の様子を見ると，人と人とのかかわりの面で経験不足の様子がうかがえた。そこで，生活科の授業において人と十分にかかわりをもつため，昔遊びを通していろいろな遊びを工夫し，生き生きとした体験活動に取り組めるようにしてきた。遊びを楽しむために，長年受け継がれてきた伝承遊びのよさに触れることにより，技能を高めたい，遊び方を工夫したいという自分の願いをもって活動できると考える。また，手軽で素朴な伝承遊びに親しむことは，郷土文化のよさに気付くことにもなる。

本単元においては，子ども達が他者と「かかわる力」を身につけていくことを大切にしていく。具体的には，自分から身近な年長者の方に尋ねたり，友達と教え合ったりする力と考える。練習の中で，自分から身近な年長者の方に尋ねることができた児童や，友達と教え合っただけ練習していた姿を教師が認め，価値づけることで，自分から「かかわる力」を身につけていきたい。活動の終わりには，今日がんばったことを友達と話し，できるようになった自分を振り返るようにすることで，さらに練習していこうとする意欲をもたせていきたい。

5 研究主題とのかかわり

(1) 校内研究テーマ

「互いの思いや考えを伝えあい，高め合うコミュニケーション活動の充実」
～話し合い活動の充実をめざして～

(2) 本単元における「主体的な地域へのかかわり」について

本単元では，身近な年長者や友達とかかわりながら，昔からの遊びが上達していくという充実感を味わわせることに重点を置いている。考える力・聞く力・ふり返る力・あきらめない力などを実感することで，自分の身近な人とかかわることが楽しいと思ったり，今後の生活に遊ぶ楽しさを求め，生活に遊びを取り入れるようになったり，自分の成長に気付いたりできるのではないかと考えた。

例えば，昔遊びをする際に「こうしたら技ができるようになるのではないかと考える力，人に丁寧に「教えてください」と聞く力，活動前と後ではどう自分は変わったのかとふり返る力，技に取り組むあきらめない力などである。さらには，地域の身近な年長者へ出す手紙や「きらきらフェスティバル」での発表などで「表現する力」を育てるとともに，地域の人とのかかわりについて関心をもてるようにしたい。

また，地域の方と昔からの遊びを通して，自分が住む地域の素晴らしさ，地域に住む人のよさや優しさなどに触れ，地域に親しみを持ち，進んで地域にかかわろうとする態度を育てたいと考える。

(3) 主題に迫るための具体的な手だて

○活動の場の設定

「昔遊びの会」をきっかけとした，身近な年長者の方によるゲストティーチャーとの交流の場を設定する。いつでも遊べるように，昔遊びの道具や関連図書を用意する。

○家族を巻き込む

様々な昔からの遊びの活動をこなす家族が尊敬やあこがれの対象になるよう，家族と一緒に昔からの遊びをする活動を設定する。家族に認められることにより，できるようになった自分に気付くことがで

きるようにする。

○昔遊びの時間の確保

体験の時間を十分に確保することで知的好奇心を高めたり、気づきの質を高めたりできるようにする。

○自分の思いや考えを伝えるための工夫

友達同士でコツを教え合ったり、できるようになったところを認め合ったりする場を設定することで、自分の伝えたいことを相手にわかりやすく話したり、相手の話をよく聞いたりできるようにする。

○コミュニケーションを図る場の工夫

身近な年長者との「昔遊びの会」を通して、言葉遣いに気をつけながら遊び方を教わったり、友達と練習する中で友達のよさや自分との違いに気付いたりして、相手とかかわる喜びや相手を尊重する態度を育てる。

○発表会「きらきらフェスティバル」の設定

発表会を設定することで、いつまでにどんな技を完成させたいのか目安をもてるとともに、教えてくださった地域の方へ伝えたいことを考え、表現できるようにする。

6 本時の学習（7／14時間）

(1) 本時の目標

○昔の遊び名人になるためのコツを友達に伝えたり、友達のアドバイスを聞いて取り入れたりしようとしている。〈関心・意欲・態度〉

○友達と互いに教え合いながら、遊びの練習を続けることができる。〈思考・表現〉

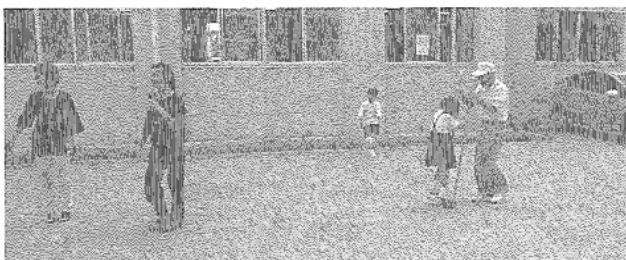
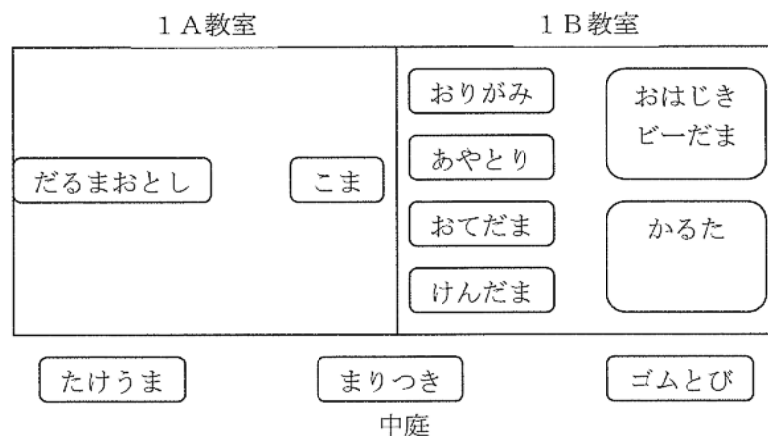
○遊びのコツがあること、友達と教え合って練習するよさや、くり返し練習することの大切さに気付いている。〈気づき〉

(2) 準備

〈全体〉 活動進行表（大）、活動場所表示（大）

〈遊びの班ごと〉 コーナー表示、掲示ボード、「きょうのめあてカード」、「名人になるためのコツカード」、昔遊びの道具、活動進行表（小）、「ふりかえるカード」

(3) 遊びの場の設定



(4) 本時の展開

過程	主な学習活動	○指導上の留意点 ■評価の視点
つかむ (5分)	1 本時のめあてと今日の活動の流れを確認する。	○本時は、全員が昔の遊び名人に近づくことができるように友達同士で教え合うことを伝える。 ○班ごとの活動の流れがわかるように、活動進行表を作成し、班長に渡しておく。
おしえあおう！いっしょにめいじんめざそうね！		
活動する (30分)	2 「昔の遊び名人」をめざして、班で教え合いながら練習する。 【本時で取り組む昔の遊び】 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・こま (A-1) ・だるまおとし (A-4) ・おはじき・ビーだま (B-5) ・おりがみ (B-4) ・あやとり (B-1) ・おてだま (B-2) ・けんだま (B-6) ・かるた (A-6) (B-3) ・ゴムとび (A-2) ・まりつき (A-3) ・たけうま (A-5) </div>	○昔遊び名人から学んだことや、今まで練習してきた中で見つけた「名人になるためのコツ」を確認し合い、班のみんなが昔の遊び名人をめざして練習できるようにする。 ○友達にアドバイスをしたり、友達の友達に気づき、そのことを本人に伝えたりしている児童を賞賛する。 ■友達と教え合いながら、昔からの遊び名人をめざして進んで練習しようとしている。 (関心・意欲・態度) B評価→友達の練習を見て、声をかけている。 A評価をめざす児童に対する手立て →アドバイスと賞賛の両方の声かけをするとよいことを伝える。 C評価の児童に対する手立て →担任も一緒に友達の活動を見ることで、気付いたことを伝えるように励ます。 ■友達と教え合いながら、遊びのおもしろさを工夫して伝える楽しさに気付いている。 (気づき) B評価→友達と教え合うことの楽しさに気付いている。 A評価をめざす児童に対する手立て →「名人になるためのコツ」以外にも、気付いたことを自分の言葉で伝えるとよいことを助言する。 C評価の児童に対する手立て →「名人になるためのコツ」をもう一度確認しながら、友達の活動を見るよう助言する。
まとめる (10分)	3 今日の活動をふり返る。 ・班で ・全体で 4 次時の活動を確認し、協力して後片付けをする。	○班の友達同士で今日の活動のふり返りができるように、「ふりかえるカード」を用意しておく。 ○各自の活動や気づきを交流する中で、自分の活動をふり返り、次の活動へ意欲をつなげることができるようにする。 ○友達の発表を見たり聞いたりして、よいところやがんばっていたところを見つけられた児童を称揚する。 ○次時には、友達と教え合いながら、「きらきらフェスティバル」での発表をめざして、さらに昔の遊び名人に近づくことができるように練習を積み重ねていくことを確認し、意欲化を図る。 ○みんなで協力して後片付けをするように促す。

7 成果と課題（○有効点 ●改善点 ◎地域の年長者の方から学んだ点）

(1) 地域を知る

○地域の方（自分の祖父母）に「○○が上手にできるようになったね。」などと言われたことにより、自分の成長や地域の人と生活していることに気付くことができた。

●けん玉で遊んでいる子どもは、ゲストティーチャーとしてかかわってくださる地域の方が少ないだけでなく、友達とも遊びの中にかかわりが希薄になってしまっていた。一人で遊んでいる子どもへの対応を工夫し、遊びの質を高める必要があった。

◎地域の方にゲストティーチャーとして活動に参加してもらう際に、「子ども達に○○を教えてください。」とお願いするよりも、「一緒に○○してください。」というアプローチをすることで、地域の方が参加しやすくなると同時に、子どもとの距離感が近くなることがわかった。

(2) 気付く・調べる・考える

○「ふりかえるカード」で毎回本時のふり返しをすることで、子どもが学習での気づきをふり返ることができ、学級全体に気づきの目を知らせることができた。また、次時の課題をはっきりともつことができた。

○体験の時間を十分に確保したことで、知的好奇心を高めたり、気づきの質を高めたりすることができた。

○いつでも遊べるように、昔からの遊びの道具や関連書籍を用意したことで、技ができるまでじっくりと取り組むことができた。

○人に教わりながら遊べる昔遊びでは、友達ができなかった遊びの技ができるようになった過程を見て、興味を示さなかった子どもも興味を示し、取り組み始めた。

●気づきを共有するために、気づきが書かれたワークシートを子どもが気付く度にグループや全体に紹介したが、目につくところに掲示するなどして、視覚的に見える形での支援も必要だった。

◎遊びごとに、どんなかかわり方をし、どんな評価をすればよいのかを共通理解しておくことで、教師の見取りが確かになる。

◎子どもが主体的に活動できるような手立てを工夫するとよい。

(3) 表現する

○友達同士で技を見せ合うことで、しだいに技ができるようになった。さらに一緒に新しい遊び方を生み出すことにもつながった。

○「学校のお兄さんやお姉さんたち、幼稚園や保育園の子たち、遊びを教えてください。」という子ども達の思いや願いをもとに、「きらきらフェスティバル」での発表会を計画した。その結果、いつまでに何の技を完成させるのかゴールイメージをもって活動に取り組むことができた。発表会後も、休み時間には今まで自分が挑戦していなかった遊びに積極的に取り組もうとする姿が見られた。

●「きらきらフェスティバル」での発表は、劇遊びの形にしたため配役に制限があり、一部の子ども達の発表にとどまり、全員の子どもの十分に活躍できる場が提供できなかった。参観日など、他の学校行事などの際に発表の場を設けるようにしたい。

◎ふり返りは単なる反省ではなく、次の授業へとつなぐものである。生活科では、ふり返ることで思いや願いをもたせることができ、そして次につながる活動意欲となる。



1 単元名 みんなでつくろうバリアフリー社会(地域の社会・経済)

2 単元目標と育てたい力

(1) 単元目標

バリアフリー社会について知り、体の不自由な方の生活を調べたり福祉体験をしたりすることを通して、人や命の尊さに目を向け、だれもがかかわり合うことができる思いやりのある社会を築くために自分たちができることを考え、まわりの人のことを考えて実践することができるようにする。

(2) 育てたい力

問題解決能力(①批判的に考える力, ②未来を予測して計画を立てる力)

・福祉体験などを通して、体の不自由な方のくらしや道具などに興味をもち、お互いがよりよく生きるためにどんなことができるのか課題を見いだし、見通しをもって情報を集め、追究していくことができる。

伝え合う力(④コミュニケーションを行う力)

・自分の考えをもち、伝え合ったり比べ合ったりして話し合いを進めることができる。
・調べて分かったことや相手に伝えたいことを図や写真などを用いてまとめ、伝えることができる。

3 単元設定の理由

(1) 単元について

4年生は「未来のしあわせみつけ」を合言葉に総合的な学習の時間をスタートさせた。本単元「みんなでつくろうバリアフリー社会」は10月からの半年間のスパンで始まった学習である。体の不自由な方の生活を調べたり、体験活動をしたり、ユニバーサルデザイン講座を聞いたりすることにより、体の不自由な方の思いや支援活動に気づくことができるようにし、自分たちができることを考えて実践活動を行うことにした。自分たちの活動は体の不自由な方の役に立つかどうかを常に考えるようにすることで、相手の立場に目を向けることの大切さや誰にとっても役に立つという視点に気づくことができるようにしたい。さらに、一人一人障がいの種類や度合いが違うことを知り、相手に応じた支援の仕方があることや相手のことを考えることが大切だということに気づかせたい。また、障がいを克服してすばらしい活動をしている方のことを知る学習を取り入れることで、自分のよさを生かし努力する姿に感動してほしい。同時に、子どもたちにもそれぞれよさがあることを再認識できるようにしたい。そして、体の不自由な方だけでなく自分のまわりの人や友達にも自分のできることを考え行動することができるようになってほしいと考えた。これは地域教材化の地域の社会・経済にあたりとらえている。

・問題解決能力について

福祉体験や調べ学習や道徳の時間の学習などを通して、体の不自由な方たちの立場や思いに気づくことができるようにする。そこで体の不自由な方のくらしや道具に興味をもち、誰もがよりよく生きるためにどんなことができるのか課題を見つけることができるようにする。また、自分たちの考えた活動は体の不自由な方の役に立つかどうかを常に考え、またそのことが誰にとっても役に立つことにつながることを意識することができるようにすることで、見通しをもって情報を集め、追究していくことができるようにしたい。

・伝え合う力について

時間を十分設け、ワークシートに自分の考えを整理することにより、バリアフリー社会について自分の考えをもつことができるようにする。次に4～5人のグループで意見を出し合い、比べながら聞いて、新たな考えをもつことができるようにする。自分たちの考えた活動は体の不自由な方の役に立つかどうかを常に考えるように示しておくことで、相手の立場に目を向ける大切さや誰にとっても役に立つという視点で話し合いを深めることができるようにする。また自分たちが考えてしてきた活動を少しでも多くの人に伝えることが未来のバリアフリーにつながることに気づかせ、図や写真などを用いてまとめ伝えることができるようにしたい。

(2) 児童の実態

4年生の児童は、3年生の総合的な学習の時間において、二藤学区の特徴を調べ、二藤学区の宝としてまとめてきた。また1学期は、社会科の単元「ゴミはどこへ行くの」をきっかけに、エコについて調べ、自分たちにできることを考えてきた。こうした取り組みを通して、地域への愛着は育ってきている。しかし、未来に向かってよりよい地域にしていきたいという願いをもつには至っていない。そこで今の地域をよりよい地域にするためには何ができるのかを考え、調べ、話し合い、実践できるようにしていきたい。

4 研究テーマとの関わり

(研究テーマ)

互いの思いや考えを伝えあい、高め合うコミュニケーション活動の充実
～話し合い活動の充実をめざして～

本時では次のような活動を大切にすることによって研究テーマに迫ることができると考えた。

- (1) 自分の考えをもつこと。
- (2) 自分の考えを相手に伝え、相手の考えをしっかりと聞くこと。
- (3) よりよい考えがうまれる体験に喜びを感じる。

(指導の工夫)

(1) 自分の考えをもつ工夫

- ・本時の活動内容については、前時にワークシートに自分の考えを整理する時間を確保し、自分の考えをもつことができるようにする。
- ・ワークシートに書くことで、前時から本時への見通しをもち、考えをはっきりすることができるようにする。

(2) 自分の考えを相手に伝え、相手の考えを聞き、考えを比べる工夫

- ・ワークシートを輪読することで、お互いの考えを短時間で共有することができるようにする。
- ・ワークシートをもとに一人ずつ理由や言葉を補いながら発表することで、自分の考えを伝えやすくする。
- ・話し合いは、総合的な学習の時間だけでなく、他教科領域でも行う。

(3) よりよい考えがうまれる体験に喜びを感じる工夫

- ・「何が変わるか」「本当にできるか」「必要はあるか」をキーワードに話し合いを進めることを知らせ、発信の必要性に気づくことができるようにする。
- ・「それでいいのか」「誰のためになるか」をキーワードにすることで、体の不自由な人はもちろん誰もが共に生きていくために活動したいという思いを確かめることができるようにする。
- ・付箋に新たな考えを書き足すことで、自分の考えの深まりを意識することができるようにする。
- ・新たな考えを書いた付箋をグループ用のワークシートに貼り、グループの考えをまとめることができるようにする。
- ・考えをまとめるときには、理由を付けて意見を言うようにすることで、話し合いを深めることができるようにする。

5 単元構想図

学期	月	単元名・時数・学習活動	他教科との関連
1 学期	4	・「未来のしあわせみつけ」をみんなでしよう (1) (オリエンテーション) われらエコ探検隊 (29時間)	社会 「ゴミはどこへ行くの」
	5	・当新田環境センターに見学に行き、ゴミの量や処理について知る。(4)	理科 「光電池のはたらき」
	6	・環境ゴミスクールの出前授業で、実際にゴミ収集をしている人から、ゴミ収集の工夫や苦勞、願いについて知る。(5)	社会 「水はどこからどこへ」
	7	・インターネットや図書資料で環境問題について調べる。(6)	道徳 「江戸のエコライフ」 「ぼくたちの手で環境を守りたい」
	8	・自分の家で「エコ調べ」をして、ゴミや環境にやさしい工夫について意識を向ける。 (夏休みの課題)	

2 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> ・わかったことをグループごとに画用紙にまとめる。(5) ・エコの実践に向けて大切なことは何かについて話し合う。(4) ・未来をシェアするエコ活動について発表する。(5) 	国語 「新聞を作ろう」
	10	<p>みんなで作ろうバリアフリー社会 (39時間)</p> <p>だれもが共に生きるために必要なことを話し合い、何ができるのか考え、発信しよう</p> <p>(12時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすやアイマスク体験などをする。 ・UD講座を聞きUDグッズについて知る。 ・体の不自由な人たちの暮らしについて調べる。 ・自分たちの考えを出し合い、テーマについて話し合う。(本時) ・詳しく調べる方法や手順を話し合う。 ・計画を立て、実践するために必要な準備をする。 	国語 「だれもがかかわり合えるように」 道徳 「口で歩く人」 「つばさをください」 社会 「考えようこれからの岡山県」
	11	<p>グループで話し合おう (6時間)</p> <p>○もっと障がいについて調べるグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験をしたい ・体の不自由な人に会って話を聞きたい。 <p>○ユニバーサルデザイングループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・UDグッズをみつける。 ・UDグッズを考える。 ・UDの家を考える。 ・UDの町を考える。 <p>○岡山県グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点字ブロック発祥の地岡山を伝える。 ・片手でまけるマフラー <p>○点字グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点字ボランティアをする。 	国語 「仕事リーフレットを作ろう」
12	<p>実践しよう (6時間)</p> <p>○もっと障がいについて調べるグループ</p> <p>○ユニバーサルデザイングループ</p> <p>○岡山県グループ</p> <p>○点字グループ</p>		
3 学 期	1	<p>まとめよう (5時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのした活動について写真や図を加えてまとめる。 	国語 「聞き取りメモの工夫」 算数 「よみとる算数」
	2	<p>意見交換をしよう (5時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践してきたことや考えてきたことをもとにして意見を出し合い、バリアフリー社会になっているかを話し合う。 	
	3	<p>みんなに知らせよう (2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来の幸せな社会につなげるために、より多くの人たちに知ってもらおう。 ・きらきら学習をふり返ろう (2時間) 	

6 本時案

目標	自分がしたいことをもとに何ができるのかを話し合うことを通して、発信することの必要性に気づいたり、体の不自由な人はもちろん誰もが共に生きていくために活動したいという思いを再認識したりして、活動の見通しをもつことができるようにする。	
学習活動	支援	評価
1 本時の流れとめあてを確かめる。(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを見て前時までの学習をふり返り、本時のめあてを確認することができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> したいことを伝え合い、大切なことは何か話し合って、みつけよう </div>	
2 グループで話し合う。(25分)	<ul style="list-style-type: none"> 1グループの人数を4～5人とし、お互いの考えを伝え合いやすくする。 したいこととその理由を書いた各自のワークシートを輪読することで、短時間で多様な考えを共有することができるようにする。 ワークシートをもとに一人ずつ理由や言葉を補いながら発表することで、自分の考えを伝えやすくする。 「何が変わるか」「本当にできるか」「必要はあるか」をキーワードに話し合いを進めることを知らせ、発信の必要性に気づくことができるようにする。 「それでいいのかわ」「誰のためになるか」をキーワードにすることで、体の不自由な人はもちろん誰もが共に生きていくために活動したいという思いを確かめることができるようにする。 付箋に新たな考えを書き足すことで、自分の考えの深まりを意識することができるようにする。 新たな考えを書いた付箋をグループ用のワークシートに貼り、グループの考えをまとめることができるようにする。 考えをまとめるときには、理由を付けて意見を言うことで、話し合いを深めることができるようにする。 グループ内でまとまったこととまとまらなかったことをはっきりさせて、まとまらなかったことはみんなに相談してみようと助言し全体への話し合いにつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えに理由や言葉を補いながら伝えることができている。 (観察) 話し合いにより、新たな考えを書き足すことができている。 (付箋)
3 話し合いの結果を発表する。(10分)	<ul style="list-style-type: none"> 発表の際、ワークシートを提示装置でTVに映すことで、考えの深まりを示すことができるようにする。 「ぼくたちのグループは〇〇が大切だと考えました。理由は△△だからです。」「私たちのグループは〇〇が大切だと考えました。でも△△も大切ではないかという考えもでていて迷っています。」の話形を提示することで、意見を全体の場で伝え合いやすくする。 友達の発表を聞いてよいと思ったことを発表し、お互いのよさを認め合うことができるようにする。 	
4 本時のまとめをする。(5分)	<ul style="list-style-type: none"> 今日の学習を振り返り、自分の達成度と次の時間への見通しをもつようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 多くの人に発信していくことが必要だ。 体の不自由な人はもちろん誰もが共に生きていくために活動していきたい。 </div>	

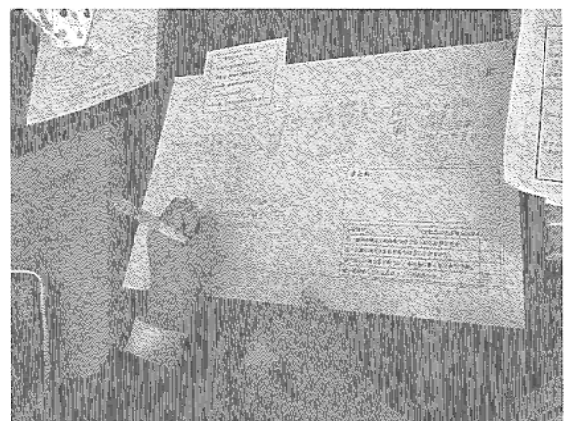
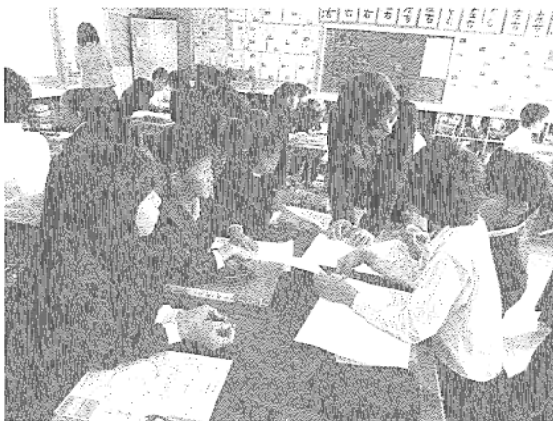
7 成果と課題

(成果)

- ・ 学年目標「しあわせみつけ」と関連付けて、総合的な学習の時間の合言葉を「未来のしあわせみつけ」としてスタートしたことから、他者や未来を日常とつなげて意識することができた。
- ・ 家、学校、地域の現状を調べる活動やUD 講座を通して、社会の中でUD になっているところとなっていないところに気づき、UD にできない経済的な理由を知ることができた。そのため、友達との話し合い活動の中で、「今の自分ができること」に目を向け、作ることはできなくても考えることはできることや、そのことこそが大切で、みんなが考えていくことで、未来の幸せにつながるとの認識に至った児童もみられた。
- ・ 話し合い活動の支援
 - 1 話し合いカード・・・グループごとに全員が司会や記録を経験し、話し合いの手順や役割を理解することにより、話し合い活動に慣れ、安心して考えを述べたり話し合ったりすることができるようになった。自分が話す際には、書いていないことを付け加えて話すことができるようになってきた。また、話し合いを楽しみにする様子もみられるようになった。
 - 2 切り返しのキーワード・・・友達の考えに対してキーワードをひとつの道具として用いることで、主体的に話し合いを進めたり、考えを深めたり、論点をしばったりすることができ、達成感を味わうことができた。今までの学習の蓄積がみられ、正しい用語を自分の言葉として使うことができていた。
 - 3 視覚支援・・・個々に学習を進めているので、随時、個々の学習を整理・紹介する場を設け、提示した。また、自分の考えを明確にしたり共有したりするために、考えを書く時間を確保したり、付箋に新しい考えを付け足したり、根拠を探すためにファイルを手元に置いたり、ふり返りカードでの反省項目を事前に示したり、グループの発表をTVに映したりした。

(課題)

- ・ 話し合い活動は、行き先が手探りである。本時のねらいに迫るため、話し合いカードやキーワードを取り入れたが、使い方も様々で、十分使いこなすことができないグループや児童がいた。話し合いの力を育てる過程にあるとはいえ、個々への支援は行き届かないことが多かった。討論のできる話し合い活動に迫るためには、すべての教科領域でバリエーション豊かな話し合いを取り入れる必要性を感じた。数分でもペア学習やグループ活動を多く設け、慣れるようにすることや、飽きないように工夫することが必要だと思う。討論を重ねるだけでなく、話し合い活動を広くとらえ、様々な場面で取り入れることで、話し合いカードに頼らず自分たちの力で話し合いを構築させていくことができるのではないだろうか。
- ・ 意識の継続も課題である。地道に学習したことを見直したり伝えたり、5年生の藤田の特色を生かした地域学習へ総合的な学習の時間やESDの視点で意識をつなげたりしてほしい。



平成25年12月2日(月)第5校時 場所 視聴覚室 指導者 西本慎一郎・山本富子

1 単元名 「発見！探検！藤田の農業」「未来へ続く藤田の農業」（地域の社会・経済）

2 単元の目標と育てたい力

(1) 単元の目標

米作りの体験や農業にかかわる方とのふれあいを通して、藤田の農業について関心をもち、自分なりの課題や疑問を見つけ追求し、考えを交流する中で、これからの藤田の農業について考えたことを自分の生活の中で生かしていくことができる。

(2) 育てたい力

問題解決能力（①批判的に考える力、②未来を予測して計画を立てる力）

・米作りを体験し、農業にかかわる情報に触れることで、自分なりの課題をもち、追求し、課題について調べた事実を関連づけて、自分なりの考えをもつことができる。

実践する力（⑥つながりを尊重する態度、⑦進んで参加する態度）

・グループ活動や話し合い活動を通して、得ることができた知識や藤田の農業への思いを、これからの自分の生活の中で生かしていくことができる。

伝え合う力（④コミュニケーションを行う力）

・集まった情報から課題解決に合った適切な情報を選び、整理して、伝えたいことを自分の考えをもってまとめ、発信することができる。

・伝え合う活動を通して、共通点や相違点を見つけ、話し合い、考えを深めたり、新たな課題を発見したりできるようにする。

3 単元設定の理由

(1) 単元について

本校の位置する藤田地区は、干拓地として広く平地が広がっており、昔からこの地形を生かして稲作を中心とした農業が広く行われている。また、稲作以外にもレタス、タマネギ、ナスなど、生産されている農作物の種類は豊富である。

しかし、農業人口の低下や高齢化の問題がある中で、5年生児童の家庭では、農業に従事している家庭は少なく、地域が水田や畑に囲まれているにもかかわらず、地域の農業への興味や関心をもちにくい現実がある。

1学期の単元「めざせ！米博士」では、藤田の農業で代表的な米について、歴史や品種、さらには環境にいたるまでの幅広い視点で調べ学習を進めていくことができた。また、地域の米農家で米作りの体験をしたり、学区の農業を学んでいる高校でアヒル・アイガモ農法について見学したりしたことで、藤田の農業について知ろうとする意欲が高まっている。そして、それらの活動から、地域とのつながりが生まれている。

そこで、本単元では、藤田の農業について、実際に農業体験をしたり、藤田地区の農業にかかわりの深い方の話を聞いたり、農家の方へのインタビューや見学、さらにそれを生かしての調べ学習など、問題解決に向けて考えを深めていく。そして、交流会などの情報発信活動から、お互いの知識や思いを共有し、新たな課題を発見し、解決手段を思考していく。そのような活動を通して、藤田の農業への興味、関心をもち、農家の方々の願いや思いを知ること、わがまち藤田を愛し、地域を誇りに思い、未来へと続く藤田の発展を願う心情を育てたいと考えた。

(2) 児童の実態

本学年の児童は、これまでの総合的な学習の時間の中で、様々な人とのかかわりを通して、思いを知ったり、活動の仕方を学んだりしてきた。学区の特性上、農業に携わっている家庭の児童はほとんどいない中、第5学年のテーマ「藤田の農業を知ろう」について取り組んでいくにあたり、実際に米作りを体験したり、米農家の方の思いや願い、苦勞を知ることで、農業に対するイメージを自分なりに持つことができるようになってきた。また、さらに調べ学習を展開していくことで、米作りについて豊富な知識をもつことができた。これらの活動を通して、児童は自分の課題を解決していく方法や手順を少しずつ理解してきている。しかし、解決したことを自分なりの方法でまとめ、表現していく力や、聴き手を意識して自分の意図を分かりやすく発表する力、解決した結果を発表・交流し、お互いのよさを認め合っていく力は十分育っているとはいえない。

そこで、今まで自分が収集してきた情報を新聞にまとめ、自分なりの意見を持った上、交流する学習を通して、発表する力・表現する力・意見を交流し合う力を育成していきたい。

4 研究テーマとのかかわり

(研究テーマ)

互いの思いや考えを伝えあい、高め合うコミュニケーション活動の充実
～話し合い活動の充実をめざして～

本単元では、次のような活動を大切にすることによって、研究テーマに迫ることができると考えた。

○課題について自分の考えをもつこと

フィールドワークで体験したことや調べ学習で深めたことを、自分なりの学習のあしあととして「藤田の〇〇新聞」を作成し、グループで話し合う際に主体的に活動できるようにする。まとめ方としては、内容面、視覚的な効果などを考慮してレイアウトを考え、挿絵や色づけなどの工夫を施すようにする。藤田の農業について新聞にまとめたことを元に、自分の意見を付箋にまとめ、自分の考えを分かりやすくまとめることができるようにする。

○自分の考えを相手に分かりやすく伝えようとする

自分の考えを、付箋にまとめ、発表し、話し合うことで自分たちのグループの主張点がはっきりするようにする。また、自分で考えたグループで発表する際のおすすめポイントを付箋の色等を工夫することにより話し合いの論点が分かりやすくするようにする。

○自分の考えを伝え、相手の考えをしっかりと聞くこと

伝えたいことを相手にしっかりアピールできるように内容を精選し、グループでよく話し合うようにする。模造紙にまとめたことをそのまま読むのではなく、自分たちが特にアピールしたいことを取り上げ、聴き手の関心を引くような発表の仕方を工夫する。その際、自分たちの考えや意見を言語行動（言葉）、非言語行動（身振り・手振りなど）を用いて聴き手にわかりやすく伝えるようにする。聴き手になった際は、話し手の意図していることをくみ取りながら聴くようにする。話し手と聴き手との間でソーシャルスキルのな双方向の意見のやりとりができるようにする。

○自分の考えと相手の考えを比較し、相違点、共通点に気づくこと

まとめたことを発表し、他のグループと交流することにより、自分たちの考えと友達の考えを比較し、意見を交換することでより考えが深められるようにする。藤田野菜の種類、植える時期、収穫する時期など、野菜によって育て方が違うこと、農業に携わる方の願いや仕事への情熱、努力、工夫していることなど、自分たちが見て、聴いて、調べてきたこととの相違点、共通点についても考えながら学習を進めていくようにする。学習の最終方向としては、学年テーマ「藤田に農業は必要か？」に迫るために、共通点としての農家の方の心情（やりがい・喜び・苦勞・努力など）にも触れ、未来の藤田の発展に対する地域の人々の思いや願いを知り、自分たちにできることは何かを模索し、地域に愛着をもち、地域に関する課題を感じ、考える児童を育てていく。

5 単元の活動計画 (全40時間)

学 習 過 程	学 習 活 動						
第一次 (10時間) 第1時 第2時～第3時 第4時～第5時 第6時～第8時 第9時～第10時	<p>藤田学区で育てられている農作物を知ろう。</p> ①学年テーマ「藤田の農業を知ろう」について話し合い、イメージマップを作成する。(1時間) ②JA 営農センターの方の話を聞いて、藤田の農業についての概要、農作物の種類を知る。(2時間) ③藤田レタスを扱う天満屋のバイヤーの話を聞き、藤田野菜の特徴を知り、自分なりの思いをもつ。(2時間) ④藤田野菜についてさらに知りたいことを考え、話し合い、まとめていく。(3時間) ⑤フィールドワークに向けて、インタビューの内容を考えたり、練習したりする。興陽高校生とも課題を共有し、練習する。(2時間)						
第二次 (20時間) 第1時～第2時 第3時～第5時 第6時～第9時 第10時～第15時 (本時) 第16時～第17時 第18時～第20時	<p>フィールドワークに行き、農家の方から学ぼう。</p> ①興味をもった農作物についてグループに分かれ、農家を訪問し、インタビューや体験活動をする。(2時間) ②興味をもった農作物について調べ、情報を収集し、グループで共有する。(3時間) ③訪問した農家で学んだことについて、個別に新聞にまとめる。(4時間)	<p>5年生全体で発表会をして、調べたことを伝え合おう。</p>		④フィールドワークで学んだこと、お世話になった農家の思い、グループで共有したそれぞれの農作物について、伝えたいことをグループごとに模造紙にまとめる。(6時間) ⑤まとめたことをもとに説明用原稿を作る。(2時間) ⑥グループごとにまとめた模造紙を展示し、比べることで、考えを広げたり、考えを深めたりした考えをまとめる。(3時間)		第三次 (10時間) 第1時 第2時～第3時 第4時～第7時 第8時～第9時 第10時	<p>藤田の農業の未来へ向けてPR作戦を考え、実践しよう。</p> ①これまでの学習を生かして、藤田の農業のよさをPRする方法はないか話し合う。(1時間) ②グループでPR作戦を考え、作戦を進めていくためのプランを立てる。(2時間) ③グループプランを紹介し合い、課題を見つけて解決し、プランを練り直し、実践に向けて準備する。(4時間) ④PR作戦を実践する。(2時間) ⑤活動をふり返り、今後の自分たちの実践につなげる。(1時間)
<p>5年生全体で発表会をして、調べたことを伝え合おう。</p>		④フィールドワークで学んだこと、お世話になった農家の思い、グループで共有したそれぞれの農作物について、伝えたいことをグループごとに模造紙にまとめる。(6時間) ⑤まとめたことをもとに説明用原稿を作る。(2時間) ⑥グループごとにまとめた模造紙を展示し、比べることで、考えを広げたり、考えを深めたりした考えをまとめる。(3時間)		第三次 (10時間) 第1時 第2時～第3時 第4時～第7時 第8時～第9時 第10時	<p>藤田の農業の未来へ向けてPR作戦を考え、実践しよう。</p> ①これまでの学習を生かして、藤田の農業のよさをPRする方法はないか話し合う。(1時間) ②グループでPR作戦を考え、作戦を進めていくためのプランを立てる。(2時間) ③グループプランを紹介し合い、課題を見つけて解決し、プランを練り直し、実践に向けて準備する。(4時間) ④PR作戦を実践する。(2時間) ⑤活動をふり返り、今後の自分たちの実践につなげる。(1時間)		
④フィールドワークで学んだこと、お世話になった農家の思い、グループで共有したそれぞれの農作物について、伝えたいことをグループごとに模造紙にまとめる。(6時間) ⑤まとめたことをもとに説明用原稿を作る。(2時間) ⑥グループごとにまとめた模造紙を展示し、比べることで、考えを広げたり、考えを深めたりした考えをまとめる。(3時間)							
第三次 (10時間) 第1時 第2時～第3時 第4時～第7時 第8時～第9時 第10時	<p>藤田の農業の未来へ向けてPR作戦を考え、実践しよう。</p> ①これまでの学習を生かして、藤田の農業のよさをPRする方法はないか話し合う。(1時間) ②グループでPR作戦を考え、作戦を進めていくためのプランを立てる。(2時間) ③グループプランを紹介し合い、課題を見つけて解決し、プランを練り直し、実践に向けて準備する。(4時間) ④PR作戦を実践する。(2時間) ⑤活動をふり返り、今後の自分たちの実践につなげる。(1時間)						

6 本時案 (第二次第10時)

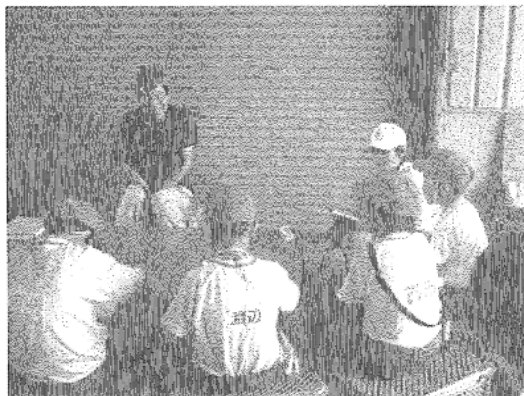
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 藤田の農業について新聞にまとめたことを元に、グループで発表する際の自分で考えたおすすめポイントをなかまにわかりやすく伝えることができる。 他のメンバーの発表を自分の考えと比べながら聞き、新たな気づき、感想をもつことができる。
学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 本時のめあてを確かめる。(5分)	<ul style="list-style-type: none"> これまでの活動をふり返り、本時は、藤田の農業について新聞にまとめたことを元にグループで発表する際の自分で考えたおすすめポイントをわかりやすく発表し、他のメンバーと交流する場であることを確認する。
編集会議をして、自分たちの考えを出し合い、グループの考えをまとめ、わかりやすく伝える方法はないか考えよう。	
2 話し合いの仕方について確認する。(5分) <ul style="list-style-type: none"> よい発表の仕方 聞き方 意見の交流の仕方 まとめ方 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの進め方のモデルを教師が示すことで、話し合いの進め方や、まとめかたについての見通しが持てるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">〈会議の流れ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自分の意見を出す。 ②付箋のなかま分けをする。 ③まとめる項目を決定する。 ④付け加えることはないか話し合う。 ⑤付け加えをする。 </div>
3 グループで話し合いをする。(20分)	<ul style="list-style-type: none"> 作った新聞の中から自分のまとめた内容を付箋に書き、ワークシートに貼っておくことで、自分なりの考えを明確にしておき、視覚的にわかりやすくすることで、自分の意見を発表しやすくしたり、比べやすくしたりする。 “自分のお薦め”の意見の付箋の色を変えることにより、話し合いの観点がわかりやすくなるようにする。 まとめのレイアウトを示すワークシートを用意し、情報交換が進めやすくする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○十分満足できる状況</p> <p>自分の意見と、他の意見を比較・関連させながら話し合い、考えを交流し合い、新しい観点を探ろうとしている。</p> <p>○おおむね満足できる状況</p> <p>自分の意見と、他の意見を比較・関連させながら話し合い、考えを交流し合っている。</p> </div>
4 話し合いを元に、まとめに織り込む内容と表現のしかたを考える。(10分)	<ul style="list-style-type: none"> まとめる項目をわかりやすく、相手に伝えるためにはどんな資料を使う方がいいのか事前に用意した例を紹介することにより、考えることができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">〈効果的に伝える方法は？〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ①どんな資料を使うのがいいのか？ ②わかりやすい表現は、どんなものか？ 例 表, グラフ, 写真 など ③たりない資料はないか？ </div>
5 本時のまとめをし、時事の見通しを持つ。(5分)	<ul style="list-style-type: none"> 活動をして新たな気づき、次にすること等をワークシートにまとめることで、次時につなげる。

7 成果と課題

(成果)

〈単元を通じて〉

- 本単元は、藤田の農業について、実際に農業体験をしたり、藤田地区の農業にかかわりの深い方の話を聞いたり、農家の方へのインタビューや見学、さらにそれを生かしての調べ学習をしたりするなど、問題解決に向けて考えを深めていった。そして、グループごとに、まとめたことを発表し、他のグループと交流することにより自分たちの考えと友達の考えを比較し、意見を交換することでより考えが深められるようにした。藤田野菜の種類、植える時期、収穫する時期など、野菜によって育て方が違うこと、農業に携わる方の願いや仕事への情熱、努力、工夫していることなど、自分たちが見て聴いて、調べてきたこととの相違点、共通点についても考えながら学習を進めていくようにした。学習の出口で、未来の藤田の発展に対する地域の人々の思いや願いを知り、自分たちにできることは何かを模索したり、地域に愛着をもったり、地域に関する課題を感じ、考えたりすることができた。



〈校内研との関連〉

- 校内研究のテーマ『互いの思いや考えを伝えあい、高め合うコミュニケーション活動の充実～話し合い活動の充実をめざして～』を踏まえて、次のような工夫をした。

【課題について自分の考えをもつことをめざして】

フィールドワークで体験したことや調べ学習で深めたことを、自分なりの学習の足跡としてまとめた「藤田の〇〇新聞」を作成し、グループで話し合う際に主体的に活動できるようにした。内容面、視覚的な効果などを考慮してまとめたり、自分の意見を付箋で付け加えたりすることで、自分の考えを分かりやすくまとめることができた。

【自分の考えを相手に分かりやすく伝えることをめざして】

自分の考えを付箋にまとめ、発表し、話し合ったり、自分で考えたおすすめポイントを付箋の色等を工夫して示したりすることにより、グループの主張点や話し合いの論点が分かりやすくなるようにした。

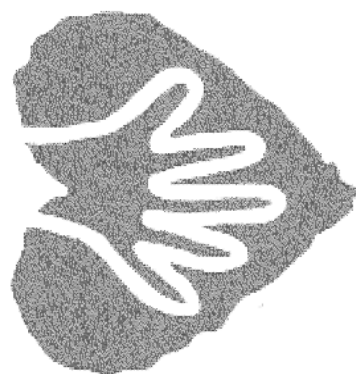
これらの活動を通じて、日々の授業の中で、自分の思いをもって話し合いに臨むこと、考えを深めるために話し合い活動を取り入れることをめざした結果、子ども達のコミュニケーション力の向上も見られた。

(課題)

- 農業への関心は、個人差があり、グループ活動を行う上で積極的にかかわろうとする児童ばかりでなかった。地域の課題を自分たちの課題として捉えることができ、地域とのかかわりを今後も積極的にもとんとする意識を育てていきたい。
- 地域の発展のために今後、自分たちにできることは何かを具体的に探っていく中で、単なる理想論に終わることなく、身の回りの小さな事から取組をはじめ、継続して取り組んでいけるよう、意識の持続化を図っていく。
- 話し合い活動を充実させるためには、自分自身の考えをもつこと、話し合いの方向性を明確にすることが大切である。そのために、どのような手立てが有効かさらに実践を増やし、探っていく必要がある。



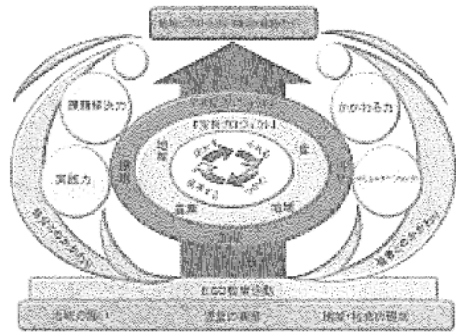
岡山市立第三藤田小学校



岡山市立第三藤田小学校

1. 本校のESDの特徴

藤田地区コミュニティスクールスローガンである「地域に学び未来を切り拓く藤田の子」に近づけるために、研究テーマを「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心をもち、主体的に関わろうとする子どもの育成」と設定し、生活科・総合的な学習の時間のカリキュラム開発を進めてきた。(図1)各学年の単元を、大きく2つのプロジェクトと捉え、縦の系統を考へて6年間のプロジェクトをデザインした。(図2)地域・食・農業について学習していく中で、地域の人々の思いや生き方に学び、自分の生活をふり返る「宝物プロジェクト」と、環境・福祉・国際理解について学習することで、幸せについて考え、今の自分にできることを実践していこうとする「幸せプロジェクト」を設定した。それら2つのプロジェクトを通して、様々なつながりの中から自分を見つめ直し、自分の生き方を考えていく「いのちの学習」を構築し活動を進めている。



【図1 ESD構想図】

2. ユネスコスクールとしての活動・全体計画

第三藤田小学校6年間のプロジェクトデザイン



【図2 第三藤田小プロジェクトデザイン】

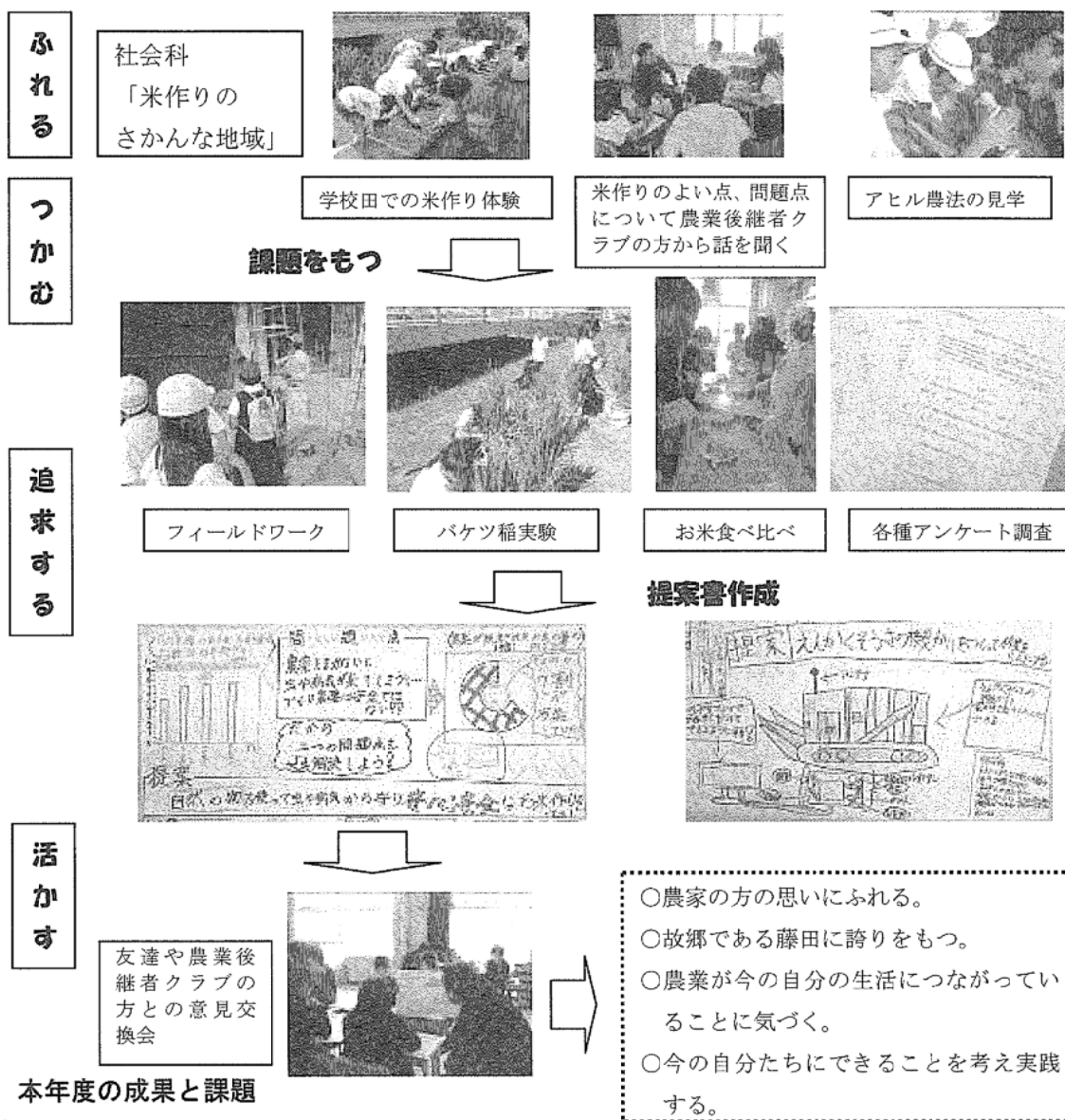
(3年生) 学区の農家を訪問したり、J A女性部と豆腐作り体験を行ったりすることで、実際に見たり聞いたり体験したりすることを大切にしている。

(4年生) 興陽高校の菜の花プロジェクトや、アスエコの主催する環境学習体験など、さまざまな活動に積極的に参加することで、自分たちにできる事を考えるときの手がかかりになるようにしている。

(6年生) ハートオブゴールドと協働で国際貢献活動を行っている。実際にカンボジア教育省の海外技術研修員から話を聞いて、自分たちにできることは何かを考えたり、物資支援活動を呼びかけたりしている。今年チャイルドケアセンターの子どもたちに、手作りのシュシュやミサンガを送り、スカイプで交流を深めた。

3. 特徴的な活動事例の紹介

5年生 活動名 『プロジェクト八十八』～20年後の藤田の米作りについて考えよう～



4. 本年度の成果と課題

○成果

・学校としての成長

単元構想図，ESDカレンダー，プロジェクトデザインの作成や実践を通して，教職員のESDに対する理解が深まり，研究の方向性が明確になった。

・子どもたちの成長

課題意識をもち，自らのこととして継続的・発展的に学習に取り組むことができるようになってきた。

○課題

前年度の取組をそのまま踏襲したり，児童の実態と合わない取組になったりしないよう，年度ごとにプロジェクトの柔軟な運用のための準備や工夫をすることが必要である。

研究の概要

< 研究主題 >

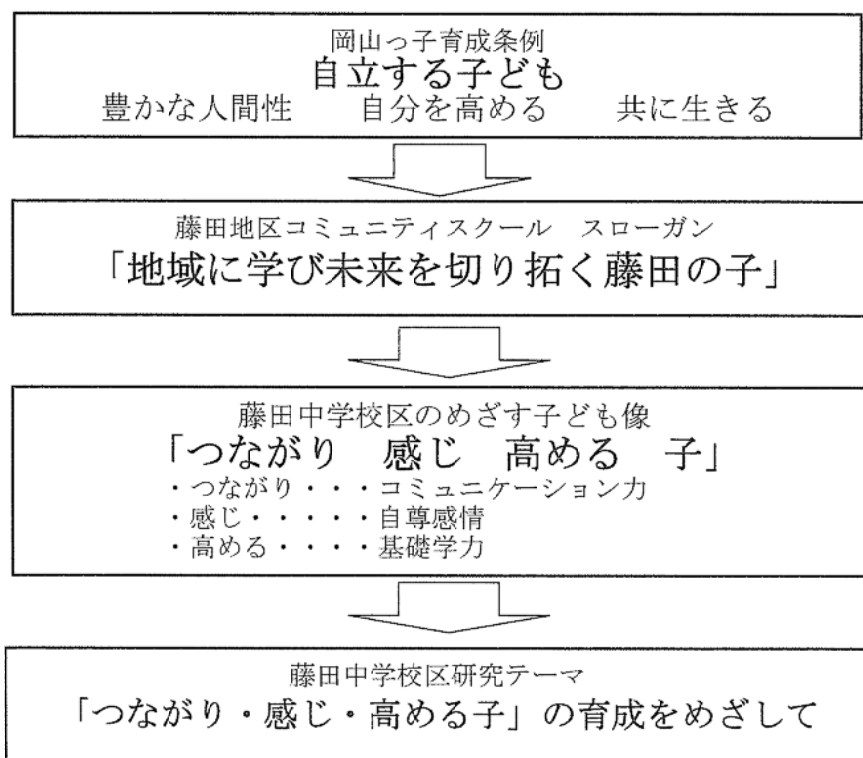
「人・社会・自然など自分とのつながりに関心を持ち、
主体的に関わろうとする子どもの育成」

～生活科・総合的な学習の時間を中心にして～

1 主題設定の理由

(1) 藤田地区 ESD の概要

藤田地区の ESD 活動は、2008 年に岡山市環境保全課と藤田公民館からの呼びかけで、藤田地区 ESD 連絡協議会が発足したのがはじまりである。その後、各校の総合的な学習の時間の年間計画について情報交換し、中学校区共通のめざす子ども像やテーマを決めて取り組んできた。さらに一昨年コミュニティスクールの指定を受け、地域の方の思いや願いをとり入れたスローガンを設定し、取り組んでいる。



< 藤田地区 3 小学校共通認識 >

学年	共通テーマ	めざす子ども像 (もたせたい考え)
3年	藤田のお宝をさがそう	藤田にはいいところやすごい人がいることに気づくことができる。
4年	ゴミって何?	人や自然を大切にしたい思いをもつことができる。
5年	藤田に農業は必要か?	藤田に愛着や誇りをもつことができる。
6年	幸せって何?	多様な価値観を知り、自分の生活を振り返ることができる。

(2) 藤田地区の現状と児童の実態

藤田地区は岡山市の南西部，明治時代に児島湾の干拓によって造成された農業地域である。稲作はもちろん，玉ねぎ・れんこん・なす・レタスなど野菜の栽培も盛んである。大変な苦勞をして干拓地を農地に開拓してきた歴史があり，地域の方々の郷土への愛着や学校に対する思いは大変強い。しかし近年では，高齢化が進み，商業施設の立地や宅地開発など農地の非農業土地利用化が進んできている。

子どもたちは，藤田の特色について尋ねられるとすぐに，農作物や自然を例にあげるが，地域の農業や自然に対する関心は薄い。また，本校は小規模校でクラス替えがないため，子どもたちにとって新しい人間関係を築くことは苦手である。そのため，学校内では主体的に活動することができるが，一歩外へ出ると，自分に自信がもてない子どもたちも多い。

(3) 研究主題について

★地域の現状

- 地域への思いの強さ
- 地域の方のたゆまぬ努力や工夫
- △農業問題
- △高齢化と少子化

★児童の実態

- 素直なおおらか
- 家の手伝いがよくできている
- 与えられた課題にきちんと取り組もうとする
- △自分で計画を立てて学習するのが苦手
- △地域や社会で起こっている問題や出来事に関心が薄い
- △地域の行事への参加が少ない

E S D の視点に立った教育活動

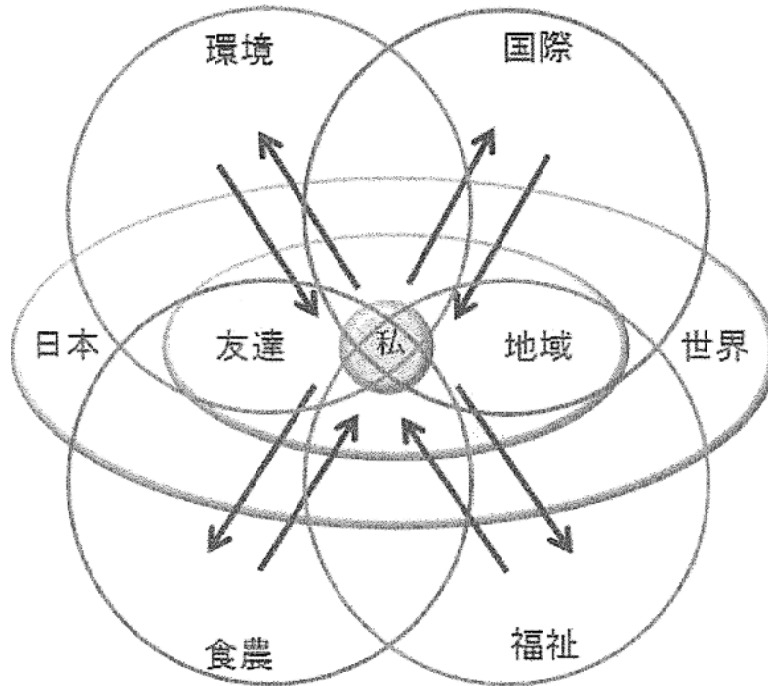
地域に学び，未来を切り拓く子
↓
持続発展可能な社会づくりの担い手

地域の方々が開拓し守ってきたこの藤田を，持続発展可能な地域としていくためには，藤田のよさをよく知り，藤田を愛する人を育てると同時に，E S D の視点に立った教育の推進が必要である。教科や総合的な学習の時間の目標や学習内容を，持続可能な社会づくりの構成概念である「多様性・相互性・有限性・公平性・連携性・郷土愛」の7つの要素に基づいて捉えた上で単元構想を設計し，実践することにより，E S D の視点に立った学習指導の展開が可能になると考えた。子どもたちは，この藤田の自然に囲まれ，地域の方々に支えられて生活している。「持続発展可能な社会づくりの担い手を育む」教育活動を行うことが，郷土を愛し，さまざまな「つながり」に気づき，自分を振り返ることができる子どもを育てることにつながると考え，本主題を設定した。

2 研究内容

(1) キーワードは「つながり」

本校の研究主題にある「つながり」とは、環境、社会、経済などの現代社会の問題を、一人ひとりが自らの課題として捉え、すべてのことは今の自分の生活とつながっていることに気づくことである。そしてその課題に対して、今の自分にできることは何かを考え、実践していく中で、自分の生活を振り返ったり、自分の生き方について考えたりすることが、持続発展可能な社会をつくることにつながっていくと考えた。



(2) 4つのつながり

社会や自然などとのつながり

「人」「社会」「自然」など、現代社会の課題について追求していく中で、すべてのことは今の自分とつながっていることに気づき、生活を振り返ることができる単元づくりをする。

単元構想でのつながり

単元構想を
「ふれる」→「つかむ」→
「追求する」→「活かす」
の4つの段階で構成し、子どもの意識の流れを考えた授業を展開する。

人とのつながり

学習の中で、意見交流や生の声にふれること、体験活動を行うことなどを通して、いろいろな人の考えや生き方にふれる場面を設定する。

学年のつながり

各学年の単元を大きく2つのプロジェクトと捉え、子どもたちに育みたい思いや価値観を縦の系統で考える。

- ・「宝物プロジェクト」
- ・「幸せプロジェクト」

(3) 育みたい力

本校では、ESDの視点に立った学習指導で重視する7つの能力・態度を、「課題解決力」「実践力」「かかわる力」「コミュニケーション力」の4つに分類した。そして「課題解決力」「実践力」を「自分とのかかわり」、「かかわる力」「コミュニケーション力」を「他者とのかかわり」と捉えることにした。

<ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度>

① 批判的に思考・判断する力	合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、物事を思慮深く、建設的、協調的、代替的に思考・判断する力
② 未来像を予測して計画を立てる力	過去や現在に基づき、あるべき未来像（ビジョン）を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力
③ 多面的、総合的に考える力	人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的、総合的に考える力
④ コミュニケーションを行う力	自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的に、コミュニケーションを行う力
⑤ 他者と協力する態度	他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者との協力・共同し、ものごとを進めようとする態度
⑥ つながりを尊重する態度	人・もの・こと・社会・自然などと自分とのかかわり・かかわりに関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとする態度
⑦ 責任を重んじる態度	集団や社会における自分の発言や行動に責任を持ち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度

自分とのかかわり

課題を見つけ、追求する中で自分の考えをもつことができる。

社会の一員として自分にできる事を実践したり、学習で培った思いや考えを自分の生活に活かしたりすることができる。



課題解決力	批判的に思考・判断する力
	未来像を予測して計画を立てる力
実践力	つながりを尊重する態度
	責任を重んじる態度

他者とのかかわり

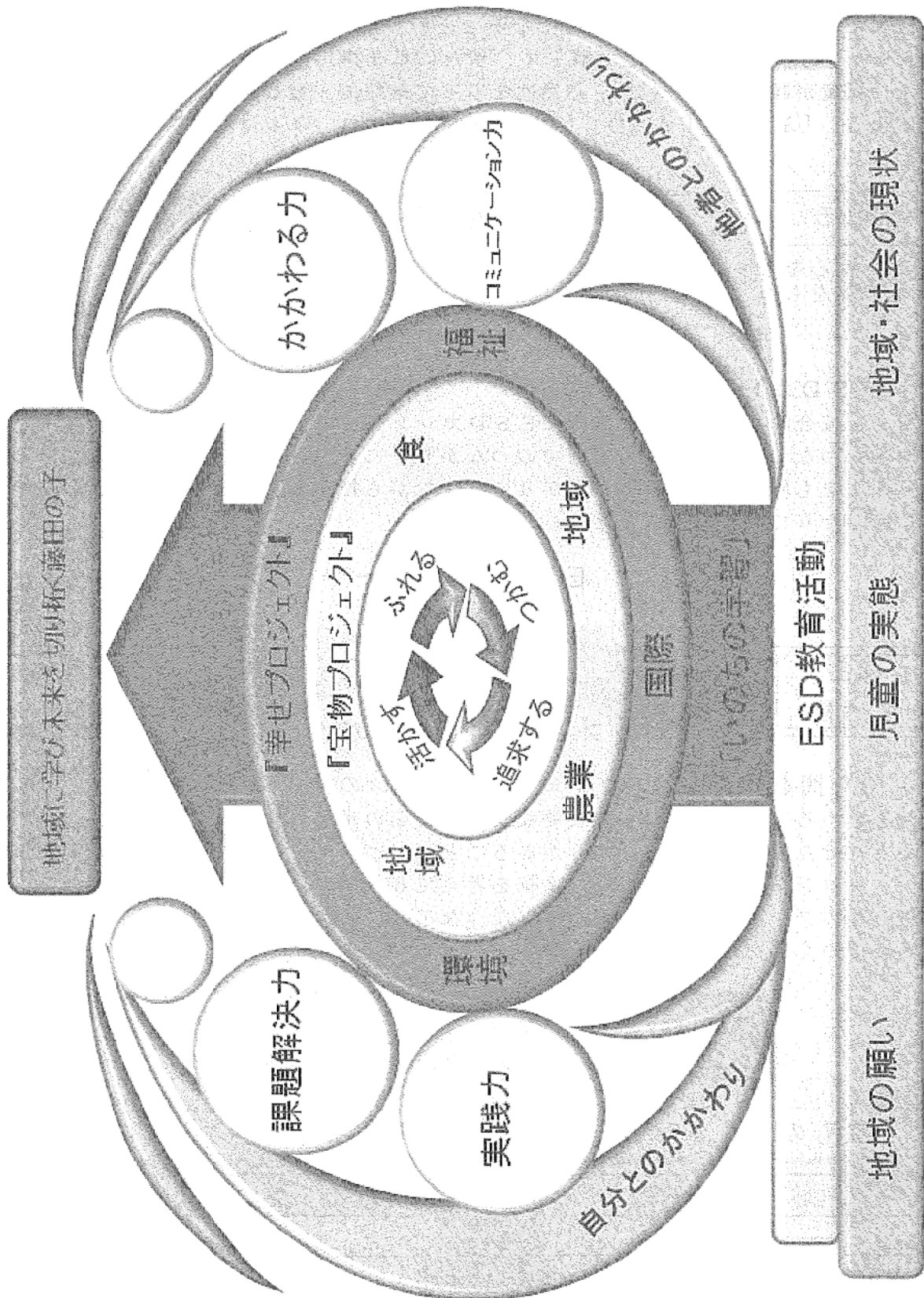
相手の立場や考えを理解しながら、自分の思いや考えを伝えることができる。

人々の工夫や努力に気づき、社会への関心を広げようとするすることができる。



かかわる力	多面的・総合的に考える力
	他者と協力する態度
コミュニケーション力	コミュニケーションを行う力

3 研究構想図

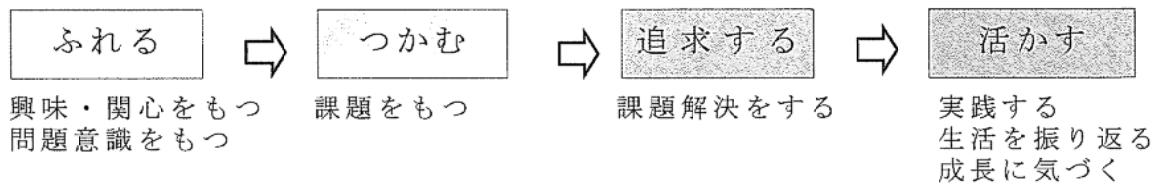


4 手だての詳細

(1) 単元構想の見直し

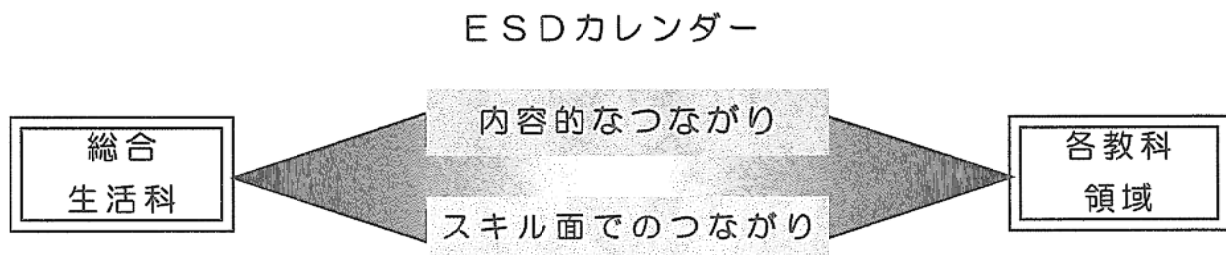
既存の総合的な学習の時間の単元を、ESDの視点に立って見直しを行った。「単なる体験活動に終わらず、探求的な学習になること」「自分の成長に気づいたり、自分の生活を振り返ったりできること」を意識して、新たに単元構想図を作成した。

また、児童が課題意識をもち、必然性をもって継続的・発展的に学習に取り組むことができるよう、「ふれる」「つかむ」「追求する」「活かす」の4つの段階を設けて単元を構成した。



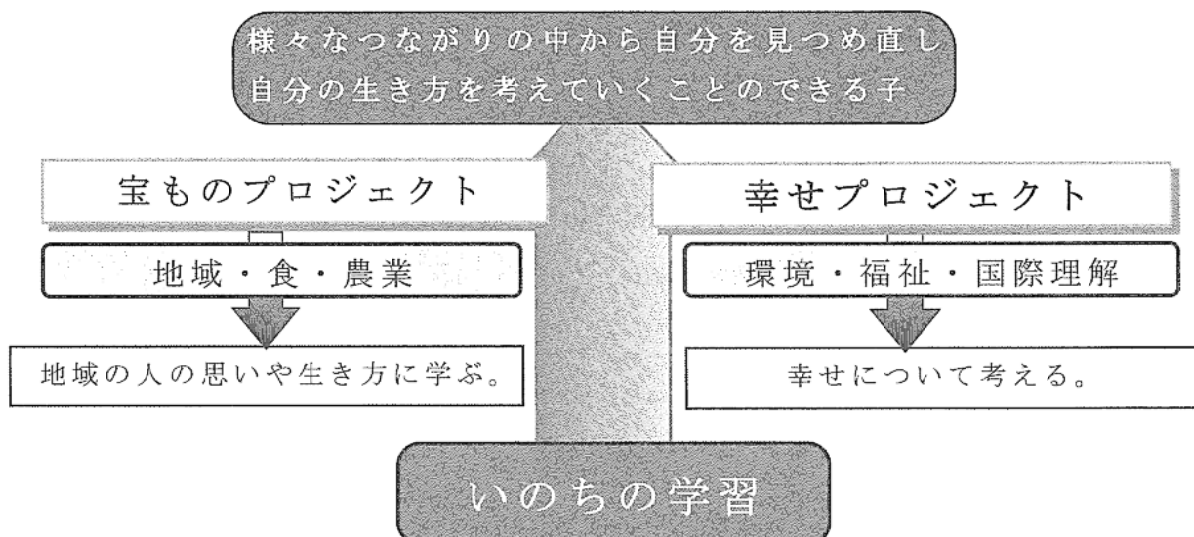
(2) ESDカレンダーの作成

横断的・統合的な指導を行うためにESDカレンダーを作成した。ESDカレンダーは、「内容的なつながり」と「スキル面でのつながり」に分け、その根拠を明らかにすることで、見通しをもち、学習内容のつながりを考えながら授業を進めたり、培いたい力を意識して指導したりできるようにした。



(3) 6年間を見通したプロジェクトデザインの作成

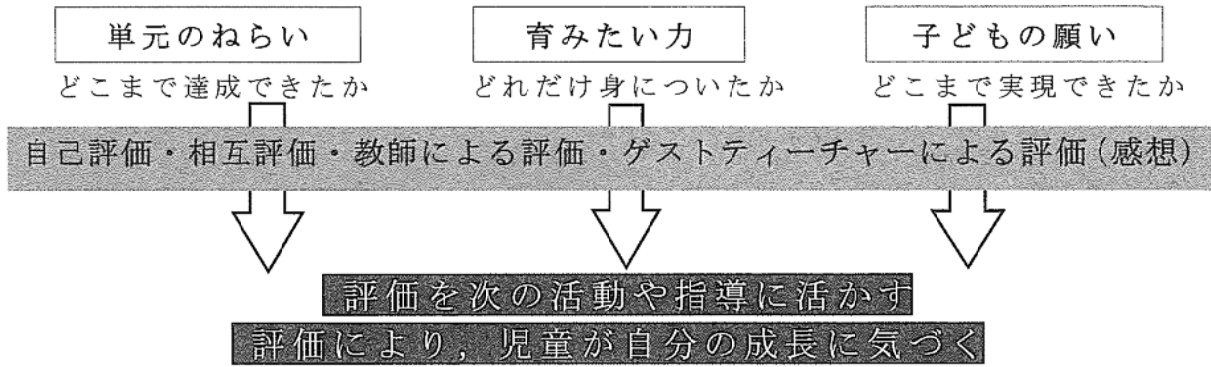
研究を進める中で、生活科・総合的な学習の時間の単元の中に、子どもたちに育みたい思いやもたせたい価値観のつながりがあることに気づいた。そこで各学年の単元を、大きく2つのプロジェクトと捉え、縦の系統を考えて6年間のプロジェクトをデザインした。それら2つのプロジェクトを通して、様々なつながりの中から自分を見つめ直し自分の生き方を考えていく「いのちの学習」を構築する。



(4) 育みたい力の具現化と評価

めざす子ども像に近づくために育みたい力を見直し、低・中・高学年で系統性を考えて整理し、具現化した。

ねらいに迫る価値ある活動にするために、その単元でどの力を育みたいのかを明確にし、児童の具体的な姿を想定して授業を行う。また、課題づくりに十分時間を費やし、子どもの願いを大切にしながら学習を進めていく。それらを実践することで、児童が自分の成長に気づくことができたり、評価を次の活動や指導に活かすことができるよう、研究を進めている。



(5) 体験・交流活動の充実



お世話になった地域の方や保育園児を招待してのおまつり



地域の農家へ見学&インタビュー



興陽高校の菜の花プロジェクトへの参加

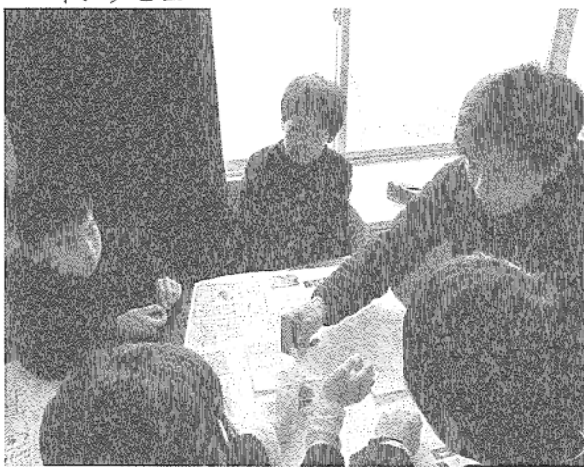


各種体験プログラムへの参加



フィールドワークによる地域の方へのインタビュー

バケツ稲栽培による品種別比較実験

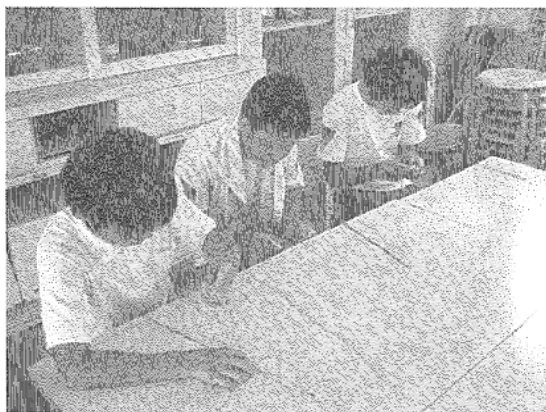


「20年後の藤田の農業について」
農業後継者との意見交換会

ハートオブゴールドと協働で行う
国際貢献活動



スカイプによるカンボジア教育省の方への質問



手作りのミサンガをプレゼント



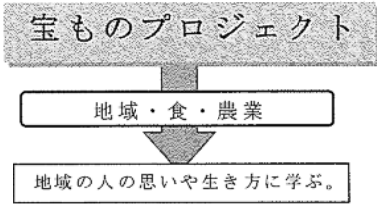
ミサンガを受け取るカンボジアの子どもたち

	子どもの姿	育みたい力	低学年	中学年	高学年
自分とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 課題を見つける 情報を集める まとめる 考えをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ② 課題を見つけて、追求する力 ① 調べた事実を整理して自分の考えをもつ力 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いや願いを実現するために工夫して活動することができる。 ○活動をもったり、感想をもつことができる。 ○地域の活動に自分から参加しようとする生活に活かすことができる。 ○気づいたこととすることを活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の課題をもつて追求すること ○調べたこととを整理して自分の考えをもつことができる。 ○地域へ目を向けて自分でできることと行動しようとする。 ○学習を通して培った自分の生活と重ねて考え、自分の生活に活かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分や学年全体の課題について見通しをもつて追求することができ ○調べた事実を関連づけて自分の考えをもつことができる。 ○社会の一員としてまわりに働きかけながら自分ができることと学習を通して培った考えや思いを自分の生活と重ねて考えたり、な ○これからの工夫や努力を振り返り、生活に活かすことができる。
他者とのかわり	<ul style="list-style-type: none"> かかわる 協力する 気づく 受け入れられる 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 相手のことを考えてかかわるうとする態度 ③ 人々の工夫や努力を広げようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のまわりの人に進んでかかわることができる。 ○自分の言葉で表現し、伝えることができる。 ○交互に話し手になり、話し合えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の立場や気持ちを考えてかかわることができる。 ○自分のまわりの人や自然に進んでかかわり、地域で行われている工夫や努力に気づくことができる。 ○相手に分かりやすいことや整理して表現し、調べることを報告したり、それを聞いて意見や感想を言ったりすることができる。 ○互いの立場や相違点を考えながら、話し合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の立場や気持ちを理解して、かかわることができる。 ○自分のまわりの人や自然に進んでかかわり、関心の対象を広げ、人々の工夫や努力に気づくことができる。 ○目的や意図に応じ、資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて質問をしたりすることができる。 ○互いの立場や意図をはっきりさせながら、話し合うことができる。

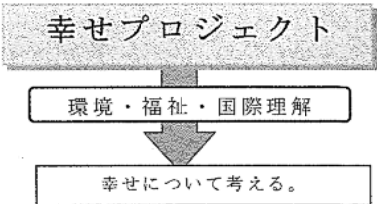
【資料】E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

① 批判的に思考・判断する力	合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、物事を思慮深く、建設的、協調的、代替的に思考・判断する力
② 未来像を予測して計画を立てる力	過去や現在に基づき、あるべき未来像（ビジョン）を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力
③ 多面的、総合的に考える力	人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的、総合的に考える力
④ コミュニケーションを行う力	自分の気持ちや考えを伝え、他者の気持ちを尊重し、積極的に、コミュニケーションを行う力
⑤ 他者と協力する態度	他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・共同してものごとを進めようとする態度
⑥ つながりを尊重する態度	人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度
⑦ 責任を重んじる態度	集団や社会における自分の発言や行動に責任を持ち、自分の役割を理解するとともに、ものごと的主体的に参加しようとする態度

第三 藤田小学校 6年間のプロジェクトデザイン



いのちの学習



1年生
単元名「ふゆを楽しもう」

2年生
単元名「おいしくそだてわたしの野さい」「うごくうごくわたしのおもちや」

- ☆自分たちが支えられていることに気づく
- ◇老人会の方に昔遊びを教えてください。
- ◇玉ねぎの苗植え、収穫をさせてもらう。
- ◇野菜の育て方について地域の農家の方に教えてください。
- ◇地域の方におもち作りを教わったり、一緒に遊んだりする。

おじいちゃん
おばあちゃん
はすごいな。

4年生
単元名「やさしいまちづくり」

- ☆藤田の自然や人を大切にしたい気持ちをもつ
- ◇「自然や人にやさしいまち」とはどんなまちかを話し合う。
- ◇藤田について調べる。
- ・いいところもあるけど、よくないところもあるよ。
- ◇各種教室に参加する。
- ・こんな活動をしている人もいるんだ。こんな方法もあるんだ。
- ◇お年寄りや視覚障害者と交流する。
- ・ぼくたちと同じだね。ただちょっと不便なだけなんだね。
- ◇自分たちにできることを考えて実践する。

自分たちの住む藤田は、やさしいまちになっているかな？

人や自然を気遣う気持ちが大切なんだね。ぼくたちにもできることを身近なことから考えよう。

藤田の宝物って何だろう？

3年生
単元名「三藤のお宝をさがそう」

- ☆地域に愛着をもつ
- ◇藤田の宝物について話し合う。
- ◇藤田の農作物や名人について調べる。
- ・おいしい野菜をつくるために努力や工夫をしているんだね。
- ◇J A 女性部の活動の意味を考える。
- ・いい物を作ったり誰かに喜んでもらうために努力をしている人たちがいる。それって名人さんも同じだね。

藤田で作られているたくさんの農作物や、努力を続けている人が宝物なんだね。

20年後の藤田の米作りがもっとよくなるためにはどうすればいいんだろう？

5年生
単元名「プロジェクト八十八」

- ☆地域に誇りをもつ
- ◇藤田に農業は必要か話し合う。
- ◇農業のよい点や問題点から課題をもつ。
- ・いいところもたくさんあるけど、高齢化や後継者問題などもあるんだ。何とかならないかな？
- ◇20年後の藤田の米作りについて考え、提案書を書く。
- ◇農業後継者と意見交換をする。
- ・作業が楽になるとかじゃなく、消費者のために安心して安全な米作りをめざしているんだね。
- ・販売する人、機械を開発する人、私たちに食べる人・・・みんな農業とつながっているんだ。
- ◇自分たちにできることを考えて実践する。

生産者も消費者も幸せになれる農業がいいな。農作物を食べて生活している私たちが農業とつながっているんだね。

途上国の子どもたちは不幸だと思っていたけど、なぜ笑顔なんだろう？

6年生
単元名「幸せって何？」

- ☆多様な価値観を知る
- ◇「幸せ」について話し合う。
- ・幸せと思うことは他の国の人も同じなのかな？
- ◇世界の諸問題について調べる。
- ◇ハートオブゴールドの方からカンボジアの現状について話を聞く。
- ・カンボジアの人たちのために何かしたいな。
- ◇1回目の物資支援活動をする。
- ・生活に必要なものや足りないものを送ろう。
- ◇自分たちで考えて2回目の物資支援活動をする。
- ・もっと喜んでもらえるものはないのかな？ぼくたちなら何がうれしいかな？
- ・喜んでもらえてうれしいな。やってよかったな。
- ◇「幸せ」について考える。
- ・人によって「幸せ」と思うことは違うんだね。
- ◇自分の生活を振り返る。

私たちの生活も、世界の国々の人たちと、つながっているんだ。誰かの役に立つことで、自分も幸せになれるんだね。

☆この単元で育みたい思い
(藤田中学校区共通)
◇児童の活動
・その活動で育みたい思い

様々なつながりの中から自分を見つめ直し
自分の生き方を考えていくことのできる子

第1学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	みんなではなそう	わげをはなそう	はなのみち	こんないきみつけたよ	おはな	みいつけた	しらせたいな、見せたいな				どぶつのおんちやん	いいこいっばい！(学生)
算数	①	④	⑤		③	B	②				H	⑥
生活科	がっかふたいすき	たぐさんさいてお きれいにさいてね			いっしょのびんご		あまといっぱい あまのおもちも だいしめこう	あまといっぱい	あまといっぱい	みんないっしょに		もがすぐり学生
関係機関	A	老人会 芋苗植え	B				C	D	教育所	地域及び各親 団体	E	G
道徳	たのしいかっこ	B	うちのきんぎょ				ぼくにできること	きもちよくあそびます	たけとくはつくり		少年生 がなつてB	
図工		しぜんとながよし										こころをこめて フレンド
音楽												
学校行事		祭りの 遠足					生活科 見学	学習発表会	収穫祭	朝！甲体朝人 学		6年生を送る会

内容・目標

目標内容	内容・目標
① 2人で話す、聞く。	A 愛校心
② 自然にかけかわり、気づいたことを書き、発表する。	B 御植物を大切にする。
③ グループで話す、聞く。	C 自分にできることをがんばる条件。
④ 発表の仕方、聞き方。	D 礼儀正しく、きもちよいあいさつをしてお返えしよう。
⑤ たずねたり、応答したりする。	E 友だちや自然にかかわり、自分の思いを表現する。
⑥ 理由を付けて自分の考えを言う。	F 自分の思い、や願いを工夫して活動する。
⑦ 様々なゲームに必要な技術を集め実践したことを書き、伝える。	G 今までの経験を生かして工夫して活動するともに生活にも生かしてい。
	H 成長に気づく。

第2学年	岡山市立第三藤田小学校 ESDカレンダ―											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	かんさつ名人 にならぶ	あつたらいいな	あつたらいいな	あつたらいいな	あつたらいいな	あつたらいいな	あつたらいいな	あつたらいいな	あつたらいいな	あつたらいいな	あつたらいいな	あつたらいいな
算数												
生活科	おいしくなで わたしのやさい	おいしくなで わたしのやさい	おいしくなで わたしのやさい	おいしくなで わたしのやさい	おいしくなで わたしのやさい	おいしくなで わたしのやさい	おいしくなで わたしのやさい	おいしくなで わたしのやさい	おいしくなで わたしのやさい	おいしくなで わたしのやさい	おいしくなで わたしのやさい	おいしくなで わたしのやさい
図画・工芸	おひさん こんには	おひさん こんには	おひさん こんには	おひさん こんには	おひさん こんには	おひさん こんには	おひさん こんには	おひさん こんには	おひさん こんには	おひさん こんには	おひさん こんには	おひさん こんには
音楽												
外国語												
総合												
体育												
芸術												
情報												
特別												
その他												

内容・心構え	関連内容
① 丁寧に観察し、気づいたことをメモすることを目指す。	A きもものよいよいきつ、言葉遣い、動作を心がける。
② 事物の説明をしたり、説明を聞いて感想を述べる。	B 身近な自然に親しみ、積極的に楽しむことを目指す。
③ 構成を考えて、紹介文を書く。	C 郷土の文化や生活に親しみ、愛着を持つ。
④ 説明の仕方を考える。	D 公共の場では、約束やまじりを守る。
⑤ 互いの話を聞き、話順に合わせて話し合う。	E 友達と仲よくし、助け合う。
⑥ 自分の気持ちを伝える。	F 地域の人のつながり。
⑦ 経験したことを、構成を考えながら書く。	

第3学年	岡山市立第三藤田小学校 ESDカレンダー											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語		① よい聞き手になろう	② 気にならぬ記事 縦書きの書き方							しりとりからわ かったことを発 表しよう	水で潤ってほしくよ う	
社会	たんけんしゅっぱつ 字区の様子	①					入々のぐらしをささるしごと			④ みんなに語る昔と今の くらしのつがひがわり		⑥
算数	A					B				④ 水と グラフ		
理科	たねを まこう	B	どれぐらい育っ たかな			C	育ちが調べよう			③		
総合		三藤のお宝って何だろう?					レンコンのみみつきをさぐる					三藤のお宝発見!
関係機関		いらご 農家	玉ねぎ農家			D	れんこん農家					JA女性部
道徳												
音楽												
学校行事												

課題	問題内容	指導内容
①	話の題意	A 字区について知る。
②	縦書きの書き方	B 植物の育ちを知る。
③	字の見方、書き方	C 植物の育ちを知る。
④	資料からわかったことの発表の仕方	D 郷土に根しよ。
⑤	史料写真や図鑑の使い方	E 入々のぐらしをささる仕事をしよ。
		F ぐらしを支える仕事をしよる人に感謝・尊敬の気持ちをもつ。
		G 大玉について知る。
		H ものづくりをしよる人の苦労や工夫
		I 大玉を加工するたよめの昔の道具について知る。

第4学年	岡山市立第三藤田小学校 ESDカレンダー											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	① 正しい字遣い ふましよ ② 調べたことを 報告する文章を 書くこと	③ 新聞を 作る	④ 手と心で読む	⑤ アップとルーズ で 伝える	⑥ 関係職 りマキ の工夫							
社会	A ごみのしまつと応用		『人にやさしいまちづくり』 自然にやさしいまちづくりのために どんなことができるのか調べよう。									
算数	『自然にやさしいまちづくり』 自然にやさしいまちづくりのために どんなことができるのか調べよう。											
理科	『自然にやさしいまちづくり』 自然にやさしいまちづくりのために どんなことができるのか調べよう。											
総合	『自然にやさしいまちづくり』 自然にやさしいまちづくりのために どんなことができるのか調べよう。											
関係機関	⑦ 沼津 クール	⑧ 明和 製紙	⑨ 興陽 高校	⑩ アスエコ	⑪ 興陽 高校	⑫ 岡山一審判	⑬ 市社 会福 祉協 会	⑭ 市社 会福 祉協 会	⑮ 市社 会福 祉協 会	⑯ 市社 会福 祉協 会	⑰ 市社 会福 祉協 会	⑱ 市社 会福 祉協 会
道徳	C みんなの のわす れ物	D 富士 山を救 え	E 不意 なほ くの気 持ち	F オト ビヤム ルール	G 前へ 進もう	H 人にやさしいまちづくり の大切さ	I 人にやさしいまちづくり のために どんな こと が で き る の か 調 べ よ う	J 人にやさしいまちづくり				
音楽	J											
学校行事	PTA 成品 回収						PTA 成品 回収					

内容・心構面

内容	心構面
A	ごみのしまつと活用
B	目の不自由な人
C	ごみのしまつ
D	ごみ問題
E	高齢者や体の不自由な人
F	体の不自由な人
G	体の不自由な人
H	ベリアプリー
I	地域への思い
J	リサイクル

技能面

技能面	指導内容
①	話し合いの仕方
②	アンケートの取り方 報告書のまとめ方
③	新聞の作り方
④	資料の効果的な使い方
⑤	メモの取り方
⑥	折込封筒の作りかき方

第5学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	書いて、きいて、きいてみよう	次への一歩 活動報告書	わたしたちの 図画展改造 発表	インターネット を使って 調べよう	天気や気温を グラフや表を 引出して表そう	平均を出して	意見と交流し、 自分たちができることを考えよう					
社会	米作りのさかんな地域	さまざまな土地のくらし	水産業のさかんな地域	これからの食料生産								
算数												
理科	植物の発芽と成長											
総合	稲田の農業について話し合おう	稲田でテーマを決めて調べ、提案書を作ろう										
関係機関	稲みみ農研の方 農業後継者クラブ	興信高校										
通観	お米のよさを 知ろう(食育)	夏休みの 白川郷										
家庭科												
学校行事												

技能面	内容・心構面
① インクビューワの仕方	A 植物の発芽と成長に必要なもの
② 報告書の書き方	B 現在の米作りの問題点や、それに携わる人たちの努力、工夫
③ インターネットで調べようの注意	C それぞれの土地にあった農業やくらし方の工夫
④ グラフや表の引出しの仕方	D 表が読めるしくみ
⑤ 割合の求め方。それを使ったグラフの書き方。	E 水産業における問題点や、それに携わる人たちの努力、工夫を米作りと比べる
⑥ 一筆の書き方	F 食料生産をよりよくするためのさまざまな取組や、今後の問題点
⑦ 提案書の書き方	G お米のもつよさや日本食のよさ
⑧ 平均の求め方	H 先人の努力に加え、郷土を愛する気もち
⑨ 推測するよさの出し方	I お米の栄養について
	J 先人の努力を知り、郷土を愛する気もち

30年学習	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自決		平報の読み直し しよう	ようこそ おたじろの町 へ	平和について考える								
社会									アジア太平洋に広がる戦争		世界の中心日本とわたしたち	
生徒		①	②	③					資料の読み方	④	A	
科目									①			私たちにできること考える よう
総合												
場合												
問題場面												
活動												
実践科目												
学校科目												
学校科目												

『 幸 せ っ て 何 ？ 』

国際協力実践活動の計画を立てて、実践活動をしよう。

BC

A

BC

BC

G

BC

G

BC

G

BC

G

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

BC

A

BC

平成25年10月9日(木) 3校時 指導者 4年担任 藤澤正宏

1 単元名 やさしいまちづくり～人にやさしいまちづくり大作戦(福祉)～

2 単元目標

- やさしいまちづくりのためにどんな工夫や配慮があるのかを自分で調べたり、体験したりすることを通して、自分の考えをもつことができる。
(課題解決力)
- 様々な立場の人々の考え方や感じ方や思いを知ることによって、自分にできそうなことを考え行動することができる。
(実践力)
- 体験や交流の中で、相手の気持ちを考えながらかかわることができる。
(かかわる力)
- 自分の考えと友だちの考えの共通点や相違点を考えながら話し合いをすることができる。
(コミュニケーション力)

3 研究テーマとの関連

本校の研究テーマ「人・社会・自然など自分とのつながりに関心を持ち、主体的にかかわろうとする子どもの育成」にせまるために、次のようなことを工夫していく。

(1) 自分とのかかわり

「調べたことを整理して自分の考えをもつことができる」ための工夫

- ・ 「人にやさしいまち」について常に振り返ることによって、「こんなまちがいい」「こんなまちになってほしい」という考えを確認させ、「何のために調べたのか」「何のために話し合っていくのか」「今の活動や学習がどうつながっているのか」「これから何をしていけばいいのか」を明確にさせる。
- ・ 福祉体験などの体験活動を通してもった考えや思いを、自分の身近な問題として捉え、より具体的な課題がもてるように、実際に学区と岡山中心部を自分の目で見て、どのような工夫や配慮がなされているかなどを調べ、問題点を話し合うようにさせる。
- ・ 「お年寄り」「子ども」「障がい者」「それ以外の人」という4つの立場で整理することで、みんなの願いはよく似ていることもあるし、その立場特有の願いもあることに気づかせ、やさしいまちづくりのために深く考えることができるようにする。

(2) 他者とのかかわり

「互いの考えの共通点や相違点を考えながら、話し合うことができる」ための工夫

- ・ 福祉体験や課題解決の場を通して、様々な年齢や立場の人の考え方や感じ方に触れることによって、お互いに思いやったり協力したりすることの大切さに気づくことができるようにする。
- ・ 施設・設備の面だけでなく、人と人とのつながり(心のバリアフリー)の面からも、課題追求できるようにする。
- ・ 取材したり体験したりしたことを具体的に話しながら自分の考えを発表させたり、付箋を用いて自分の考えを発表したりすることによって、わかりやすく伝えると同時に友だちの考えと比べながら話し合いができるようにする。

目 標	取材をもとに、誰にとってという立場ごとにグループ分けをすることにより、「誰にとってもやさしいまち」とはどんなまちなのかを考えることができる。	
学習活動	教 師 の 支 援	評 価
1 本時のめあてをつかむ。	○前時までを振り返り、本時は、事前に調べてきたことについて、グループで整理し、「やさしいまち」について考えていくことを知らせる。	
誰にとってもやさしいまちとはどんなまちなのだろう？		
2 話し合いの仕方を確認する。	○自分の考えをグループで発表しやすくし、話し合いをスムーズに進めるために、調べてきたことを、事前に付箋に書かしておく。 ○見通しをもって活動させるために、話し合いの仕方を確認する。 ① 1人ずつ発表する。 ② 誰にとってもという立場を書いた画用紙に付箋を貼る。（障がい者・お年寄り・子ども・その他） ③ グループで話し合う。 ④ 話し合ったことを発表する。	
3 グループで話し合う。	○調べてきたことがわかりやすく伝えられるように、 <u>調べたことを書いた付箋を、「どの立場」「どんな場所や場面で」を言いながら画用紙に貼らせるようにする。</u> ○ <u>どの立場にも共通のものがあったり、その立場固有のものがあったりすること</u> に気づくことができるようにするために、 <u>どの立場のことなのか、よく似た意見などは近い場所に集めたり、両方に関係ありそうなことは真ん中に貼ったりするなど付箋を貼る場所の工夫をする。</u>	○取材して調べてきたことをわかりやすく伝えることができた。（観察）
4 話し合ったことを発表する。	○「誰にとってもやさしいまち」をクラスみんなで共有できるようにするために、各グループで話し合ったことを発表させる。	○やさしいまちとは、「誰にとっても」という視点に気づくことができた。（ワークシート・観察）
5 本時のまとめをする。	○本時の振り返りを書かせ、次時では、自分たちが始めに考えた「誰にとってもやさしいまち」と比べ、新しくなった「やさしいまち」について考えていくことを確認する。	

平成25年10月9日(水) 4校時

指導者 5年担任 板倉 真由美

1 単元名 プロジェクト八十八 ～20年後の藤田の米作りについて考えよう～

2 単元目標

- 藤田の米作りのいいところや問題点から自分なりの課題をもち、提案書を作成することを通して20年後の藤田の米作りについて考えることができる。(課題解決力)
- 米作りに携わっている人たちへの取材や交流を通して、米作りのための工夫や努力に気づき、地域に愛着をもつことができる。(かかわる力)
- 作成した提案書をもとに説明や提案をしたり、友だちの考えを聞いて質問や助言をしたりすることができる。(コミュニケーション力)

3 研究テーマとの関連

本校の研究テーマ「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心をもち、主体的にかかわろうとする子どもの育成」にせまるために、次のようなことを工夫していく。

(1) 自分とのかかわり

「調べた事実を関連づけて自分の考えをもつことができる」ための工夫

- ・ 農家の方から、農業のよいところと問題点の両面から話を聞くことで、課題意識をもって学習に取り組めるようにする。
- ・ 「20年後の米作りはどうなっているとよいか」について話し合い、「こうなって欲しい」という自分なりの考えを初めにしっかりとめさせることで、何について調べればよいのか見通しをもち、調べ学習に入れるようにする。
- ・ 学校田やバケツ稲での米作りの実践を調べ学習と平行して行い、調べたことをその実践に取り入れていくことで、そのよいところと問題点を実感できるようにする。
- ・ バケツで違う品種の稲を育て、実際に観察や実験をすることで、考えの根拠となるようにする。
- ・ 地域にフィールドワークに出かけ、米作りに携わっている方たちに直接質問する機会をもたせることで、地域の方の思いや願いにもふれることができるようにする。
- ・ 違う考えをもった友だちや農業後継者クラブの方と考えを交流する機会をもち、「よりよい米作り」には様々な考えや見方があることに気づくことで、更に自分の考えを見直し、米作りについて深く考えることができるようにする。
- ・ 提案書を作成する過程で、友だちどうしで情報交換したり、経験者の6年生にアドバイスしてもらったりする場を設定することで、互いの考えを交流したり、提案書の見直しをしたりできるようにする。

(2) 他者とのかかわり

「目的や意図に応じ、資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすることができる」ための工夫

- ・ 国語「わたしたちの図書館改造提案」や「天気を予想する」で学習したことを活用し、提案書の構成を考え、表やグラフ、写真などを使ったわかりやすい提案書を作成することができるようにする。
- ・ 聞き手にわかりやすい提案書にする必要感をもたせるために、違う考えをもった友だちや農業後継者、保護者、地域の方など、様々な立場の人に提案を説明する機会を設ける。
- ・ ふだん発言しにくい児童が考えを書いて発表しやすいように、また、考えを共有したり、整理したりしやすいように、付箋を利用する。

<p>目標</p>	<p>フィールドワークで調べたことを情報交換しあうことで、提案書の資料の見直しをしたり、友だちと考えを交流したりすることができる。</p>	
<p>学習活動</p>	<p>教師の支援</p>	<p>評価</p>
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○本時はグループでフィールドワークで調べたことを情報交換し、提案書に載せる資料の見直しをすることを知らせる。</p>	
<p>互いに調べたことを情報交換して、提案書の資料の見直しをしよう。</p>		
<p>2 話し合いの仕方について確認する。</p>	<p>○教師が話し合いのモデルを示すことで、話し合いの進め方や、何について話し合うのかの見通しがもてるようにする。</p>	
<p>3 グループで話し合いをする。</p>	<p>○<u>グループは、調べた情報が共有しやすいように、似た提案をする児童で構成し、意図的に違う場所へ取材に行った児童を組み合わせることで、多くの情報が得られるようにする。</u></p> <p>○あらかじめ、提案書のレイアウトを書いたワークシートを準備させておき、どんな資料を使おうとしているかが視覚的にわかるようにしておく。</p> <p>○始めに、提案書の構成と何の資料を使おうとしているかを説明させることで、足りない情報や新しい情報を交換しやすくする。</p> <p>○付箋を用意し、貼りながら情報交換することで、グループ全員が意見を言ったり、話し合いやすくしたりする。</p>	<p>○友だちと互いに調べてきたことについて情報交換することができた。 (観察・付箋)</p>
<p>4 情報交換をもとに、提案書に載せる資料と表現の仕方を見直す。</p>	<p>○「わかりやすい資料」とはどんな資料なのかを確認し、次の2つの観点から資料の見直しができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>①伝えたいことに合った資料になっているか。 ②わかりやすい表現の仕方になっているか。 例 表、グラフ、写真、ランキング 等</p> </div> <p>黒板に掲示することで、常に意識できるようにする。</p> <p>○ワークシート上で、付箋を操作し整理することで、<u>自分の提案書を見直しやすくする。</u></p> <p>○友だちからの情報を参考に、資料をとりかえたり付け足したりしてもよいことを助言する。</p>	<p>○友だちとの情報交換をもとに、2つの観点に沿って提案書の見直しができた。 (ワークシート・観察)</p>
<p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>○ワークシートに活動の振り返りを書かせ、本時のまとめをする。</p>	

平成25年10月9日(水) 2校時

指導者 6年担任 菅井 憲人

1 単元名 「幸せって何？」(国際理解)

2 単元目標

- 世界の国々の現状や諸問題を学習することにより、自分のことや自分の生活のことに気づき、その気づきを自分の生活に活かそうとすることができる。(実践力)
- 世界中の人々とのつながりを意識しながら、友だちや家族、地域といった自分に身近なところに働きかけ、自分ができる活動をすることで、世界への関心を広げることができる。
(かかわる力)
- つねに自分の考えや思いをもち、互いの立場や意図をはっきりさせながら、話し合うことができる。
(コミュニケーション力)

3 研究テーマとの関連

本校の研究テーマ「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心をもち、主体的にかかわろうとする子どもの育成」にせまるために、次のようなことを工夫していく。

(1) 自分とのかかわり

- 「学習を通して培った考えや思いを今までの自分の生活と重ねて考えたり、『これからどうあればよいか』など、自分のかかわり方を考えたりして生活に活かすことができる。」ための工夫
- ・ 自分と同じ世代のカンボジアの子どもたち(ニューチャイルドケアセンター)と1年間続けて交流をすることで、より相手を身近に感じ、進んでかかわりたいという気持ちをもてるようにする。
 - ・ アンコールワット国際ハーフマラソン出場選手やカンボジア留学生の人たちから、カンボジアの生活の様子や学校の施設等についてのお話をさせていただく機会を設けることで、日本との違いに気づき、今の自分の生活と重ねて考えることができるようにする。
 - ・ 支援活動を行った後、アフリカ(ユニクロ支援事業)やカンボジア(ハートオブゴールド支援事業)での様子を聞き、相手とつながる喜びを実感することで、今後も継続的に自分たちにできる活動を考えたり、自分の生活を振り返ったりすることができるようにする。
 - ・ 単元全体を通して、絶えず「幸せの価値観」について考えさせることにより、自分の中の幸せの価値観の変化に気づくことができるようにする。

(2) 他者とのかかわり

「互いの立場や意図をはっきりさせながら、話し合うことができる。」ための工夫

- ・ 「相手が喜んでくれる」という観点をもとに自分がしたい活動(ハートオブゴールドを通じてのカンボジア支援活動)やその理由・方法などを考えさせることにより、互いの立場や意図をはっきりとさせて友達と活動のよいところと難しいところを話し合い、活動を見直すことができるようにする。
- ・ 自分が考えた支援活動をハートオブゴールドアジア事務所の方にウェブカメラを使って相談する機会を設けることで相手の立場や気持ちを理解することができるようにする。
- ・ 異なる支援活動を考えている児童を組み合わせることで、活動の話し合いを行うことで、いろいろな考えにふれ、自分がしたい支援活動の見直しができるようにする。

目 標	自分が考えた活動（ハートオブゴールドを通じてのカンボジア支援活動）の良いところと難しいところについて友達と話し合うことにより、自分の活動を見直すことができる。	
学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価
1 前時を振り返り、本時のめあてをつかむ。	○本時は自分が考えた活動の良いところと難しいところについて友達と話し合い、自分の活動を見直すことであることを確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 自分の考えた活動の「良いところ」と「難しいところ」を友達と話し合っ、自分の活動を見直そう。 </div>		
2 自分の活動を友達に紹介し、友達の「よいところ」と「難しいところ」を考え、話し合う。	<p>○はじめに、教師が具体的な活動の例を示し、話し合いの観点について児童に考えさせることにより、本時の活動の見通しをもてるようにする。</p> <p>○事前に、活動したいことやその理由、相手や方法を考えて書かせておくことにより、話し合い活動をスムーズに行うことができるようにする。</p> <p>○話し合いの時に、友達からいろいろな意見を出してもらうために、あえて自分の活動の良いところと難しいところは発表しないようにする。</p> <p>○活動の「良いところ」や「難しいところ」を色分けされた付箋に書くことにより、考えを見直しやすくする。</p> <p>○意図的に異なる活動を考えている児童を組み合わせることにより、客観的に「良いところ」や「難しいところ」が見つけられるようにする。</p>	○友達の考えた活動の「良いところ」「難しいところ」について考えることができている。 （観察・付箋・発表）
3 友達の意見をもとに自分が考えた活動を見直す。	<p>○「喜んでもらえる」「実現可能」という2つの観点から活動を見直すことで、相手意識をもった活動になるようにする。</p> <p>○最初の考えや理由を書いたワークシートを続けて使うことで、自分の考えの足あとが残るようにする。</p>	○友達の意見をもとに自分の活動を見直すことができる。 （観察・発表・ワークシート）
4 見直した活動を紹介する。	○見直した活動を話し合うことで、友達の新たな考えにふれることができるようにする。	
5 本時のまとめをする。	○ワークシートに本時の振り返りを書かせ、本時のまとめとする。	

としてまわりに働きかけながらが自分ができる活動しようとする(実践力) ESD ⑦ (資力) ESD ⑧ (実践力) ESD ⑨ (実践力) ESD ⑩ (実践力) ESD ⑪ (実践力) ESD ⑫ (実践力) ESD ⑬ (実践力) ESD ⑭ (実践力) ESD ⑮ (実践力) ESD ⑯ (実践力) ESD ⑰ (実践力) ESD ⑱ (実践力) ESD ⑲ (実践力) ESD ⑳ (実践力) ESD ㉑ (実践力) ESD ㉒ (実践力) ESD ㉓ (実践力) ESD ㉔ (実践力) ESD ㉕ (実践力) ESD ㉖ (実践力) ESD ㉗ (実践力) ESD ㉘ (実践力) ESD ㉙ (実践力) ESD ㉚ (実践力) ESD ㉛ (実践力) ESD ㉜ (実践力) ESD ㉝ (実践力) ESD ㉞ (実践力) ESD ㉟ (実践力) ESD ㊱ (実践力) ESD ㊲ (実践力) ESD ㊳ (実践力) ESD ㊴ (実践力) ESD ㊵ (実践力) ESD ㊶ (実践力) ESD ㊷ (実践力) ESD ㊸ (実践力) ESD ㊹ (実践力) ESD ㊺ (実践力) ESD ㊻ (実践力) ESD ㊼ (実践力) ESD ㊽ (実践力) ESD ㊾ (実践力) ESD ㊿ (実践力) ESD 1 (実践力) ESD 2 (実践力) ESD 3 (実践力) ESD 4 (実践力) ESD 5 (実践力) ESD 6 (実践力) ESD 7 (実践力) ESD 8 (実践力) ESD 9 (実践力) ESD 10 (実践力) ESD 11 (実践力) ESD 12 (実践力) ESD 13 (実践力) ESD 14 (実践力) ESD 15 (実践力) ESD 16 (実践力) ESD 17 (実践力) ESD 18 (実践力) ESD 19 (実践力) ESD 20 (実践力) ESD 21 (実践力) ESD 22 (実践力) ESD 23 (実践力) ESD 24 (実践力) ESD 25 (実践力) ESD 26 (実践力) ESD 27 (実践力) ESD 28 (実践力) ESD 29 (実践力) ESD 30 (実践力) ESD 31 (実践力) ESD 32 (実践力) ESD 33 (実践力) ESD 34 (実践力) ESD 35 (実践力) ESD 36 (実践力) ESD 37 (実践力) ESD 38 (実践力) ESD 39 (実践力) ESD 40 (実践力) ESD 41 (実践力) ESD 42 (実践力) ESD 43 (実践力) ESD 44 (実践力) ESD 45 (実践力) ESD 46 (実践力) ESD 47 (実践力) ESD 48 (実践力) ESD 49 (実践力) ESD 50 (実践力) ESD 51 (実践力) ESD 52 (実践力) ESD 53 (実践力) ESD 54 (実践力) ESD 55 (実践力) ESD 56 (実践力) ESD 57 (実践力) ESD 58 (実践力) ESD 59 (実践力) ESD 60 (実践力) ESD 61 (実践力) ESD 62 (実践力) ESD 63 (実践力) ESD 64 (実践力) ESD 65 (実践力) ESD 66 (実践力) ESD 67 (実践力) ESD 68 (実践力) ESD 69 (実践力) ESD 70 (実践力) ESD 71 (実践力) ESD 72 (実践力) ESD 73 (実践力) ESD 74 (実践力) ESD 75 (実践力) ESD 76 (実践力) ESD 77 (実践力) ESD 78 (実践力) ESD 79 (実践力) ESD 80 (実践力) ESD 81 (実践力) ESD 82 (実践力) ESD 83 (実践力) ESD 84 (実践力) ESD 85 (実践力) ESD 86 (実践力) ESD 87 (実践力) ESD 88 (実践力) ESD 89 (実践力) ESD 90 (実践力) ESD 91 (実践力) ESD 92 (実践力) ESD 93 (実践力) ESD 94 (実践力) ESD 95 (実践力) ESD 96 (実践力) ESD 97 (実践力) ESD 98 (実践力) ESD 99 (実践力) ESD 100 (実践力)

児童の学習活動	児童の意識の流れ	他教科との関連	その他
<p>テーマ 「いろいろな国の現状を知り、その問題について考えてみよう。」</p> <p>○ 幸せについて考える。 ○ 世界の子どもの現状を知る。 ○ DVDや本「世界がもし100人の村だったら」・感想や疑問をまとめる。 ○ HG 義足ランナーの話を聞く。 ○ ハートオブゴールド (HG) 代表田代さんの話を聞く。 ○ HG の活動について知る。 ○ 昨年度の物資支援活動について知る。 ○ 世界の状況やカンボジアの人たちの生活の様子を知る。 ○ UNIQLO「服のチカラプロジェクト」について話を聞く。 ○ 世界の衣料に関する問題について知る。 ○ 「服のチカラプロジェクト」の取組について知る。 ○ HG 施設 NCCC の子どもたちとの交流 ○ お揃いのミニサングラスやシューズを作り、送る。 ○ NCCC の子どもたちとウェブカメラで交流を行う。</p>	<p>・幸せ (友だちや家族がいるから、安心で安全な生活だから、笑い合えるから) ・幸せ (お金がないから、ほしいものが手に入らないから) ・幸せ (食べ物や住む場所があるから、この国より前のことなんだから?) ・他も奪われず、学校にも行けず、働く子どももいる。 ・他の国の人と比べると、今の自分の幸せ。 ・戦争に巻き込まれる子どももいる。 ・子どもだけで生活している人もたくさんいる。 ・施設に活動している人たちに話を聞いてみよう。 ・自分たちにとって当たり前のことが、カンボジアでは普通ではない。 ・学校では生徒が860人もいるのにボールが1個しかない。 ・子どもの写真は、みんな笑顔でうれしそう。 ・カンボジアのために自分たちも何かしたい。 ・HG の人はカンボジアを幸せにしている。 ・衣類にはいろいろな働きがあるんだ。服が着れず衛生的な生活が送れない人がたくさんいる。 ・UNIQLO の活動に私たちも参加したい。</p>	<p>道徳「世界がもし100人の村だったら」 「難民に思いをよせて」 国語「学級討論会をしよう」 ※インターネットの検索の仕方を知ろう HG UNIQLO NCCC 国語「ようこそ、わたしたちの町へ」 道徳「今君たちに伝えたいこと」 「絶望の中で見つけた光」 国語「平和について考える」 道徳「この手に命をうけて」 「太平洋の乗っ取り」 社会「アジア太平洋に広がる戦争」 算数「資料の調べ方」 HG 第三藤田小学校 藤田公民館 など 家庭科「考えようこれからの生活」 社会「世界の中の日本と私たち」 理科「私たちにできることを考えよう」</p>	<p>児童の意識の流れ</p>
<p>テーマ 「カンボジアの人に喜んでもらえる活動を、自分たちで考えて、実践しよう。」</p> <p>○ 国際協力実践活動の計画を立て、実践活動を行う。 ○ UNIQLO「服のチカラプロジェクト」に参加する。 ○ HG カンボジア第1回支援活動 (NCCCへタオル・石けん・歯ブラシ) を行う。 ○ NCCC の子どもたちとオンラインネットワークを通じて交流する。 ○ 支援活動の方法を実践し、学ぶ。 ○ 第1回支援活動を振り返る。 ○ 主な物資支援活動をしたか考える。</p>	<p>・カンボジアとつながった。友達ができた。喜んでくれてとてもうれしい。 ・NCCC の子どもたちも清潔な生活が送れていないんだ。何か助けてあげられないのかな? ・HG やユニクロが行っている活動に参加したい。 ・タオル・石けん・歯ブラシが少ないみたいだからカンボジアへ物資支援をしよう。 ・衛生的な生活をするために服を集めよう。 ・自分たちしやなかなかな集まらないからいろいろな人へ呼びかけて協力してもらおう。 ・服を集めたら、歯ブラシ、タオル石けんを運ぶことで清潔な生活を送って欲しい。 ・今回はHGやUNIQLOの活動に参加させてもらえたらいいね。もうみんな困っていないのかな? ・サングラスやボールが足りないって言ってた。 ・体育の道具がない。 ・今回はカンボジアに必要なものを支援したね。今度はあったらうれしいものを支援しよう。 ・もし自分がカンボジアで生活していたらこの活動は喜ぶだろうか? ・ボール (夢を実現してほしいから) ・文房具 (書くものがあれば、勉強をできて喜んでもらえるから。) ・手紙 (手紙をつけたらよりよくなるから。) ・ボールや日本産カニなど喜んでくれるかな? HG の方に聞いてみよう。 ・近隣の学校や施設にも呼びかけよう。</p>	<p>道徳「この手に命をうけて」 「太平洋の乗っ取り」 社会「アジア太平洋に広がる戦争」 算数「資料の調べ方」 HG 第三藤田小学校 藤田公民館 など 家庭科「考えようこれからの生活」 社会「世界の中の日本と私たち」 理科「私たちにできることを考えよう」</p>	<p>児童の意識の流れ</p>
<p>テーマ 「カンボジアの人に喜んでもらえる活動を、自分たちで考えて、実践しよう。」</p> <p>○ 第2回支援活動を考える。 ○ 1回目の活動をもとに、2回目の活動をどのようにしていくか考える。(本陣) ○ 話し合ったことをもとに活動内容を決めて、実践していく。 ○ HG 事務局の方の話を聞き、第2回の支援活動を決定し、行う。 (文化、生活、学校生活、体育について、子ども) ・自分たちが考えた活動がカンボジアの人たちに喜んでもらえるかどうかHG事務局に質問する。 ・第2回支援活動 (なわとび、バレーボール) を行う。</p>	<p>・2回目の支援活動を行ったけど、この活動はどんな意味があったのかな? ・自分たちの得意な範囲でやったことがこんな形で役に立つなんてうれしい。 ・自分たちのがんばった物資が届いてうれしくてまだ世界には困っているところがある。 ・たくさんさんの感想をもらってよかった。</p>	<p>道徳「この手に命をうけて」 「太平洋の乗っ取り」 社会「アジア太平洋に広がる戦争」 算数「資料の調べ方」 HG 第三藤田小学校 藤田公民館 など 家庭科「考えようこれからの生活」 社会「世界の中の日本と私たち」 理科「私たちにできることを考えよう」</p>	<p>児童の意識の流れ</p>
<p>テーマ 「カンボジアの人に喜んでもらえる活動を、自分たちで考えて、実践しよう。」</p> <p>○ HG の方との交流会 ○ 届けたい物資等の準備などをしていただく。 ○ HG 留学生にカンボジアでの生活や日本の生活との違いやお互いの良さや問題についてお話ししていただく。 ○ その活動が自分たちにとってもできるものか考える。 ○ 今後も継続的に載ることができればいいな。 ○ 実践を文・写真や映像を活用して分かりやすくまとめ、5年生や地域の大人に伝える。</p>	<p>・自分たちの得意な範囲でやったことがこんな形で役に立つなんてうれしい。 ・自分たちのがんばった物資が届いてうれしくてまだ世界には困っているところがある。 ・たくさんさんの感想をもらってよかった。</p>	<p>道徳「この手に命をうけて」 「太平洋の乗っ取り」 社会「アジア太平洋に広がる戦争」 算数「資料の調べ方」 HG 第三藤田小学校 藤田公民館 など 家庭科「考えようこれからの生活」 社会「世界の中の日本と私たち」 理科「私たちにできることを考えよう」</p>	<p>児童の意識の流れ</p>

岡山市立藤田中学校



岡山市立藤田中学校

1 藤田中学校のESDの特徴

藤田地区は、19世紀末以来児島湖を干拓してできた地域である。将来に展望が持てる藤田地区をつかっていくためには、環境の保全と回復とともに、地域の特色を見直し、地域での世代を超えた交流が必要である。また、地域だけでなく、岡山、日本、世界など広い視野を持った生徒を育成したいと考えている。

(1) 地域に目を向けた生徒の育成のために

- ①地域の自然・歴史・文化の学習を通して環境や世代間の公平をめぐる問題の背景等を理解する。
- ②興陽高校の生徒を講師にして草花を育てる「花いっぱい運動」を地域住民と協力して実施する。
- ③ボランティア活動として地域の祭りの運営に携わり、生徒会活動の一環として藤田公民館主催の「親子ふれあい理科教室」の運営スタッフとして活動する。

(2) 広い視野を持った生徒の育成のために

- ①1年生が南支援学校と交流を行い、人権教育をすすめる。
- ②2年生で学ぶ広島平和研修と3年生で学ぶ長崎平和研修を通して、原爆の恐ろしさ、戦争の怖さ、平和の尊さを体感して、世界中の人たちといっしょに活動する。

2 本校ESDの全体計画

(1) 「職場体験」プロジェクト (実践例 No1)

つきたい力

・未来像を予測して計画を立てる力
・他者と協力する態度

2年生が3日間地域の職場分かれて、様々な仕事の体験を積む。

(2) 「花いっぱい運動」プロジェクト (実践例 No2)

つきたい力

・コミュニケーションを行う力
・他者と協力する態度

授業外の活動として学年を超えて有志による活動を行う。

5月に、藤田公民館の協力を得て、生徒会が主催する「花いっぱい運動」を展開する。

11月には、本校を舞台に3日間にわたって、興陽高校生徒、地域住民といっしょに地域を彩る花を植えたり交流活動をしたりする「花いっぱい運動」に取り組む。

(3) 地域社会や公民館主催の活動への主体的・共同的参画

つきたい力

・コミュニケーションを行う力
・責任を重んじる態度

- ① 授業外の活動として学年を超えて有志による活動を行う。公民館を会場に、生徒会主催の「親子ふれあい理科教室」を年6回実施し、スタッフの一員として参加する。(実践例 No3)
- ② 地域の祭り(どんぶらこ収穫祭、藤田ふれあい祭りなど)の運営スタッフとして参加する。(実践例 No4)
- ③)
- ④ 文化委員会が地域の小学校を訪問して児童に読み聞かせを行う。
- ⑤ 2年生が、出身小学校へ行って、正門に立ち、朝のあいさつ運動に参加する。

(4)人権教育プロジェクト

つきたい力

・コミュニケーションを行う力
・つながりを尊重する態度

1年の総合的な学習の時間に取り入れる。

1年生 12月：南支援学校との交流を行う。

(5)平和学習プロジェクト

つきたい力

・批判的に思考・判断する力
・つながりを尊重する態度

2年生、3年生の総合的な学習の時間に取り入れる。

2年生 10月：原爆について学習しオープンスクールで発表する。

2年生 11月：広島を訪れ、原爆の恐ろしさ、戦争の怖さを学ぶ。

3年生 5月：修学旅行で被災地長崎を訪れ、真の平和について考え国際理解を深める。

3年生 9月：文化祭で中学3年間に学んだことを集大成させて世界に訴える。

3 特徴的なESD事例の紹介

「花いっぱい運動」中学生有志が春と秋にそれぞれ地域を彩る花を地域の人とともに植える。

5月 春の花いっぱい運動（公民館で、はるかのひまわりの種を植える）

11月 秋の花いっぱい運動（中学校で、地域を飾るプランターに季節の花を植える）

成果と課題：花を植え、地域を美しい花で飾って豊かな自然に親しむ態度を養うとともに、地域の人や秋に講師として参加してくれる興陽高校の生徒との交流の場となっており、郷土愛を育てるとともに、世代を超えたつながりを実感する場となった。ただ、有志の参加であるので一部の活動にとどまっております成果をどのように全体に広げていくかが課題である。

4 今年度の成果と課題

① 学校としての成長

活動を通じて地域とのつながりが深まっている。また、教職員にも毎日の教育活動をESDの観点からとらえ直そうとする姿勢がみられるようになった。

② 子どもたちの成長

子どもたちは、地域との交流活動を楽しんでおり、世代間を超えた営みに喜びを見出している。

③ 学校全体として

ESDカレンダーを各教科で検討し、教科を超えて横断的に繋ぐとともにいろいろな場面でESDの考え方を整理しつつある。

1年生での南支援学校との交流学習、2年生での職場体験などに加えて、個人、有志としてもそれぞれがESDの視点を学び生かしていく場面をもっている。ESDの考え方を精神的土台として、学校生活の様々な場面で生かしていくことに来年度も取り組んでいきたい。

【実践例 No1 「職場体験学習」プロジェクト】

(1) 概略

本校第2学年(112人)が、地域の職場(40事業所)で、職場体験学習を行う。従来の職場体験学習との違いは、学習活動の中に、「ESDの視点による職場インタビュー」を取り入れたことである。以下は、具体的な流れである。

(2) 学習活動の流れ

- 4/12(金) 「ESDの視点による職場体験学習」について(学年研修)
- 4/17(水) プロのアナウンサーを招いての「マナー講習会」(学年研修)
- 4/19(金) 「ESDの視点による職場インタビュー」の質問事項の相談(職場ごとの2~9人のグループによる)
- 4/16(火)~4/19(金) 事業所の下見と「ESDの視点による職場インタビュー」に向けて電話によるアポイントメント
- 4/17(水) 事業所の下見と「ESDの視点による職場インタビュー」に向けてインターネットによる事前調べ学習
- 4/22(月), 23(火), 25(水), 26(木)
事業所の下見と「ESDの視点による職場インタビュー」
- 5/13(月)~15(水) 職場体験学習
- 5/16(木)~21(火) まとめ活動として、掲示物と発表会用資料を作成した。ESDとの関係の部分には、本校自作のESDステッカーを貼った。
- 5/24(金) グループごとに、4つ切り画用紙で、廊下掲示(41枚)
- 5/31(金) 活動報告冊子を作成(掲示物をミニチュア化して原稿化)
- 6/29(土) 活動報告冊子を利用して、校内発表会を行う。(学年集会)

(3) 成果

- ① 節電、節水、資源のリサイクル、地産地消、仕事(専門技術)の継承などについて、考えることや実践することは、地球環境を守る取り組みにつながっているということを確認し合うことができた。
- ② 各事業所の仕事の内容を体験すると同時に、職場(事業所)での地球環境を守る取り組みの様子を知ることができた。
- ③ インタビューの中で、ESDについて説明をしなければならない場面が多々あり、インタビューを受けて下さった事業所には、ESDの言葉やその理念が、あまり普及していないということがわかった。
- ④ 「ESDの視点による職場インタビュー」は、地域の事業所の方に対して、ESDの言葉や理念を説明をしたり、伝える場となった。

(4) 考察と課題

(3) ③や④のような成果は、計画の段階では、予想していなかった。当初、事業所における実態調査としてのインタビューであったが、この成果は、よい意味での副産物と言えるのではないだろうか。

また、(3) ③のような実態は、おそらく、事業所だけではなく、藤田地域にも、あるのではないかと想像される。ESDの名前や理念は、報道を通じて、地域に普及させることも大事だが、学校→生徒→保護者→地域のように普及させることも必要かもしれない。

具体的な方法としては、「ESDの視点による職場インタビュー」と同じ質問内容の「ESDアンケート」を作り、保護者に対して事業所と同様に実態調査を実施し、ESDについて考えて頂く機会をつくるのがよいと思われた。

【実践例 No2 「ESD花いっぱい運動」プロジェクト】

全学年対象 有志参加形式

<つきたい力> コミュニケーションを行う力、繋がりを尊重する態度

<内容> 地域の方々・興陽高校の先輩とプランターの土づくりと花の苗の植え替え。

生徒と地域の方々・興陽高校の先輩との交流会。

<日時> 11月26日(火)、27日(水)、28日(木)

<場所> 本校中庭、第2理科室

<参加人数> 藤田中生徒のべ155人、地域の方々40人、興陽高校生徒14人

<ESDの視点を取り入れたところ>

地域住民・興陽高校の先輩といっしょに花を植える活動を通して、郷土愛を育てるとともに、世代を超えたつながりの重視。

<生徒感想>

・ 地域の方と交流して、昔は水が不足して苦労していたことを知りました。簡単に水は手に入らなかったため、水を大切にしていたそうです。地域の方と話ができて楽しかったです。

・ 花の大切さや花の植え方を教えてもらいました。大きくなって農業系に仕事についたら役に立つと思います。

・ 高校への行き方(進路)や自然のことについて教えてもらいました。高校受験の面接に役に立ちそうです。自然の大切さについても知ることができました。高校の先輩と話ができたことや花の植え替えが楽しかったです。

・ 地域の方と話をして楽しかったです。昔の話を聞いたり、お孫さんの話を聞いたりしました。これからの生活や将来に役立てていけそうです。

・ 戦後のことについて教えてもらいました。岡山の歴史について、他県の人に伝えることができます。興陽高校の先輩や第3藤田小学校の先輩と話をしたことが楽しかったです。

地域の方に、昔は井戸を使っていたことを教えてもらいました。今回の交流で知ったことを、将来、自分たちの子供に受けついでいけるとと思います。

<成果と課題>

地域の方々と交流をもつことで、中学生に良いイメージをもってもらうことができている。これからも継続してやっていくことが課題だと思う。また、花いっぱい運動への参加だけでなく、植えた花に水やりを行うなど継続的な取り組みもできるようになってほしい。そして、地域の方や先輩と繋がりをもち、地域の自然環境に触れることで優しい心を育てていきたい。



【実践例No3 「地域社会・公民館活動への参画」プロジェクト】

研究課題「E S Dわくわく親子ふれあい理科教室」 全学年対象 有志参加形式
くつきたい力> コミュニケーションを行う力、つながりを尊重する態度

【長期の教育（活動）目標】

- ・ 地域の誰もが気軽に声を掛け合えるような環境や、教育問題に対する建設的な意見交換の場をつくること。
- ・ 地域社会にあたたかい人間関係をつくり、学校教育・家庭教育・社会教育の機能回復、潜在的な地域教育力の活性化を目指すこと。
- ・ 地域に貢献する若い人材を継続的に育成し、それらの人が社会人になった時に、今度は後輩の人材育成に努めるリーダーに育てる。そして、老若男女が力を合わせて、地域社会のネットワークづくりを推進するコミュニティを創ること。

【単年度の教育（活動）目標】

- ・ ボランティア活動への参加を希望する藤田中学校の生徒が、受講生の親子に対して野外観察会や天体観察会、自然の素材を活かした工作などの指導ができるよう、指導者としての技術や態度などを身に付けさせること。
- ・ 受講生の親子が、講師として活躍するボランティア中学生の姿に共感しながら、地域のすばらしさや人々のつながりの大切さを再確認すること。
- ・ 中学生時代にボランティア講師を務めた高校生が講座に参加し、受講生に対する指導だけでなく、後輩の中学生にアドバイスをするなどして、更なる人材育成を行う環境づくりをすること。
- ・ 岡山市立北公民館で行っている理科教室では、岡山大学の学生がボランティア講師を努め、野外観察会以外にも理科実験講座を担当している。これらの学生が藤田公民館の理科教室に参加して中学生ボランティアや高校生にアドバイスすることのできる環境づくりをすること。
- ・ ボランティア中学生が公民館の理科教室で身に付けた指導力を活かし、学区内の小学校へ出向いて野外観察の出前授業（*）を行うこと。

実践：	平成25年	5月 6日（月）	10:00～12:00	E S D春の野外観察会（予備観察）
		5月11日（土）	9:30～12:30	E S D春の野外観察会（本番）
		8月 4日（日）	10:00～12:00	E S D夏の野外観察会（予備観察）
		8月10日（土）	9:30～12:30	E S D夏の野外観察会（本番）
		8月17日（土）	19:00～21:00	E S D天体観察会
		11月 2日（土）	10:00～12:00	E S D秋の野外観察会（予備観察）
		11月 9日（土）	9:30～12:30	E S D秋の野外観察会（本番）
		<u>（*）11月28日（木）</u>	<u>14:00～15:00</u>	<u>E S D藤田の野鳥観察会</u>

（第一藤田小学校）

		12月14日（土）	9:30～12:30	E S D自然の素材を活かした工作
	平成26年	2月 1日（土）	10:00～12:00	E S D冬の野外観察会（予備観察）
		2月 8日（土）	9:30～12:30	E S D冬の野外観察会（本番）

場所：

野外観察会・天体観察会…岡山市立藤田公民館の大会議室と公民館周辺。

自然の素材を活かした工作…公民館の大会議室。

（*）出前授業…岡山市立第一藤田小学校の理科室と校舎周辺。

参加者：

予備観察会…藤田中学校有志と卒業生有志。

本番…藤田中学校有志と卒業生有志，岡山大学の学生・教授，受講生の親子15家族。

(*)出前授業…藤田中学校1年生有志と，第一藤田小学校6年生の希望者。

E S Dの視点を取り入れたところ

環境や食料問題などを解決する人材育成の視点に立ち，藤田の広大な水田を将来も維持するため，特に「水辺で生活する動植物」にポイントをおいた。



春の野外観察会



夏の野外観察会



天体観察会で稲田教授の講義



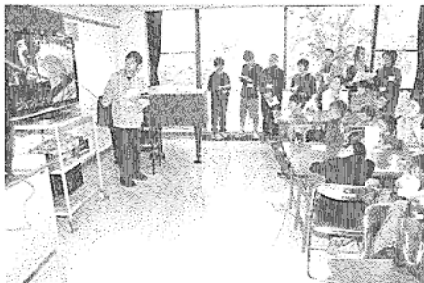
秋の野外観察会



自然の素材を活かした工作



中高生による予備観察会



中学生による観察前の生き物解説



セミ博士クイズ(夏の観察会)



星空博士クイズ(天体観察会)

講師を務めた中学生・高校生の感想

- ・ 自分で調べて教えるのがはじめは緊張したけれど，だんだん楽しくなってきた。この活動は，将来何年先でも役に立つと思う。今後も続けていきたい。(中学1年 男子)
- ・ みんな「楽しかった」「もう終わり？」って言ってくれてうれしかった。次も参加して，みんなが楽しく勉強できるようにしたい。(中学1年 女子)
- ・ フィールドスコープのピントを一瞬で生き物に合わせるのは難しかったけれど，ピントがあったときはうれしく楽しかったです。今後も，ボランティアとして活動したいです。(中学1年 男子)
- ・ 初めての先生役でしたが，子どもたちと楽しく交流できました。雨のために見られる野鳥の種類が少なかったですが，子どもたちがとても喜んでくれたことが一番良かったです。(中学3年 女子)
- ・ 私は中学生の時から参加していて，高校生になって初めての参加でした。高校は勉

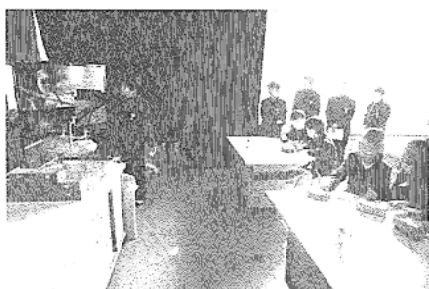
強とかで忙しく、外に出て虫や花を観察することがほとんどなかったので、今日はとても楽しく過ごせました。また、参加します。(高校1年 女子)

受講生(小学生)の感想

- ・今日は、カラスの顔のひょうじょうが見えてよかったです。(高学年 女子)
- ・思ったよりヘクソカズラの花がくさかったので、びっくりしました。(高学年 女子)
- ・コセンダングサであそんでいっぱいくつついて、おもしろかったです。ヤナギタデのはっぱがからかったです。(中学年 男子)
- ・カラスは黒いからだでハーハーしていて、あついのは人間だけではないことがよくわかりました。(高学年 女子)
- ・すごく小さな土星の輪がはっきり見えて、うれしかったです！(中学年 女子)
- ・月のでこぼこの上に、ひげみたいなのがあるのがびっくりしました。(高学年 男子)
- ・大きいぼうえんきょうでみたら、月にいったみたいでした。(中学年 男子)
- ・むずかしかったけど、かわいいものができて、きょうはいいいちにちでした。またきたら、いいものができたらいいな。(低学年 女子)

受講生(保護者)の感想

- ・今年で参加3年目になりますが、毎回新しい発見があり楽しいです。家族で出かける場所も自然観察の場所がずいぶん多くなり、親子で自然について話し合うよいきっかけになっています。(母親)
- ・1年間の講座の中でも、特に子どもたちは今日の工作を楽しみにしていました。今年は、事前に材料集めから取り組めてよかったですと思います。私は、みなさんの作品鑑賞も楽しみで、今年もすばらしい力作を見せてもらえて感動しました。(母親)
- ・大人でも新しい発見があって楽しかったです。地域のことが、子どもと一緒に好きになれます。(父親)
- ・小学生の時に知っていた子が、立派に中学生ボランティアになっていて、うれしかったです。(母親)
- ・回を重ねるごとに中学生のお兄さんお姉さんの説明がわかりやすく、ユーモアあふれる個性的な説明になっていくので、すばらしいなあと感心させられます。次回も楽しみにしています。(母親)



第一藤田小の児童に野鳥解説



小学校の西でアオサギを観察



校門前でハシボソガラスを観察

(*)第一藤田小学校で実施した出前授業(藤田の野鳥観察会)の感想(小学6年生)

- ・中学生の人たちは、優しくていねいに教えてくれました。あまり鳥には興味はなかったけれど、野鳥観察会に参加して興味をもちました。もっと鳥のことを知って、いろんな人にも教えてあげたいと思いました。(男子)
- ・私も中学生になったら、お兄さんたちのようになってみたいと思いました。寒いことを忘れてしまうくらい鳥探しに熱中してしまいました。(女子)
- ・中学生の人がやさしくわかりやすく教えてくださったので、鳥のことがとてもよくわかりました。今回のようにして、みなさんと活動するのもいいと思いました。(女子)

成果と課題：

指導者としての技術や態度を中学生に身に付けさせること、受講生の親子が地域の自然を再認識したり人々のつながりの大切さを再確認することについては、本年度も成果がみられた。

また、卒業生が高校の忙しい日程をやりくりして講座に出席し、先輩講師として中学生にアドバイスしたり援助したりする姿が見られ、人材育成の階段も一歩上ることができた。

北公民館の理科教室に参加している岡山大学の学生は自動車を所有しておらず、遠方の藤田公民館へ来ることはかなり難しかった。それでも、夏の天体観察会に岡山大学大学院の稲田佳彦教授が大型天体望遠鏡といっしょに物理学専攻の学生を連れてきてくださり、アカデミックな雰囲気の講座になった。

中学校区内の小学校へ出向いて行った出前授業は、3つある小学校のうち第一藤田小学校で実施した。野外観察会の講師として小学生の指導をした中学1年生は、昨年まで児童として通っていた小学校で先生役をすることにやや緊張していたが、公民館で実践してきた自信を胸に、立派にやり遂げた。他の2校は日程が調整できなかったため、本年度は実施しなかった。

平成26年4月に23年目を迎える「わくわく親子ふれあい理科教室」：

四半世紀以前より、親が我が子の教育に過度の関心をもっていたり、反対に無関心であったりすることが、社会問題となっている。そこには、私的関心や私的利害に偏り、公のつながりをもちにくい社会意識が存在している。そのような意識が、周囲におかまいなしの自己中心的な子どもを育て、簡単にキレたり、無関心・無感動・無気力な人を増加させる原因になっているともいわれている。

このような社会環境の下で、地域の誰もが気軽に声を掛け合えるような雰囲気づくりをしたり、教育問題に対する建設的な意見交換の場をつくることが求められている。「わくわく親子ふれあい理科教室」では、地域社会にあたたかい人間関係をつくり、学校教育・家庭教育・社会教育の機能回復、潜在的な地域教育力の活性化を目指している。学ぶことは「すばらしい、やりがいがある、幸せなこと」と、まず自分が感じられる体験をし、それを、家族や友人、身の回りの方々などに伝え広められるようにしたいと考えている。

「わくわく親子ふれあい理科教室」は、地域の公民館を拠点にして活動している。そこは、自然公園や博物館・研究施設のように保存・整備された環境ではない。しかし、生活地域内で活動を行うことには、家庭内や近所の共通話題になりやすいという利点がある。一人ひとりが地域の自然の中で、また、そこに暮らす人々の一員として生活していることを意識した学習は、受験競争の手段という位置づけの「学び」を、生きることと有機的に結びつけたかけがえのないものに変えると考えている。「わくわく親子ふれあい理科教室」では、学びの材料として理科を使っているが、理科以外の内容を利用しても、地域教育力を活性化させる同様の活動ができると思われる。

地球規模の環境問題や食料問題などを解決する人材育成を目指すESDと、「わくわく親子ふれあい理科教室」の目的である『地域の誰もが気軽に声を掛け合えるような環境や、教育問題に対する建設的な意見交換の場をつくること。地域社会にあたたかい人間関係をつくり、学校教育・家庭教育・社会教育の機能回復、潜在的な地域教育力の活性化を目指すこと。』の共通点を意識しながら、これからも次世代を担う人材の育成に邁進していきたい。

【実践例 No4 「地域社会・公民館活動への参画」プロジェクト】

祭りのボランティア全学年対象 有志参加形式ボランティア活動
研究課題「藤田第二学区地区民体育大会」

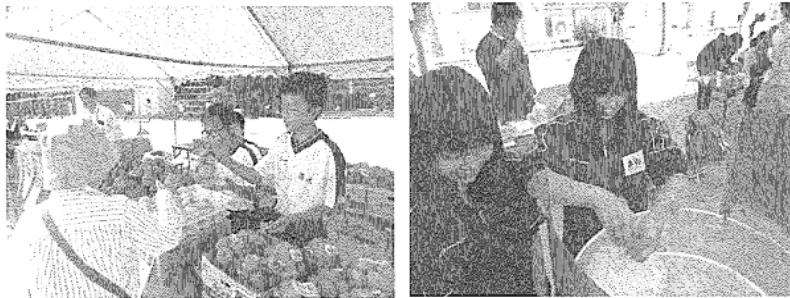


9月22日(日)

岡山市立第二藤田小学校校庭
藤田中学生徒参加人数35人
地域の方の体育大会の手伝い

- ・ 総務
- ・ 放送進行
- ・ 招集誘導
- ・ 審判など

「二藤どんぶらこまつり」



10月13日(日)

岡山市立第二藤田小学校校庭
藤田中学生徒参加人数33人
二藤どんぶらこまつりの出店、
イベントの手伝い
テント設営、撤去

- ・ ポン菓子の袋詰め
- ・ 司会
- ・ ビンゴの手伝いなど

「藤田ふれあい祭り」



12月1日(日)

JA 岡山藤田支所
藤田中学生徒参加人数33人
藤田ふれあい祭りの出店、
イベントの手伝い

- ・ 司会
- ・ 開会行事の手伝い
- ・ うどん販売
- ・ 綿菓子販売など

<つけたい力> 年齢が上の方とのコミュニケーションを行う力
お店の販売などを通してのコミュニケーションの力を
地域の方との繋がりを尊重する態度
ボランティア活動に参加する精神

<成果と課題>

地域の方に必要とされることで、生徒の気持ちも高まり、楽しく活動することができている。地域の方々と交流を通して、中学生がよくやってくれていると好感をもってもらうことができている。これからも継続して、地域との繋がりをもっていくことが大切だと思う。また、地域のイベントに参加することで、将来大人になっても地域のイベントに自然に参加できる意識を育てていってほしいとの地域の要望にも叶うものである。地域の方とのコミュニケーションを通して、ボランティア精神を養っていきたい。

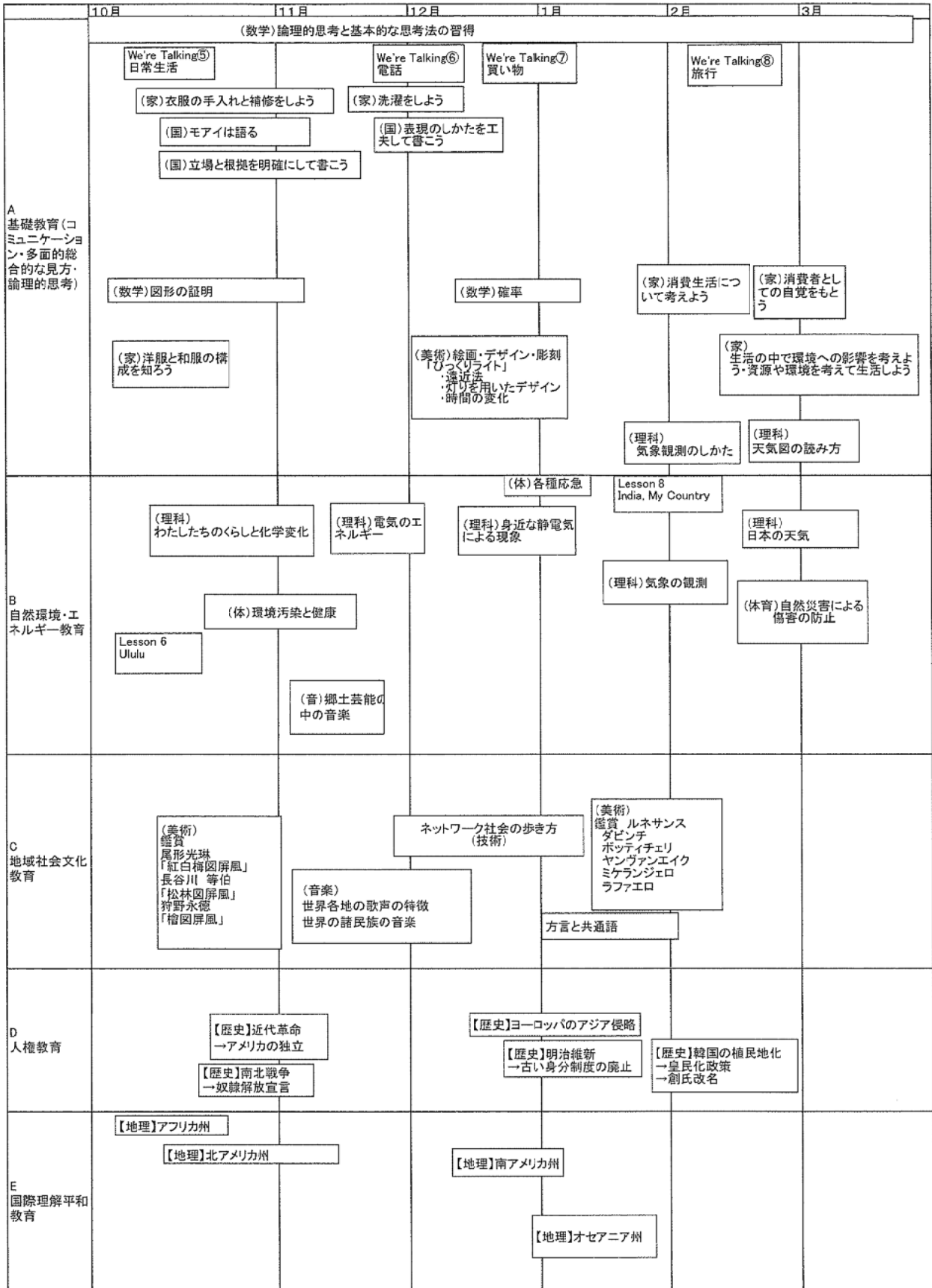
1年生 ESDカレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
A 基礎教育(コミュニケーション・多面的総合的な見方・論理的思考)	<p>【歴史】人類の登場から文明の発生</p> <p>【歴史】宗教の誕生とひろま</p> <p>Lesson 1 I am Tanaka Kumi</p> <p>(美術) 絵画・工芸・デザイン・彫刻 4領域の作品紹介</p> <p>(理科) ルーペ・顕微鏡の使い方</p>	<p>【地理】世界の住居、衣服と変化</p> <p>【地理】宗教と生活のかかわり</p> <p>We're Talking① はじめまして</p> <p>(数学) 正の数・負の数</p>	<p>【地理】世界の食文化と変化</p> <p>We're Talking② 今、何時?</p> <p>(国語) ちょっと立ち止まって</p>	<p>We're Talking③ どこにありますか</p> <p>(美術) 絵画・デザイン「モダンテクニック」</p> <p>(国語) おいしい読書一読書紹介をする</p> <p>(数学) 文字の式</p>		<p>【歴史】中国にならった国づくり</p> <p>【歴史】倭国と朝鮮の関係</p> <p>【歴史】ヤマト政権と仏教の伝来</p> <p>We're Talking⑤ これだれの?</p> <p>(体育) 生命を生み出す体の成熟</p> <p>(数学) 方程式</p>
	(数学) 論理的思考と基本的な思考法の習得					
B 自然環境・エネルギー教育	<p>(理科) 身近な生物を観察しよう</p> <p>【地理】暑い地域のくらし</p> <p>【地理】寒い地域のくらし</p> <p>【地理】乾燥した地域のくらし</p>	<p>(理科) 葉のはたらき</p> <p>Lesson 2 My school</p> <p>【地理】高地のくらし</p>	<p>(理科) 植物の分類</p> <p>(家庭) 私たちと家族・家庭と地域</p>	<p>(理科) プラスチックを区別する</p> <p>(美術) 工芸「寄木細工」エコロジー ユニバーサルデザイン 地域工芸・備前焼</p> <p>Lesson 4 Field Trip</p> <p>(国語) 江戸からのメッセージ</p>		<p>(理科) 物質が水にとけるとは</p> <p>(家庭) 健康と食生活</p> <p>技術開発と環境との関わり(技術)</p> <p>【歴史】古墳の出現 → 造山古墳(岡山市) → 作山古墳(総社市)</p> <p>(家庭) 火を使うときの注意・後片付けのしかた</p>
		<p>(美術) デザイン「レタリング」 「色の整理」 「暖色・寒色の色彩構成」</p>	<p>Lesson 3 I like Kendama</p> <p>(美術) 鑑賞 「風神雷神図 屏風」 依屋宗達</p>	<p>(美術) ポスター制作 ・人権 ・リボン運動 ・国際平和 ・自然との共生 ・エネルギー ・環境 ・地域の風景など</p>		
D 人権教育			<p>(美術) 鑑賞「ノーモアヒロシマ」</p>		<p>(音楽) 物語を歌で表現する芸術 魔王</p>	
E 国際理解平和教育				<p>(国語) 雪とパイナップル</p>	<p>Lesson 5 Our New Friend from India</p> <p>Start Reading My treasure</p> <p>(国語) 大人になれなかった弟たちに</p>	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A 基礎教育(コミュニケーション・多面的総合的な見方・論理的思考)		【歴史】律令国家をめざして 【歴史】大陸の影響を受けた文化 【歴史】芽ばえる日本独自の文化 We're Talking⑥ 何時に起きるの? (体育)思春期の心の変化への対応 (体育)心身の調和と心の健康 ネットワーク社会の歩き方(技術)	We're Talking⑦ 電話をしよう (理科)グラフのかき方 (数学)関数 (数学)平面図形 (数学)空間図形	【歴史】各地で生まれる武士団 【歴史】海をこえてせまる元軍 【歴史】東アジアの新体制と倭寇 【歴史】琉球とアイヌの人々がつなぐ交易 We're Talking⑧ 公園に行こう (美術)鑑賞 印象派 マネ モネ コッホール ゴッホ セザンヌ モネ コーガン スーラ (数学)資料の活用	We're Talking⑨ お昼ごはんを食べよう Let's Read 2 A Girl Saved Many Lives	
	(数学)論理的思考と基本的な思考法の習得					
B 自然環境・エネルギー教育	Lesson6 My Family in the UK エネルギー問題(技術)	(国語)流水と私たちの暮らし	(音楽)日本の伝統音楽 六段の調べ さくらさくら 鶯鷲鈴慕 (理科)火山活動と岩石	(理科)地震と災害 (理科)大地の変動	(家庭)食事の計画 【歴史】宗教改革 【歴史】大航海時代 【歴史】信長・秀吉による全国統一	
C 地域社会文化教育	(体育)考える心 感動する心の発達 (国語)蓬萊の枝 (音楽)旋律のまとまりと構成 主人は冷たい 主の中に	(体育)人との関わりと自分らしさ (音楽)情景と音楽との関わり 春 第1楽章		Lesson9 Four Seasons in Japan (音楽)言葉と歌声との関わり 日本の民謡		
D 人権教育			(K)食品の選択と保存 食品が口に入るまで・ 生鮮食品・加工食品 Lesson7 Wheelchair Basketball		ネットワーク社会の歩き方(技術)	
E 国際理解平和教育	Lesson6 My Family in the UK 【歴史】東アジアの中の倭(日本)	(美術)鑑賞 ピカソ 「ゲルニカ」 「泣く女」		(音楽)アジア音楽の魅力 アジアの諸民族の音楽 (家庭)輸入食品 Lesson8 School Life in the USA	(家庭)受け継がれる食文化 【歴史】イスラムの拡大とヨーロッパの変化	

2年生 ESDカレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
A 基礎教育(コミュニケーション・多面的総合的な見方・論理的思考)	(数学) 論理的思考と基本的な思考法の習得					
	We're Talking① 道案内	We're Talking② 日常生活	Lesson 3 For Our Future	We're Talking③ 学校生活		We're Talking④ 学校生活
	(美術) 絵画・工芸・デザイン・彫刻 4領域の作品紹介	(国) 説明のしかたを工夫しよう	(家) 衣服のはたらきを考えよう	(家) 衣服を選ぼう	(国) 気持ちを込めて書こう	(国) 話し合ってみよう
	(国) 印象に残る説明をしよう	Lesson 2 A Calendar of the Earth	(国) メディアと上手に付	(国) 五重の塔はなぜ倒れ	Lesson 4 Enjoy Sushi	Let's read 1 A Pot of Poison
	Lesson 1 Aloha!	(数学) 連立方程式	(数学) 一次関数	(数学) 図形の合同	(美術) デザイン「構成美の要素」 「立体感のある色彩構成」 ・斜投影図 ・等角投影図 「消しゴムはんこ」	
B 自然環境・エネルギー教育						
C 地域社会文化教育						
D 人権教育						
E 国際理解平和教育						



3年生 ESDカレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
A 基礎教育(コミュニケーション・多面的総合的な見方・論理的思考)	【公民】現代社会と私たちの生活	【公民】わたしたちの生活と文化	【歴史】日中全面戦争 →南京大虐殺			
	(保体)生活の仕方と生活習慣病	【公民】現代社会の見方や考え方		We're Talking3 買い物をしよう	We're Talking4気分転換しよう	(美術)デザイン「構成美の要素」 「立体感のある色彩構成」 ・1点透視 ・2点透視
	Lesson1 My Favorite Word	We're Talking1 道案内をしよう			(保体)喫煙と健康 飲酒と健康	(家庭)幼児の心身の発達の特徴を知ろう
	(家庭)幼いころってどんなだったろう	(家庭)幼児の生活と遊びを知ろう	(美術)絵画「手のデッサン」 「自画像」 参考資料 喜多川歌麿「北国五色墨・切りの娘」 萬鉄五郎「赤い目の自画像」 岸田劉生「礼子微笑」 モディリアーニ「おさげ髪の少女」 フェルメール「青いターバンの少女」 ゴッホ「自画像」 レンブラント「自画像」 ワイエス「ヘルガ」 シーレ「ホオズキの実のある自画像」 フリーダ・カーロ「猿をつれた自画像」		(家庭)幼児の心身の発達の特徴を知ろう	(国語)言葉を使おう
(美術)絵画・工芸・デザイン・彫刻 4領域の作品紹介	プログラミングによる社会生活進化(技術)			(国語)自分の魅力を伝えよう		
(国語)朝焼けの中で	(国語)説得力のある考えを述べよう			(数学)因数分解	(数学)平方根	(数学)二次方程式
					(数学)二次関数	(数学)相似
	(数学)論理的思考と基本的な思考法の習得					
B 自然環境・エネルギー教育	エネルギー問題(技術)	技術開発と環境との関わり(技術)	栽培(技術)		(美術)ポスター制作 ・人権 ・リボン運動 ・国際平和 ・自然との共生 ・エネルギー ・環境 ・地域の風景など	材料の加工(技術)
	(理科)生物の成長と生殖	Lesson2 Finland -Living with Forest	(国語)月の起源を探る		Let's Read1 Learning from Nature	
C 地域社会文化教育	【歴史】世界恐慌とブロック経済	【歴史】満州事変	Lesson3 Rakugo goes Overseas		Lesson4 The Story of Sadako	
	【歴史】ファンズム	(音楽)鑑賞「魂の画家 ゴッホとゴーギャン」	(保体)生活習慣病の予防		【歴史】アジア太平洋の戦い →朝鮮人強制連行	
D 人権教育	(理科)遺伝の規則性と遺伝	(美術)鑑賞「ノーマアヒロシマ」			【公民】人権尊重と日本国憲法 【歴史】ドイツの占領政策 →ユダヤ人虐殺(アウシュビッツ収容所)	
	【公民】基本的人権の尊重	【歴史】共同社会と共生生活 部落差別、アイヌ民族 在日韓国、障害者				
E 国際理解平和教育	(音楽)舞台芸術と音楽 オペラ蝶々夫人	(音楽)日本の心、 イタリアの心を表す歌の味わい 帰れソレントへ	Lesson2 Finland -Living with Forest	(音楽)歌と楽器による表現 Hey Jude	(音楽)名曲の鑑賞ブルタバ	(音楽)世界各地の歌声の特徴 世界の諸民族の音楽
	(国語)握手	【公民】日本の平和主義		(国語)蝉の声		【歴史】第2次世界大戦
						(国語)挨拶

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A 基礎教育(コミュニケーション・多面的総合的な見方・論理的思考)		【公民】現代の民主政治と社会		【公民】国際問題とわたしたち		
			【公民】わたしたちのくらしと経済			
	We're Talking5 バッグを持ちましょか	We're Talking6 玉子料理はいかがですか	We're Talking7 電話をしよう	Lesson8 English for Me	We're Talking8 約束をします	
	(家庭)子どもにとって家族を考えよう			(家庭)住まいのはたらき	(家庭)健康で心地よく住むために	
	(保体)薬物乱用と健康			(保体)保健・医療機関や医薬品の有効利用		(保体)個人の健康を守る社会の取り組み
	(国語)論理の展開に着目して読もう	(国語)ネット時代のコペルニクス-知識とは何か		(国語)聞くということ		(国語)わたしを束ねないで
	(数学)中心角		(数学)三平方の定理	(数学)資料の調べ方		
	(数学)論理的思考と基本的な思考法の習得					
B 自然環境・エネルギー教育		(家庭)子どもが育つ場の広がり		環境にやさしい技術の発展(技術)		
		(家庭)子どもの権利条約		Lesson7 We Can Change Our World	(家庭)安全に住むにはどうしたらよいだろう	
	(理科)仕事とエネルギー	(理科)季節の変化	(国語) デザイン・彫刻 卒業制作「ペーパーウエイト」 エコロジー ユニバーサルデザイン	(理科)科学技術と人間		(理科)自然と人間
C 地域社会文化教育	Lesson5 Houses and Lives	Lesson6 I Have a Dream				
		(音楽)日本の伝統音楽 雅楽 越天楽		(音楽)日本の伝統音楽 能 羽衣		
D 人権教育	(保体)性感染症とその予防	(保体)エイズとその予防	【歴史】日本国憲法		【歴史】世界の一体化と日本の役割 →南北問題、PKO	
	【歴史】日本の降伏 →原子爆弾					
E 国際理解平和教育			Lesson7 We Can Change Our World		Let's Read2 A Moment of Peace	【公民】国際社会と世界平和
			【歴史】国際連合と冷戦 植民地と解放とアジア 平和条約と国際連盟 テタントと冷戦後の世界 →地域紛争	(国語)アラスカとの出会 (国語)温かいスープ		

岡山県立興陽高等学校
岡山市立藤田公民館



+
Education for
Sustainable
Development

岡山県立興陽高等学校

1 はじめに

藤田地区の小学校では、総合的な学習の時間に年間活動計画のもとESD活動を取り入れ熱心に活動している。本校はこの活動を支援、協力するために年に数回この活動を実施している。

2 藤田地区三小学校共通テーマ

「藤田に農業は必要か」

小学校5年生の取り組み。藤田に愛着や誇りを持つことができる。

3 活動の紹介

(1) 環境に優しい農業の実践(環境保全型農業の推進)

○アヒル・アイガモ農法の実践(6～11月)

- ・第一、第二、第三藤田各小学校は5年生での取り組み。
- ・環境教育、地域の持続可能な農業の実践
- ・農業科3年生課題研究班、農業科2・3年生作物類型生徒
- ・栽培実践 約16a専用ほ場 完全有機栽培 アヒル・アイガモ約55羽飼養 品種 朝日
- ・7/12(金) 第三藤田小学校5年生 農業科2年生対応

○興陽菜の花エコプロジェクト

- ・第一藤田小学校は5年生。第三藤田小学校は4年生の「環境学習の取り組み」で参加
- ・植え付け、収穫、搾油を体験。継続的、参加体験型農業の学び
- ・栽培実践 栽培実施(前年9～6月) 畑作50a、水田裏作50a
- ・小学生体験交流活動 於：本校ほ場他
- ・6/13(木)ナタネ収穫体験搾油体験 第一藤田小学校5年生 農業科3年生対応
- ・6/14(金)ナタネ収穫体験搾油体験 第三藤田小学校5年生 農業科3年生対応
- ・11/14(木)ナタネ植え付け体験 第三藤田小学校4年生 農業科3年生対応

(2) フィールドワーク 地域の農業を知る。20年後の農業を考える

第一、第二、第三藤田各小学校は5年生での取り組み。

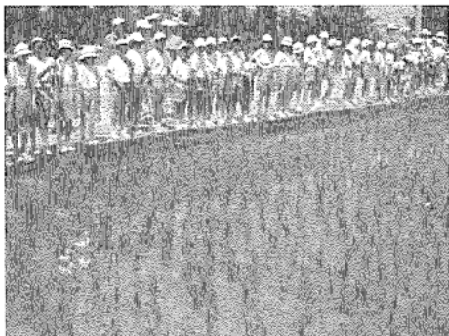
10月2日に小学校で事前学習を行い4日にフィールドワークとして地域農家を訪問し、「地域の農業」を小学生が追求する活動に、本校農業科2年生がサポートスタッフとして参加した。事前交流と農家にインタビューする質問事項も一緒に考えることができた。

- ・第一藤田小学校5年生 ・稲作農家他訪問 農業科2年生対応
 - ・第二藤田小学校5年生 ・稲作農家他訪問 農業科2年生対応
 - ・第三藤田小学校5年生 ・興陽高校へ訪問 農業科2年生対応
- 「稲作についての質問や取り組んだこと。苦労していること」等について

(3) 花いっぱい運動(藤田中学校)花で地域を飾る取り組み。

- ・造園デザイン科1~3年 11/26(火)～11/28(木)
- ・藤田中学校出身の興陽高校生徒でプランタにパンジー、ピオラを中学生と一緒に植付。

<活動の様子>



アヒル農法の学習 (第二藤田小)



アヒル農法の学習 (第二藤田小)



ナタネの収穫体験 (第三藤田小)



搾油体験 (第一藤田小)



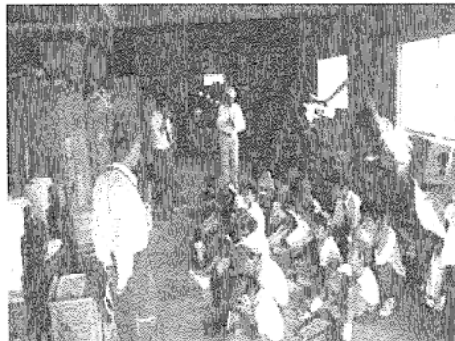
ナタネの植え付け体験 (第三藤田小)



ナタネの植え付け体験 (第三藤田小)



花いっぱい運動 (藤田中)



フィールドワーク (第二藤田小)

岡山市立藤田公民館

藤田地区は児島湾の干拓事業によりできた土地であり、これまで県南の穀倉地帯として地域の特性を生かした農業が展開されてきた。広大な農地から育まれる米、レタス、たまねぎなどの食の豊かさ、そして田園地帯の水辺環境やその環境がつくる貴重な生態系は藤田特有のものである。

住民のなかでも高齢者は、先祖が苦勞して開墾した土地に強い愛着を持っている。一方、子どもや保護者は地域への関心が薄く、地域の持つ豊かさへの理解が低い現状があった。また、近年はミニ開発等でその景観が失われつつあり、地域の持続可能性が懸念されるとともに、近い将来には住民が地域の歴史・文化を理解し愛着を形成することが難しくなるだろうと予見される。

そこで、地域をみつめ、地域の魅力を知ることで郷土愛を育み、それを子どもや若い世代に継承していき、住んでいてよかったと思える地域づくりにつなげていく。

1. 藤田公民館のESD活動の特徴

藤田地区の特性である「水」「農」「食」をテーマに、その特性を生かした学習活動を展開していくことや、郷土を見つめる機会を多く提供していくことで、住民一人ひとりが地域への愛着を持ち、郷土愛を伝承していくための持続可能な地域づくりに向けた人材育成をめざす。

○地域の魅力を知る：水、農、食をテーマにした事業の実施

○人から人への伝承：大人から子どもへ、子どもから子どもへの知のサイクルづくり

○つながりを生かす：地域の情報の収集とつながりづくり

2. 具体的な事業

○わくわく親子ふれあい理科教室

小学生の親子対象の自然観察会。自然環境豊かな「藤田」への愛着形成を図った。中高生のボランティア活動の場。

(年4回の自然観察会・夏は星空観察・秋にクラフト工作)



わくわく親子ふれあい理科教室

○お米と生活

藤田地区は県南有数の米作地帯で、「米」が身近な存在。米にまつわる季節の行事や伝統文化の知恵を学びながら、親子で米に対する関心を高めた。今年は料理をテーマに実施。

(第1回：かしわもち 第2回：月見団子)



花いっぱい運動(5月開催)

○花いっぱい運動

地域の方と中学生と一緒に花を植える活動。中学校花いっぱい実行委員会主催。郷土愛を育て、世代間で交流する機会でもある。5月は公民館に「はるかのひまわり」、11月は各小学校での花植えを行った。

○映像で伝える藤田の魅力

水をテーマに、藤田の生い立ちや暮らしを映像にまとめた。先人の知恵や伝統を継承していくための資料。当館藤田ビデオクラブが撮影・編集。完成後は各学校へ寄贈し、地域学習の教材として活用を依頼した。

○ESD 情報コーナー

公民館 1 階ふれあいコーナーに設置。ESD 関連資料やパンフレット、藤田地区および公民館での活動についても紹介し、ESD の理解を広げた。

- ・ 小学校の ESD の授業紹介の展示
- ・ 中学校の花いっぱい運動の展示
- ・ 雑誌等掲載の小・中・高校の ESD 授業の記事を紹介



第一藤田小学校の壁新聞の展示

○ESD 図書コーナー

ESD のことがわかる本や藤田の特徴である農業・自然に関する本などを、市立図書館の協力で、公民館職員と藤田学区の小・中学校の学校司書が選定した。蔵書数は 1 1 月 1 6 日現在で 6 7 冊。



ESD 図書コーナー

○公民館ホームページ内に ESD のページ作成

URL <http://kouminkan.city.okayama.jp/fujita/esd/index.htm>

○藤田地区 ESD 地域連絡会への参加

小、中、高校と地域が藤田地区の ESD について連絡協議。年度末に児童、生徒、教員が 1 年間の ESD 活動に成果発表を行った。

3. 今後の課題

平成 26 年度にユネスコと日本国政府による「ESD に関するユネスコ世界会議」が岡山市と名古屋市で開催され、公民館に関しては「ESD 推進のための公民館-CLC 国際会議」が開催される。岡山市では公民館を拠点とした「草の根 ESD」とも呼ばれる中学校区での地域を巻き込んだ活動に取り組んでおり、このたび藤田公民館はその国際会議の分科会の 1 会場に選ばれた。公民館も参加している藤田地区 ESD 地域連絡会の取り組みが先進事例として認知されたことが大きいと思われる。

この国際会議に向け、ESD の視点による講座の点検と再構成に取り組み、地域住民の ESD 活動に対する理解促進を図りながら、更なる公民館活動の活性化を進める必要がある。特に、藤田への郷土愛を継承していくための人づくりに向けて、学校教育を支援する人材の育成も視野に入れた取り組みを継続して展開することが課題となる。また、分科会では CLC 関係者などを受け入れる「おもてなし」に対応することが求められており、運営委員・講座生・各種団体・地域住民などと協働で企画・運営していく体制づくりも必要である。

